

津市地域公共交通計画 資料編

令和8年1月

目 次

1. 津市の人口.....	1
(1) 人口の概要.....	1
(2) 人口分布.....	3
(3) 地域別の高齢化	4
(4) 人口の将来推計	6
(5) 通勤・通学の動向	7
2. 津市の施設立地状況.....	11
(1) 医療機関.....	11
(2) 高等学校・大学	13
(3) 商業施設.....	15
3. 津市の交通.....	17
(1) 道路網	17
(2) 鉄道.....	18
(3) 乗合バス.....	26
(4) タクシー	47
(5) 高速船（津エアポートライン）	49
(6) 福祉有償運送登録法人.....	50
(7) その他の移動サービス	51
(8) 運転免許自主返納件数.....	52
4. 観光客入込客数.....	53
5. アンケート結果.....	55
(1) 津市総合計画のための市民意識調査.....	55
(2) 市政アンケート.....	59

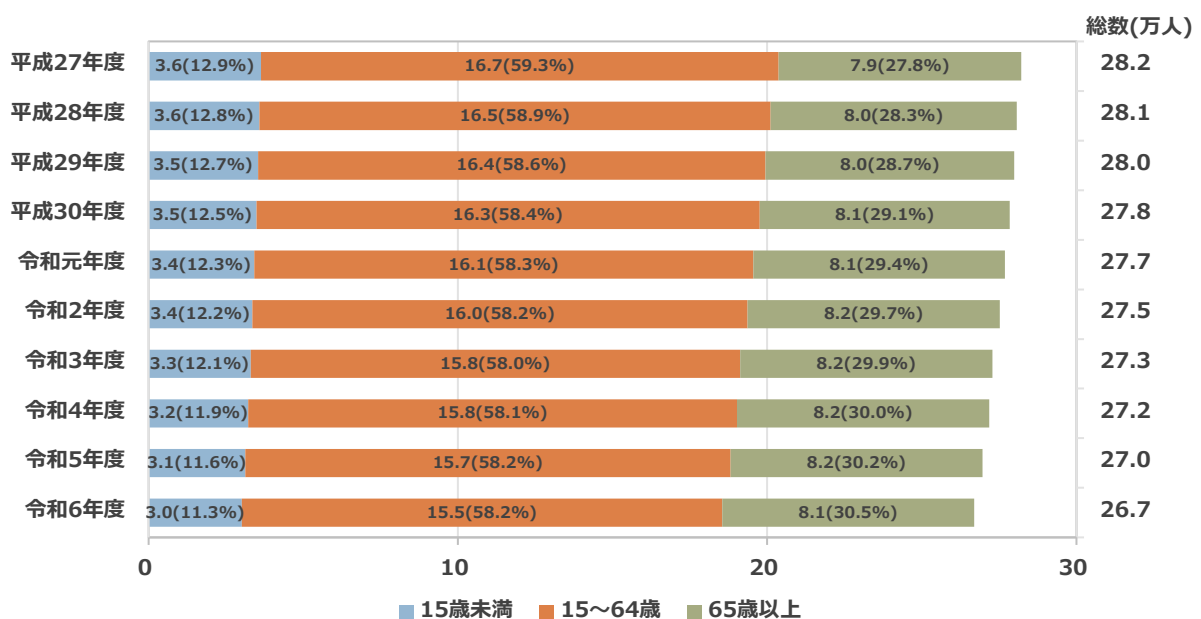
資料編

1. 津市の人口

(1) 人口の概要

津市の総人口は、平成18年1月の合併以降減少していますが、令和6年度末で約26.7万人となっており、三重県の市町では四日市市に次いで多くなっています。

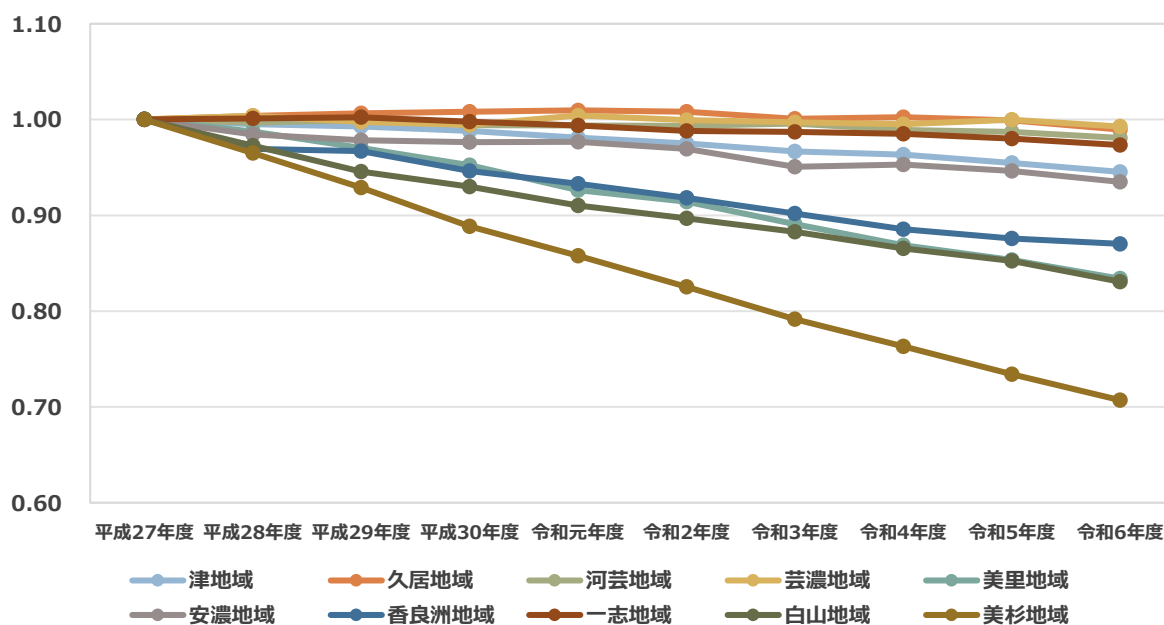
生産年齢人口（15～64歳）、年少人口（15歳未満）共に減少しており、生産年齢人口は、平成27年度に約16.7万人であったものが、令和6年度には約15.5万人に減少しています。



※) 各年度末（3月31日）の人口（外国人を含む）
（出典：住民基本台帳）

図1 津市の年齢3区分別人口の推移

人口の推移を地域別に見ると、平成27年度末の人口を1.00としたとき、令和6年度末では全ての地域で1.00を下回っています。特に美里地域・香良洲地域・白山地域・美杉地域は0.90を下回っており、市内の南西部で人口減少が著しくなっています。



※) 各年度末(3月31日)の人口(外国人を含む)
(出典:住民基本台帳)

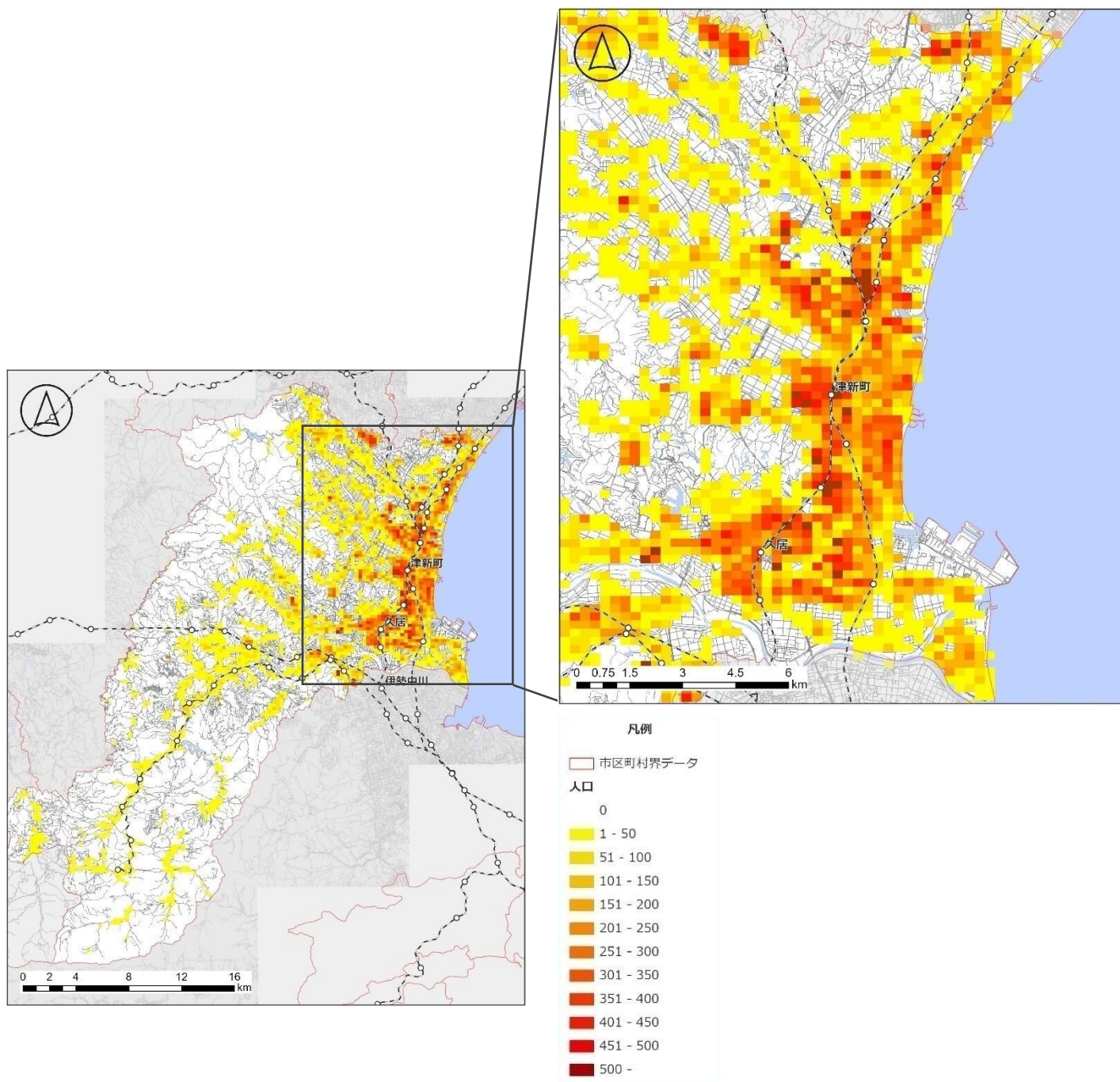
図2 地域別人口推移

表1 地域別人口推移

地域	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
津	1.00	1.00	0.99	0.99	0.98	0.98	0.97	0.96	0.95	0.95
久居	1.00	1.00	1.01	1.01	1.01	1.01	1.00	1.00	1.00	0.99
河芸	1.00	1.00	1.00	0.99	0.99	0.99	1.00	0.99	0.99	0.98
芸濃	1.00	1.00	1.00	0.99	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	0.99
美里	1.00	0.99	0.97	0.95	0.93	0.91	0.89	0.87	0.85	0.83
安濃	1.00	0.98	0.98	0.98	0.98	0.97	0.95	0.95	0.95	0.93
香良洲	1.00	0.97	0.97	0.95	0.93	0.92	0.90	0.89	0.88	0.87
一志	1.00	1.00	1.00	1.00	0.99	0.99	0.99	0.99	0.98	0.97
白山	1.00	0.97	0.95	0.93	0.91	0.90	0.88	0.87	0.85	0.83
美杉	1.00	0.97	0.93	0.89	0.86	0.83	0.79	0.76	0.73	0.71

(2) 人口分布

津市内の人口は、東部の伊勢湾岸沿いの市街地に集中しており、西部の平野部や山間部では低密度に分散しています。



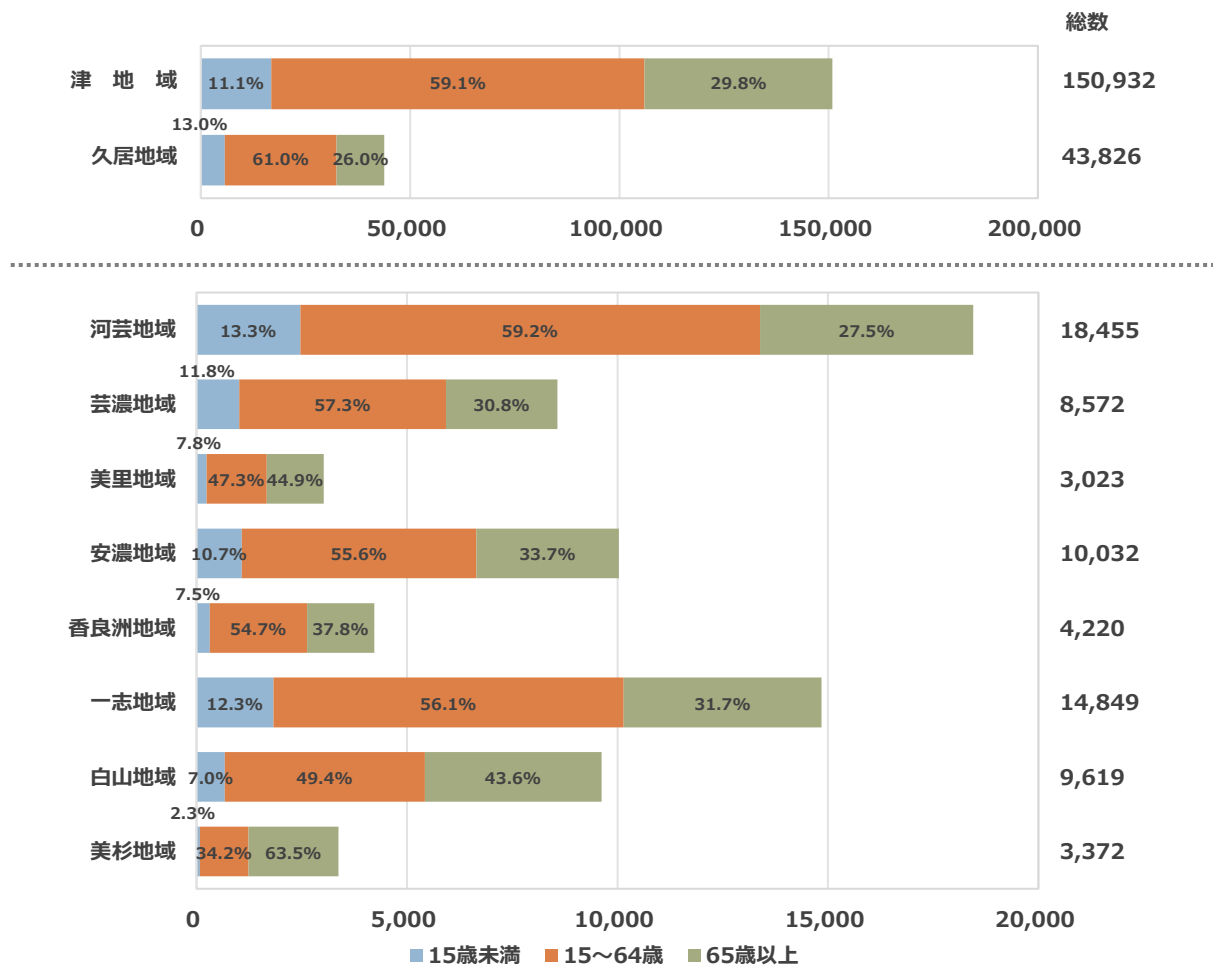
(出典：令和2年 国勢調査 250mメッシュデータ)

図3 津市内の人口分布

地域別毎の高齢化率を見ると、地域差はあるものの各地域に高齢化率40%を超えている地区があります。特に美杉地域では、全域で50%を超えており、芸濃、美里、一志及び白山地域の多くでは、40%を超えています。



高齢化率（６５歳以上の人口の割合）を地域別に見てみると、令和６年度末で最も低いのは久居地域の２６．０％です。津地域及び河芸地域も３０％を下回っていますが、その他の地域は３０％を超えており、中でも美杉地域（６３．５％）は他の地域と比べ大幅に高くなっています。

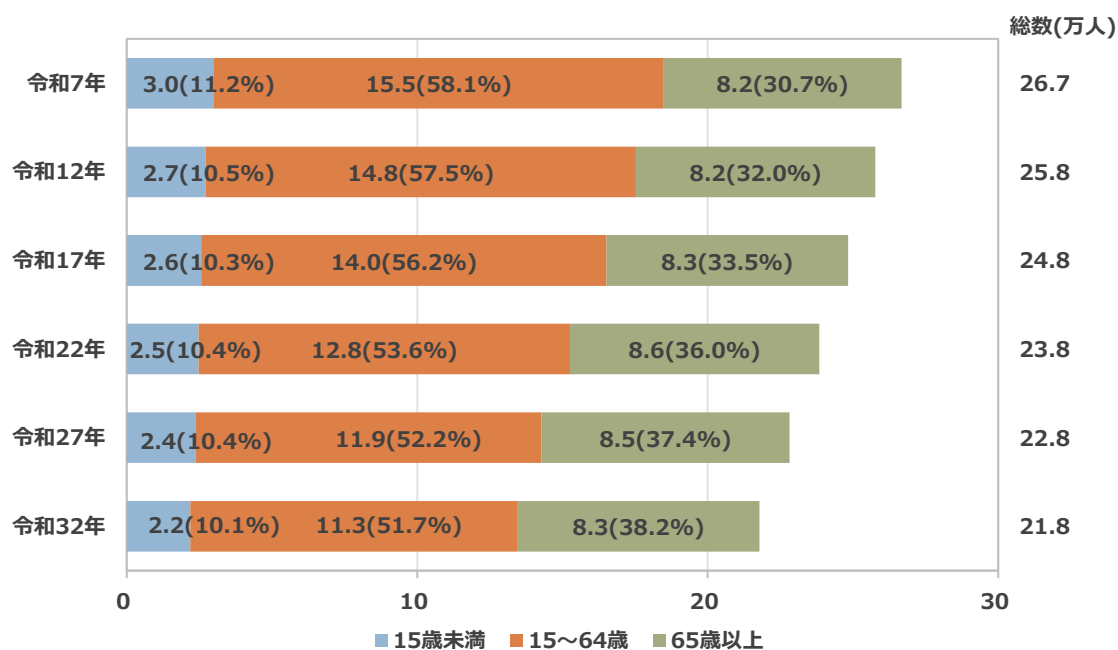


※) 令和７年３月３１日の人口（外国人を含む）
（出典：住民基本台帳）

図５ 各地域の年齢３区分別人口

(4) 人口の将来推計

将来においても、津市の人口は減少傾向と予測されており、令和17年には、25万人を下回る可能性があります。年齢別にみると、65歳以上の人口については当面増加すると予測されていますが、令和27年からは減少に転じる見込みであり、15歳未満、15歳以上～64歳の人口については、減少が進むと予測されるため、令和32年には全体の人口は約22万人になると推定されています。



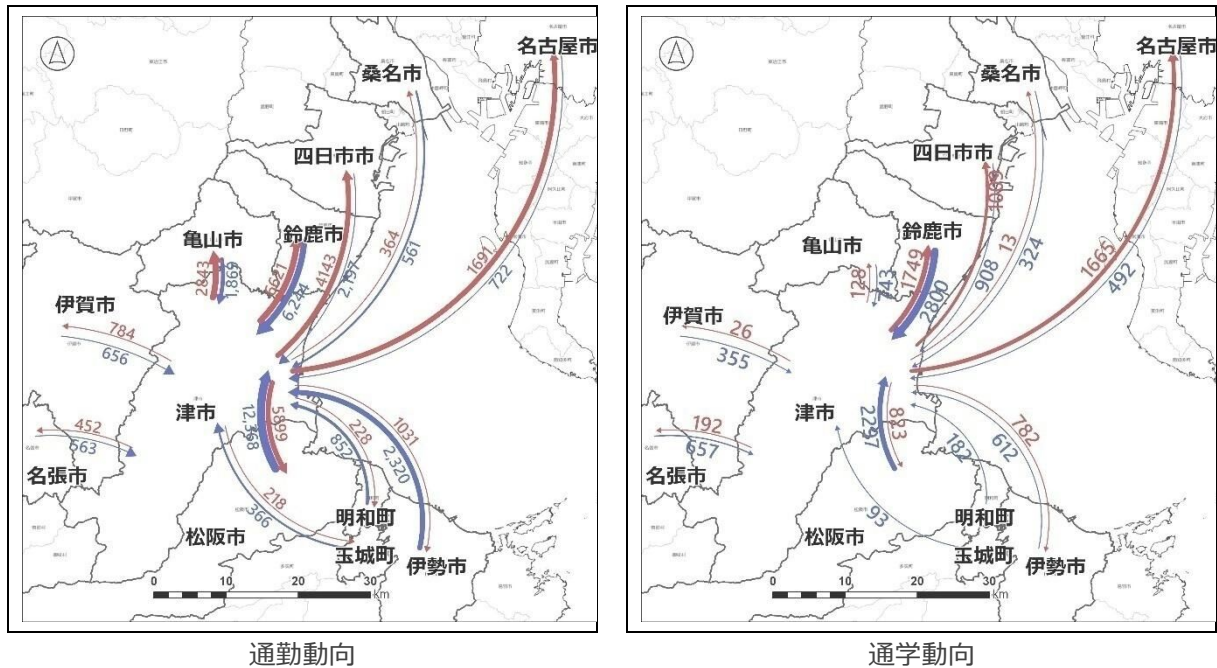
※) 令和5年度推計
(出典：国立社会保障・人口問題研究所)

図6 人口の将来推計

(5) 通勤・通学の動向

津市の通勤・通学における流動総数を見ると、津市内での動きが主となっており、通勤・通学共に8割近くを占めています。一方、市域を越えた流入は、通勤・通学共に、松阪市、鈴鹿市、四日市市、伊勢市などの近隣市町に多い状況です。

また、通勤では流出・流入ともに鈴鹿市及び松阪市が多く、通学では流出は鈴鹿市及び名古屋市、流入は鈴鹿市及び松阪市が多くなっているなど、隣接自治体とのつながりが強くなっています。



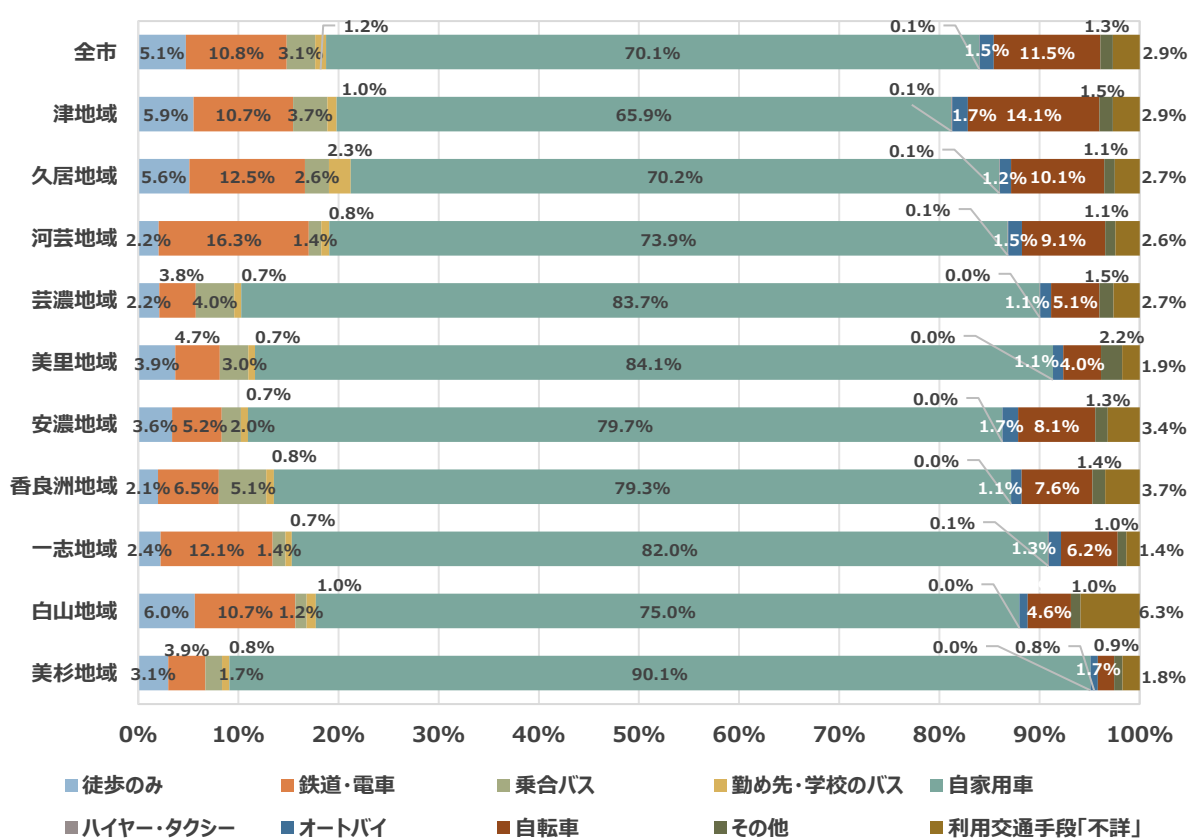
(出典：令和2年国勢調査)

図7 通勤・通学動向

通勤・通学時の移動手段を見ると、全地域において自家用車の利用が最も多くなっています。津地域では、自動車の利用率が70%を下回っており、それ以外の地域では、自家用車の利用率が70%を上回っています。特に、美杉地域では90%を超えています。

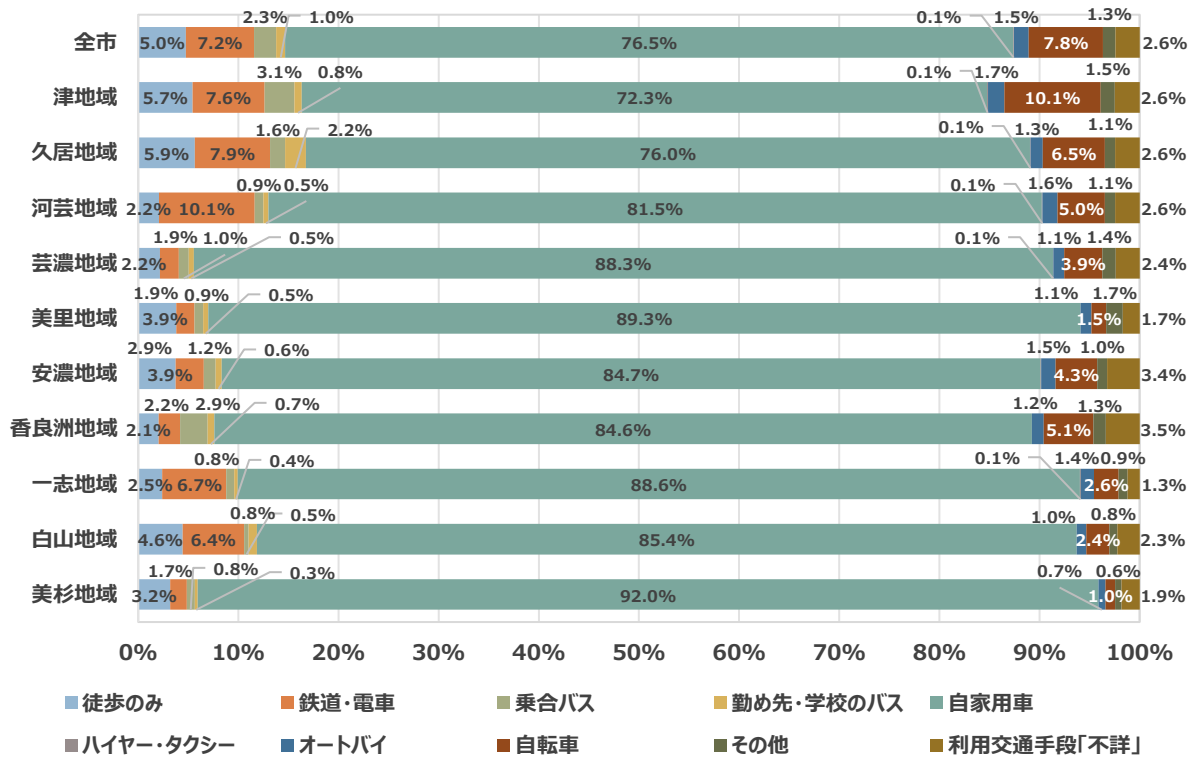
通勤・通学の区別で見ると、地域別の通勤の交通手段では、自家用車の利用がどの地域においても、70%以上であり、鉄道・電車及び乗合バスの利用は、津地域・河芸地域以外では、10%以下と低い利用率となっています。

地域別の通学の交通手段では、どの地域においても自転車、鉄道・電車の利用率が高くなっています。また、芸濃地域では、乗合バスの利用率が40%以上で、美里地域、香良洲地域、美杉地域でも20%以上の利用率となっています。また、美杉地域では、自家用車の利用率が40%を超えており、他の地域より高いことが分かります。



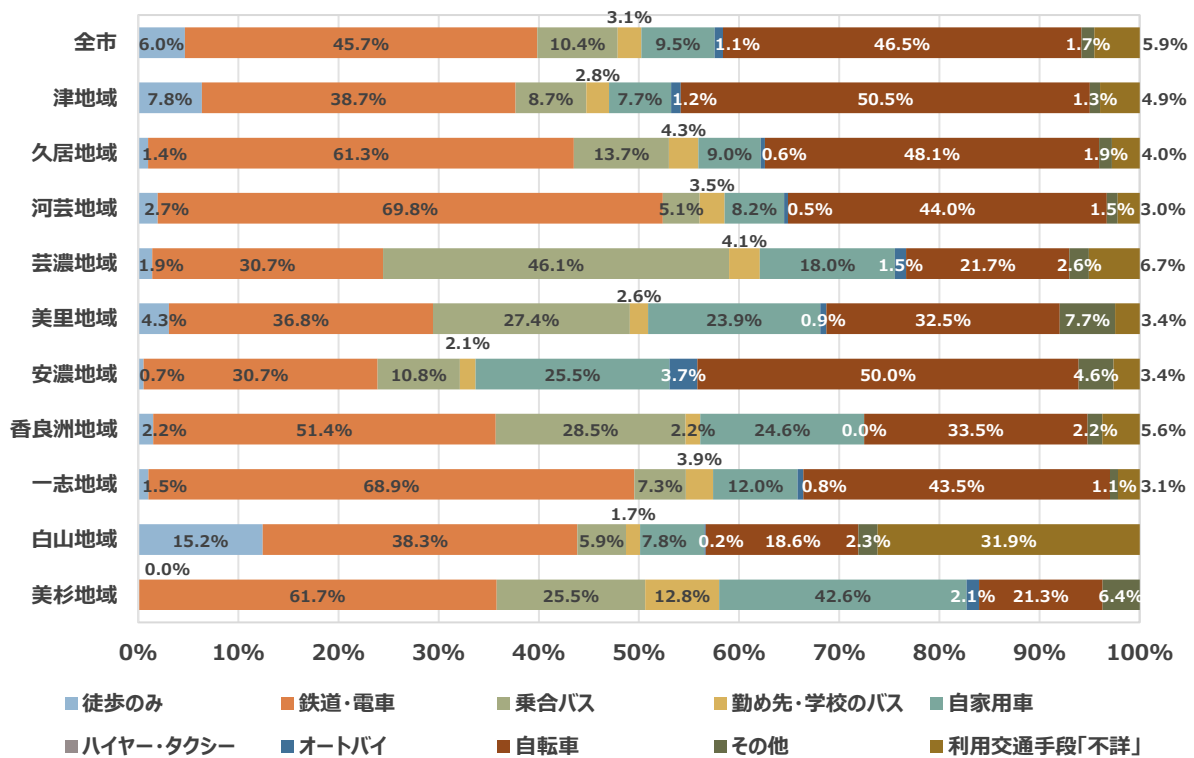
(出典：令和2年国勢調査)

図8 地域別の通勤・通学の交通手段



(出典：令和2年国勢調査)

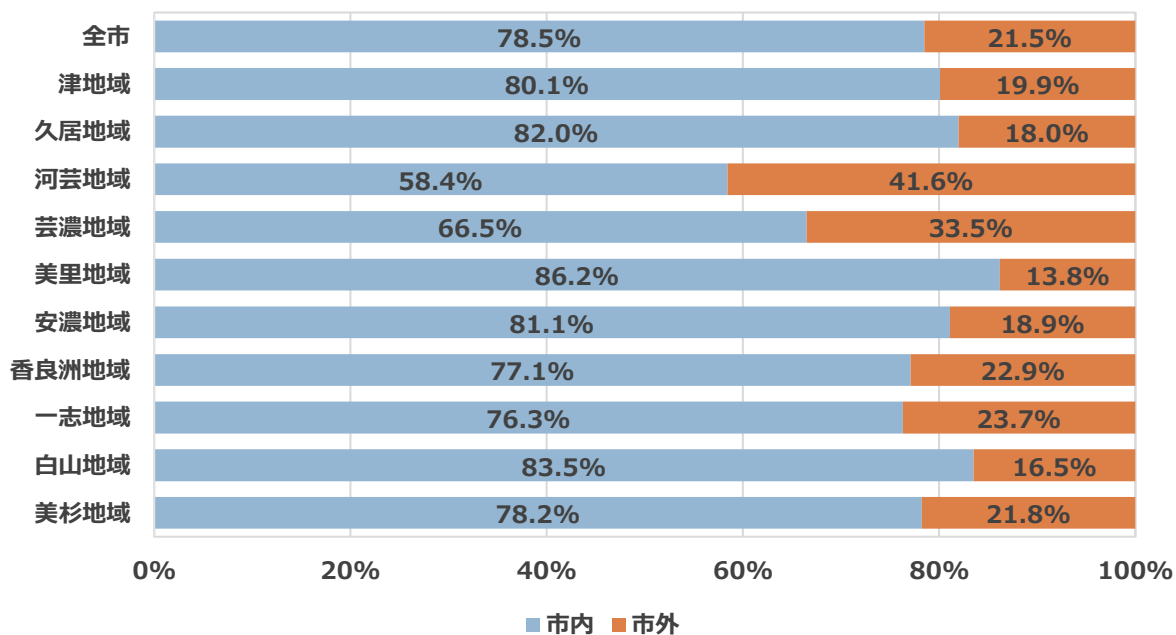
図9 地域別の通勤の交通手段



(出典：令和2年国勢調査)

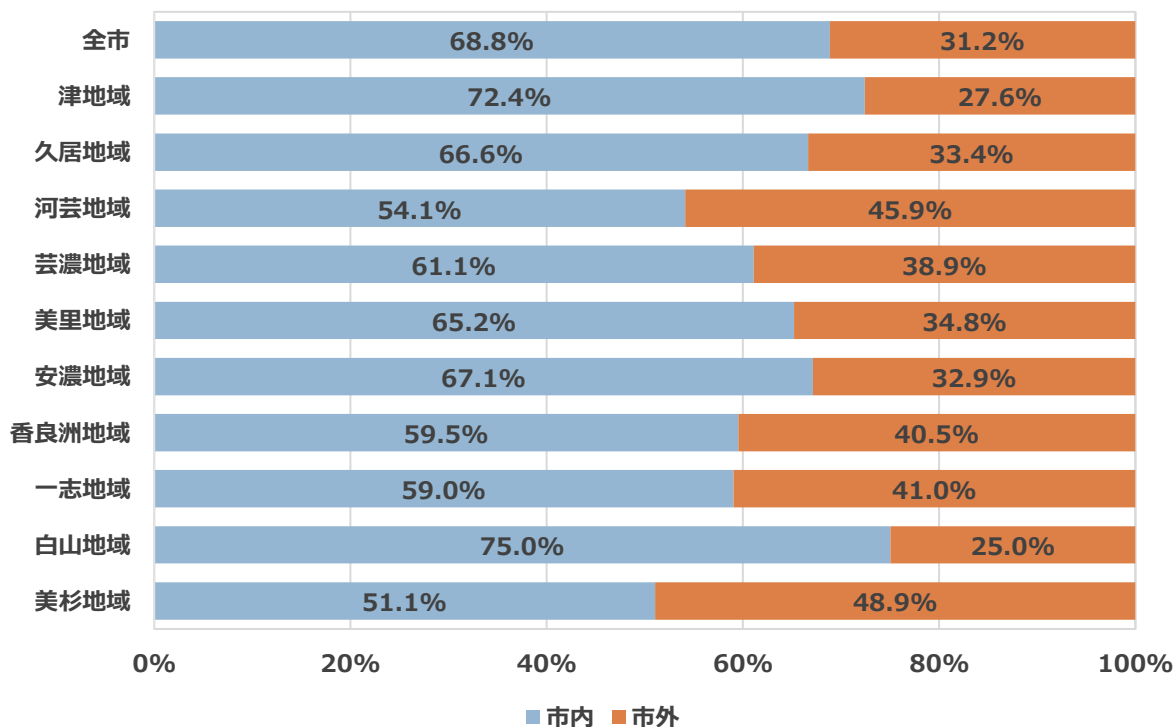
図10 地域別の通学の交通手段

従業地・通学地の津市内外を地域別に見ると、従業地では河芸及び芸濃地域で市外が多くなっており、通学地では河芸、香良洲、一志及び美杉地域で市外が多くなっています。



(出典：令和 2 年国勢調査（不詳を除く）)

図 11 地域別従業地



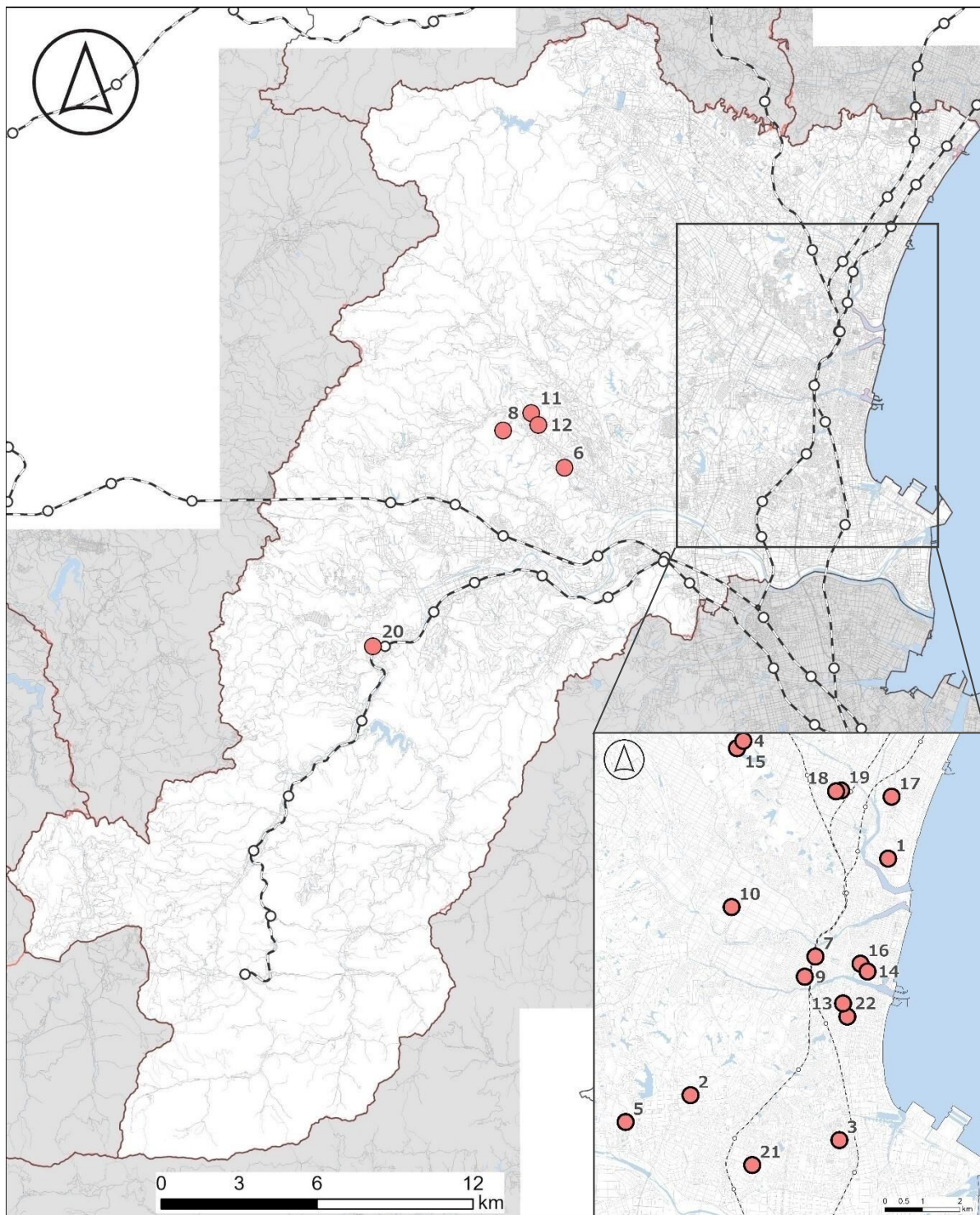
(出典：令和 2 年国勢調査（※不詳を除く）)

図 12 地域別通学地

2. 津市の施設立地状況

(1) 医療機関

令和7年10月において、津市内の病院（医療施設のうち、20床以上の病床を有するもの）は、22箇所あります。



(出典：地域医療情報システムより、中勢伊賀二次医療圏のうち津市内にある該当する病院を抽出)

図 13 津市内の医療機関

表 2 医療施設一覧

番号	施設名称	所在地	診療科目	総病床数
1	三重大学医学部附属病院	江戸橋	内科、精神科、小児科、外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、小児外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科ほか	685
2	三重中央医療センター	久居明神町	内科、精神科、小児科、外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産科、婦人科、眼科ほか	440
3	三重県立こころの医療センター	城山	内科、精神科、脳神経内科	348
4	三重病院	大里窪田町	内科、精神科、小児科、整形外科、小児外科、皮膚科、眼科ほか	260
5	久居病院	戸木町	精神科、心療内科	225
6	藤田医科大学七栗記念病院	大鳥町	内科、リハビリテーション科ほか	218
7	永井病院	西丸之内	内科、神経内科、外科、整形外科、形成外科、心臓血管外科ほか	199
8	榑原白鳳病院	榑原町	内科、外科、整形外科、リウマチ科、リハビリテーション科ほか	199
9	遠山病院	南新町	内科、外科、放射線科、麻酔科、血液内科、消化器外科ほか	180
10	武内病院	一色町	内科、神経内科、外科、整形外科、泌尿器科、放射線科ほか	180
11	榑原病院	榑原町	内科、精神科、小児科	175
12	榑原温泉病院	榑原町	内科、泌尿器科、脳神経内科	158
13	若葉病院	南中央	内科、外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、リハビリテーション科	130
14	津生協病院	寿町	内科、神経内科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科ほか	120
15	三重県立子ども心身発達医療センター	大里窪田町	小児科、整形外科、リハビリテーション科ほか	110
16	大門病院	大門	内科、外科、整形外科、脳神経外科、リハビリテーション科、麻酔科	106
17	吉田クリニック	栗真中山町	内科、神経内科、小児科、外科、整形外科、リハビリテーション科ほか	80
18	第二岩崎病院	一身田町	内科、精神科、心療内科、リハビリテーション科	64
19	岩崎病院	一身田町	内科、神経内科、外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科ほか	52
20	三重県立一志病院	白山町南家城	内科、小児科、外科、整形外科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科	46
21	井上内科病院	久居井戸山町	内科、精神科、心療内科、呼吸器内科	32
22	倉本内科病院	下弁財町	内科、呼吸器内科ほか	23

※) 水色は、津地域外

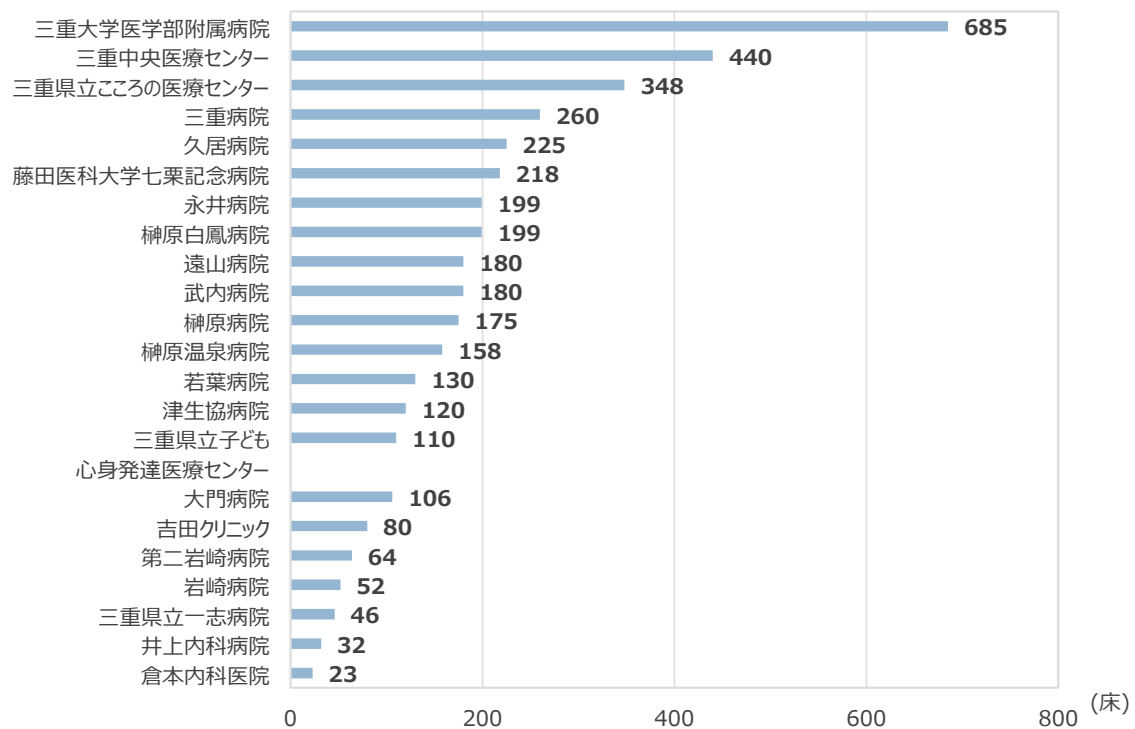
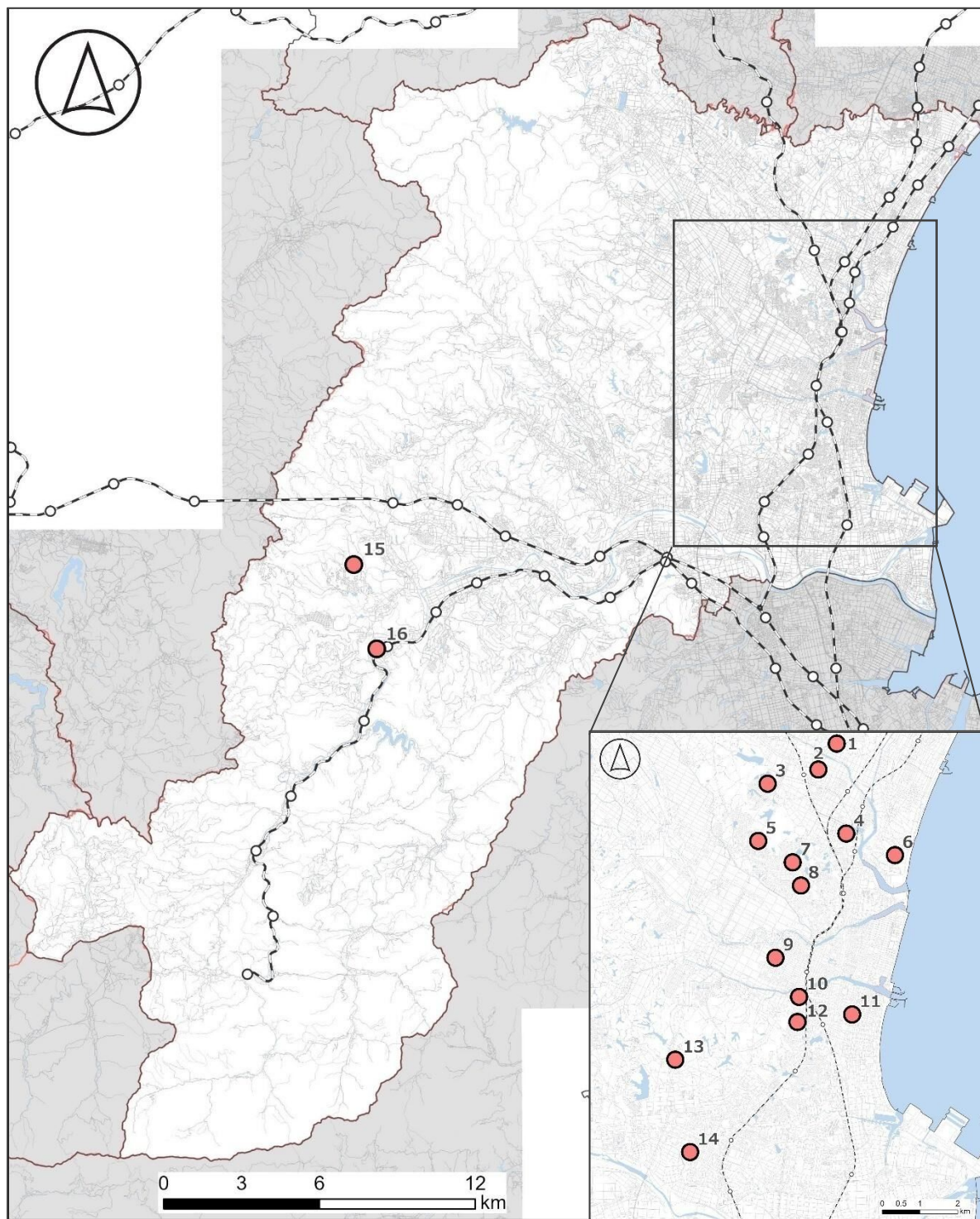


図 14 医療機関の病床数

(2) 高等学校・大学

令和7年10月時点において、津市内に高校、短期大学、大学は、16箇所あります。



(出典：三重県ホームページ)

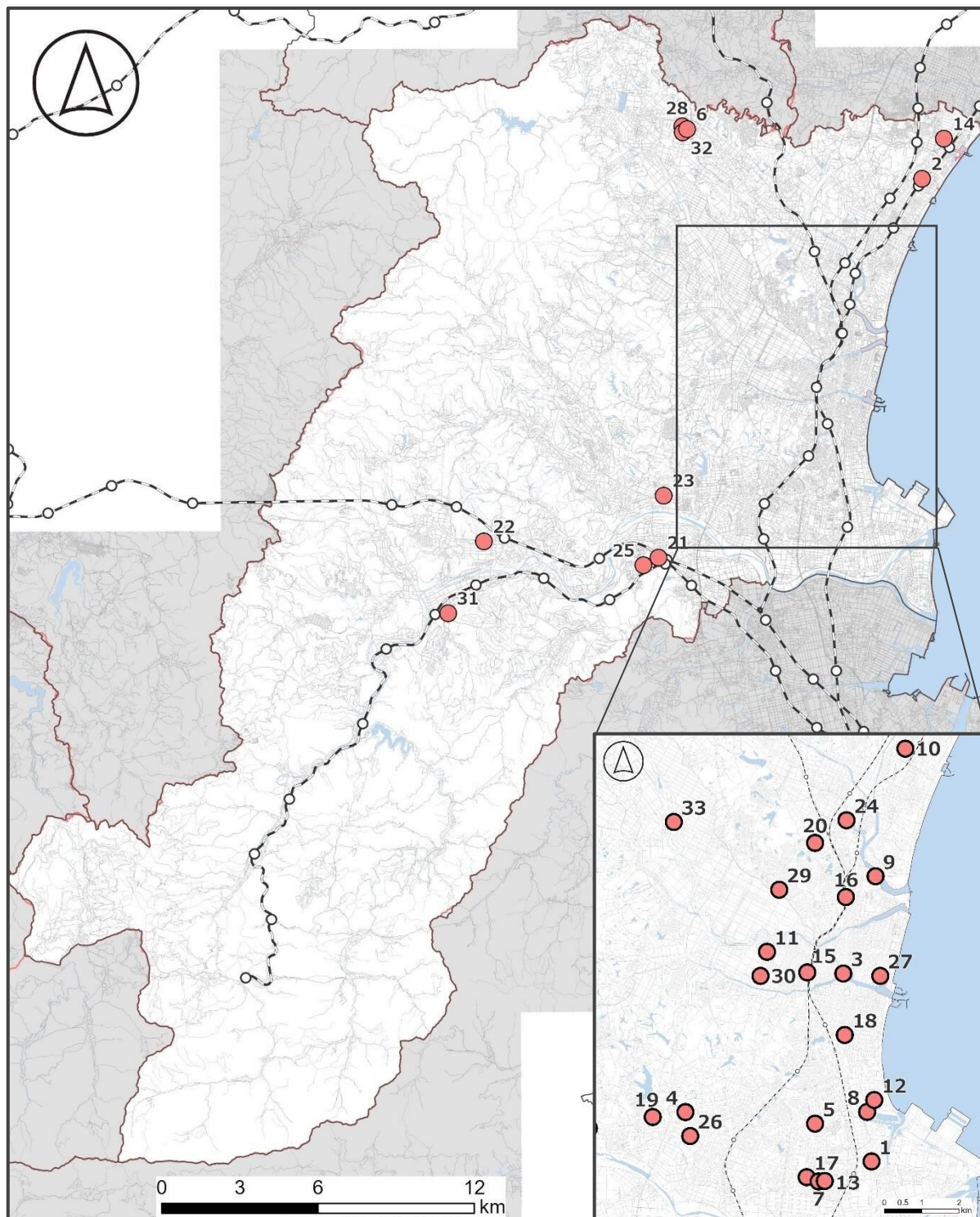
図 15 津市内の高校、短期大学、大学

表 3 津市内の高校、短期大学、大学一覧（全日制のみ）

番号	学校名	所在地
1	高田短期大学	一身田豊野
2	高田高等学校	一身田町
3	三重県立看護大学	夢が丘
4	三重短期大学	一身田中野
5	津西高等学校	河辺町
6	三重大学	栗真町屋町
7	津東高等学校	一身田上津部田
8	津商業高等学校	渋見町
9	津高等学校	新町
10	津工業高等学校	半田
11	みえ夢学園	柳山津興
12	セントヨゼフ女子学園	半田
13	久居高等学校	戸木町
14	久居農林高等学校	久居東鷹跡町
15	青山高等学校	白山町八対野
16	白山高等学校	白山町南家城

(3) 商業施設

令和6年3月時点において、津市内に商業施設（店舗面積が1,500m²以上かつ、業態が食品スーパー、総合スーパー、ショッピングセンター、百貨店、寄合百貨店）は、33箇所あります。



(出典：全国大型小売店総覧 2025 年版より作成)

図 16 津市内の商業施設

表 4 商業施設一覧

番号	施設名称	所在地	店舗面積(m ²)
1	イオンモール津南	高茶屋小森町	40,000
2	イオンタウン津河芸（ザ・ビッグエクストラ津河芸店）	河芸町中別保	16,088
3	津松菱	東丸之内	15,450
4	イオン久居店	久居明神町	13,885
5	イオンタウン津城山	久居小野辺町	12,836
6	イオンタウン芸濃（ザ・ビッグ芸濃店）	芸濃町棕本	9,219
7	F☆MART 津南店	高茶屋小森町	8,460
8	スーパーセンタートライアル津藤方店	藤方	7,714
9	桜橋 SC ノバ（MEGAドン・キホーテ津桜橋店）	桜橋	7,576
10	SENOPARK 津・Bゾーン（マックスバリュ津東店）	白塚町	6,896
11	ヤマナカアルテ津新町店、DCM カーマ津新町店	博多町	6,700
12	ベイスクエア津（ザ・ビッグ津藤方店、トイザらス津店）	藤方	6,296
13	津高茶屋ショッピングセンター（ラ・ムー津南店）	高茶屋小森町	5,536
14	スーパーサンシ河芸店	河芸町東千里	5,133
15	津新町近鉄ビル（ぎゅーとら TRY、mart.津新町店）	新町	4,895
16	津ステーションビル・チャム	羽所町	4,090
17	オークワ津高茶屋店	高茶屋小森町	3,951
18	マックスバリュ垂水店・ココカラファイン垂水店	津興	3,871
19	久居パワーセンター（ベーシック久居インター店）	戸木町	3,107
20	マックスバリュ津北店	一身田上津部田	2,998
21	マックスバリュ一志店	一志町田尻	2,722
22	白山ショッピングセンター（マックスバリュ白山店）	白山町二本木	2,704
23	オークワ久居庄田店	庄田町	2,282
24	ベーシック一身体店	一身田中野	2,274
25	ぎゅーとらラブラリー一志店	一志町田尻	2,245
26	ぎゅーとらラブラリー久居店	久居西鷹跡町	2,220
27	マックスバリュ港町店	港町	2,115
28	ぎゅーとらラブラリー芸濃店	芸濃町棕本	2,088
29	ぎゅーとらラブラリー渋見店、ココカラファイン渋見店、プリクストン	渋見町	2,018
30	ぎゅーとらラブラリー津神戸店	神戸	1,963
31	マックスバリュ川口店	白山町川口	1,897
32	ベーシック芸濃店	芸濃町棕本	1,777
33	ぜにやあのお店	安濃町曾根	1,756

※）水色は、津地域外

3. 津市の交通

(1) 道路網

津市の道路網は、海岸沿いを南北に貫く国道23号、津市の中心部から美里地域を横断し、伊賀市へ抜ける国道163号、国道23号雲出本郷町交差点から久居地域及び白山地域を横断し、伊賀市へ抜ける国道165号の3つの国道が骨格となっています。また、国道23号の渋滞解消、交通安全の確保と地域経済の発展を支援するため、鈴鹿市を起点として、津市を經由し松阪市に至る国道23号中勢バイパスが令和5年11月19日に全線開通しました。

また、芸濃地域と津市の中心部とを結ぶ津関線、一志地域、白山地域、美杉地域と久居地域とを結ぶ久居美杉線等の主要地方道が国道を補完し、地域内のネットワークを形成しています。

さらに、自動車専用道路として伊勢自動車道が市域東部を南北に貫き、芸濃IC、津IC、久居ICが設けられています。市域外となりますが、一志嬉野ICも市境界に接して位置しています。

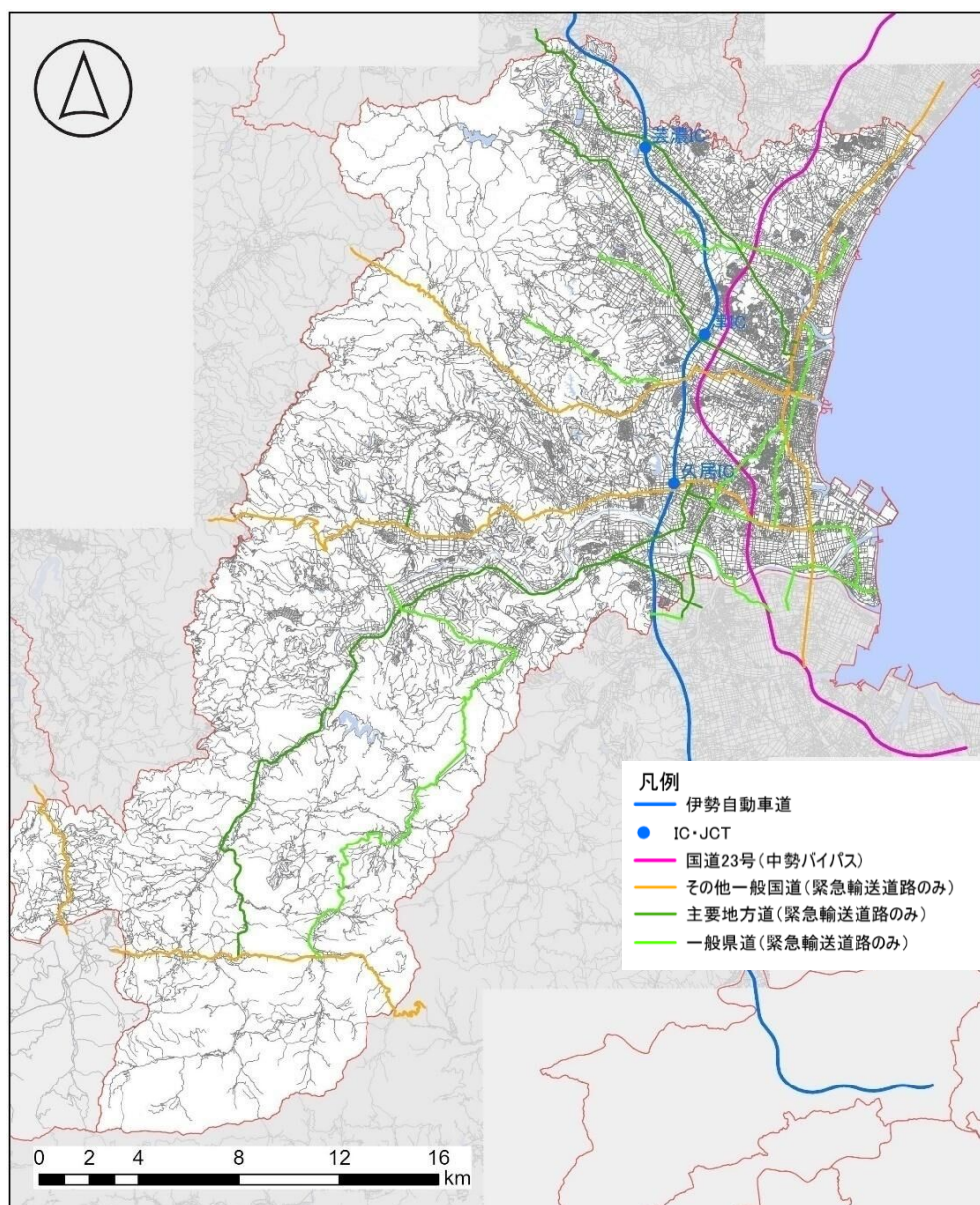


図 17 津市の道路網

(2) 鉄道

津市における鉄道網には、東海旅客鉄道（ＪＲ東海）の紀勢本線及び名松線、近畿日本鉄道（近鉄）の名古屋線及び大阪線並びに第三セクターである伊勢鉄道の伊勢線があり、名古屋圏、大阪圏及び県西部（伊賀市、名張市）及び県南部方面（伊勢市、尾鷲市、熊野市等）と結ばれています。

なお、近鉄各線が複線電化されているのに対し、津市域内のＪＲ各線と伊勢鉄道は非電化で単線となっています。

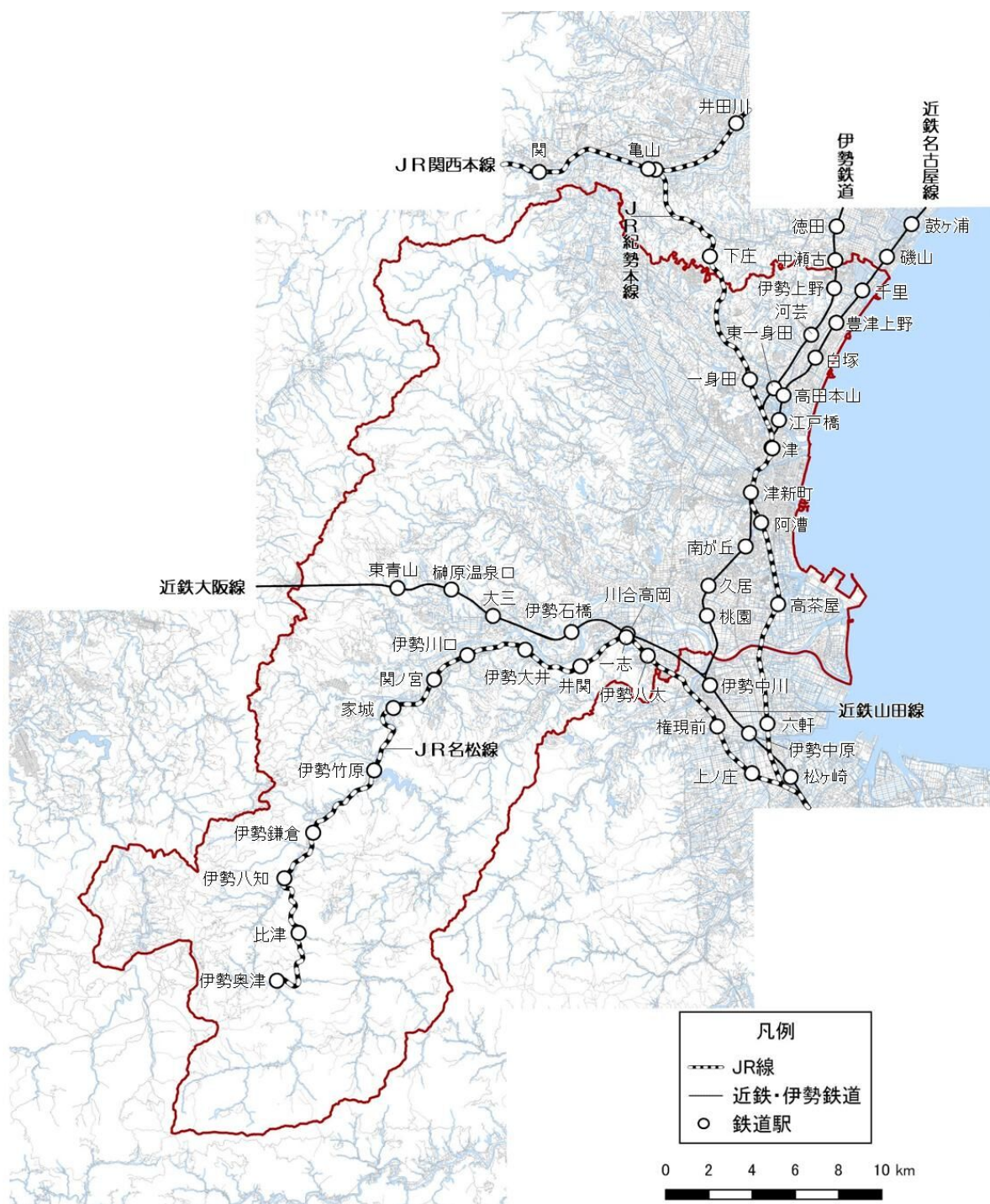


図 18 津市の鉄道網

津市内の鉄道駅における乗車人員は、平成30年度は約1,800万人/年でしたが、新型コロナウイルス感染拡大による影響を受け、令和2年度で約1,334万人/年に落ち込みました。その後回復傾向にありますが、令和5年度は約1,648万人/年で、平成30年度の水準には戻っていません。

なお、近鉄名古屋線の乗車人員が約8割を占めています。

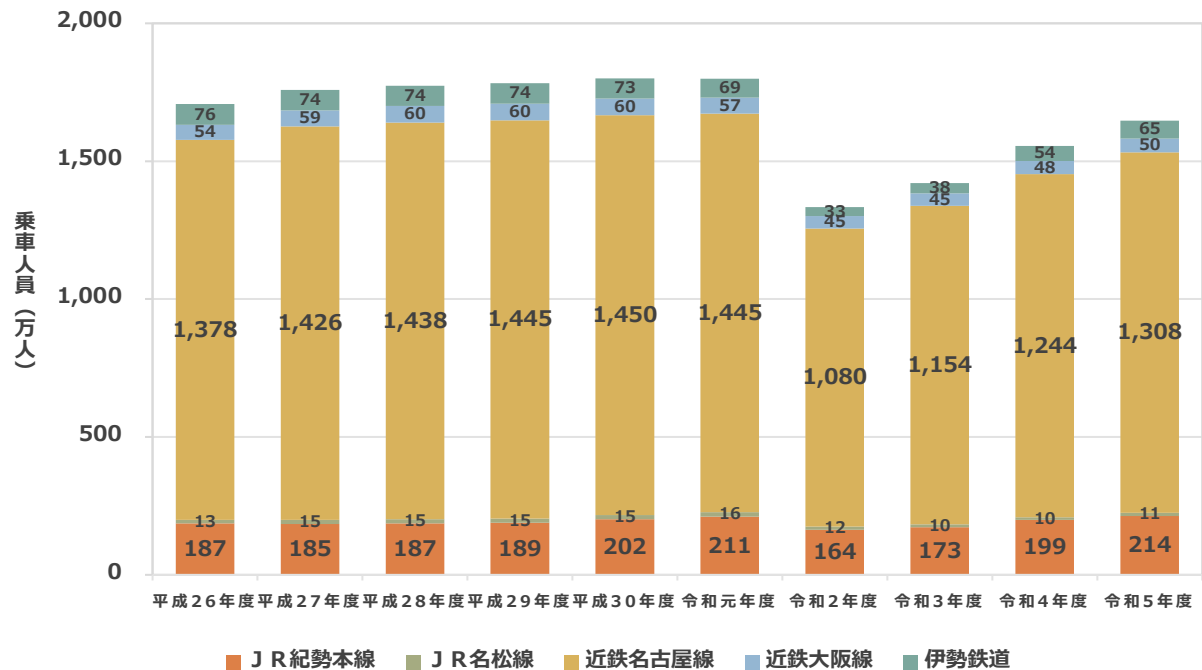


図 19 津市内における路線別乗車人員

表 5 津市内における路線別乗車人員

【単位：人】

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
J R 紀勢本線	1,865,377	1,846,503	1,870,295	1,889,020	2,022,742	2,113,823	1,638,213	1,731,234	1,989,508	2,136,352
J R 名松線	132,147	147,253	152,806	145,981	148,749	163,043	116,267	103,153	98,336	108,464
近鉄名古屋線	13,776,641	14,264,304	14,380,114	14,449,903	14,497,543	14,453,313	10,804,792	11,542,667	12,440,016	13,079,594
近鉄大阪線	540,003	586,923	599,251	601,808	604,520	571,459	449,065	454,464	478,967	498,497
伊勢鉄道	757,055	738,590	735,576	741,759	731,045	694,898	329,216	379,936	541,437	653,200
合計	17,071,223	17,583,573	17,738,042	17,828,471	18,004,599	17,996,536	13,337,553	14,211,454	15,548,264	16,476,107

(出典：三重県統計書)

津駅の乗車人員は、令和２年度には約５５７万人/年にまで落ち込みましたが、令和５年度には７０９万人/年にまで回復しました。ただし、平成３０年度と比べると６０万人以上減少しています。

津駅の乗車人員は、近鉄名古屋線の利用が最も多く、次にＪＲ紀勢本線が続いています。

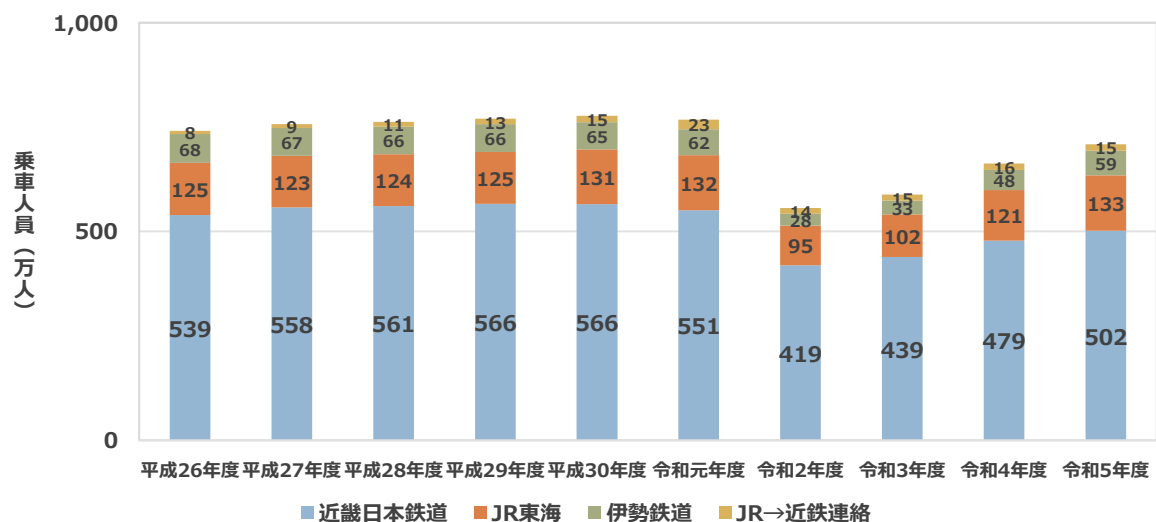


図 20 津駅乗車人員推移（鉄道事業者別）

表 6 津駅乗車人員推移（鉄道事業者別）

【単位：人】

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
近畿 名古屋線	5,392,298	5,579,125	5,606,624	5,661,059	5,658,839	5,509,764	4,191,168	4,393,734	4,785,051	5,022,038
JR 紀勢本線	1,253,662	1,232,976	1,244,958	1,245,120	1,307,150	1,320,803	953,548	1,016,911	1,207,778	1,325,625
伊勢鉄道	684,985	666,879	662,533	663,983	652,683	618,987	282,565	325,689	481,470	589,503
JR→ 近鉄連絡※	81,198	93,865	111,045	128,195	149,265	232,374	139,815	149,411	156,546	154,013
合計	7,412,143	7,572,845	7,625,160	7,698,357	7,767,937	7,681,928	5,567,096	5,885,745	6,630,845	7,091,179

※) JR 津駅経由からの近鉄利用者数
(出典：三重県統計書)

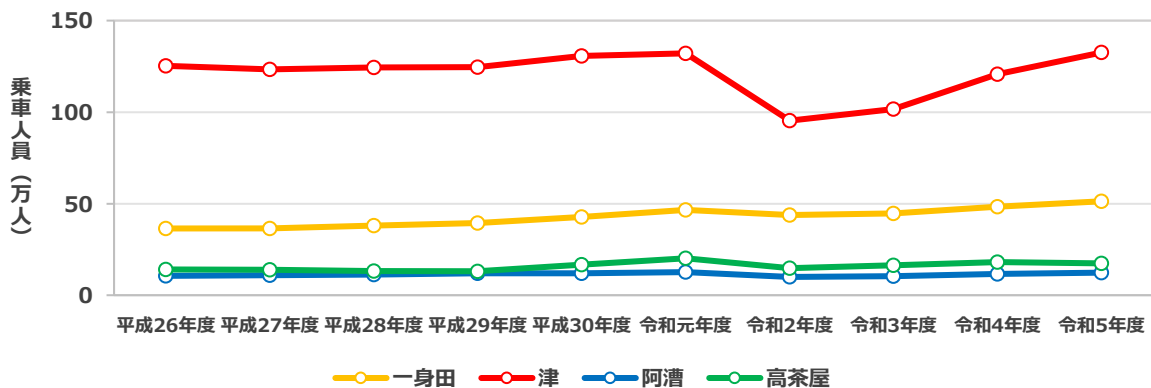
1) JR 紀勢本線

津市内には、J R 紀勢本線の駅が4駅（一身田、津、阿漕、高茶屋）設けられています。

J R 紀勢本線の駅で乗車人員が最も多いのは、優等列車（特急、快速）が停車し、近鉄名古屋線や伊勢鉄道と接続している津駅です。新型コロナウイルス感染拡大による影響を受けた令和2年度、令和3年度を除いて毎年120万人/年を超えて推移し、令和5年度には令和元年の値を超えました。

次いで多いのは一身田駅で、高田本山や高田中・高・短大の最寄り駅でもあり、令和5年度は約51万人/年で、近年は増加傾向にあります。

高茶屋駅は増加傾向にありましたが、令和5年度は令和4年度に比べて減少しています。阿漕駅は、近年は若干の増加傾向にあります。



(出典：三重県統計書)

図 21 JR 紀勢本線駅別乗車人員

表 7 JR 紀勢本線駅別乗車人員

【単位：人】

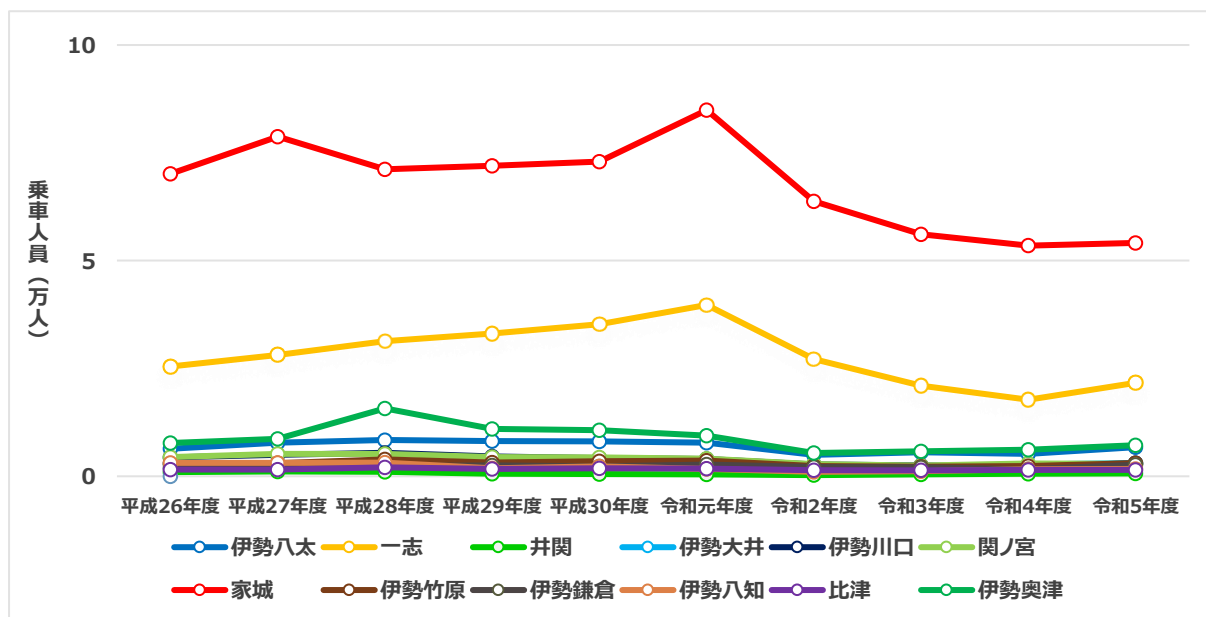
	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
一身田	365,011	364,907	381,092	393,765	428,139	465,392	437,332	447,225	484,311	512,968
津	1,253,662	1,232,976	1,244,958	1,245,120	1,307,150	1,320,803	953,548	1,016,911	1,207,778	1,325,625
阿漕	105,303	109,590	111,963	119,232	119,702	126,066	99,769	104,390	115,733	123,435
高茶屋	141,401	139,030	132,282	130,903	167,751	201,562	147,564	162,708	181,686	174,324
合計	1,865,377	1,846,503	1,870,295	1,889,020	2,022,742	2,113,823	1,638,213	1,731,234	1,989,508	2,136,352

(出典：三重県統計書)

2) JR 名松線

津市内には、J R 名松線の駅が 12 駅（伊勢八太、一志、井関、伊勢大井、伊勢川口、関ノ宮、家城、伊勢竹原、伊勢鎌倉、伊勢八知、比津、伊勢奥津）設けられています。

J R 名松線の駅で乗車人員が最も多いのは家城駅で、令和元年度までは約 7 ～ 8 万人/年で推移していたものの、その後減少傾向に転じ、令和 5 年度は約 5 万人/年となっています。次いで多いのは、近鉄大阪線の川合高岡駅に程近い一志駅で、平成 26 年度以降増加傾向にありましたが、近年は減少傾向に転じ、令和 4 年度は約 1.7 万人/年、令和 5 年度は約 2.1 万人/年となっています。沿線にある白山高等学校の生徒数の減少等の影響が考えられます。



(出典：三重県統計書)

図 22 JR 名松線駅別乗車人員

表 8 JR 名松線駅別乗車人員

【単位：人】

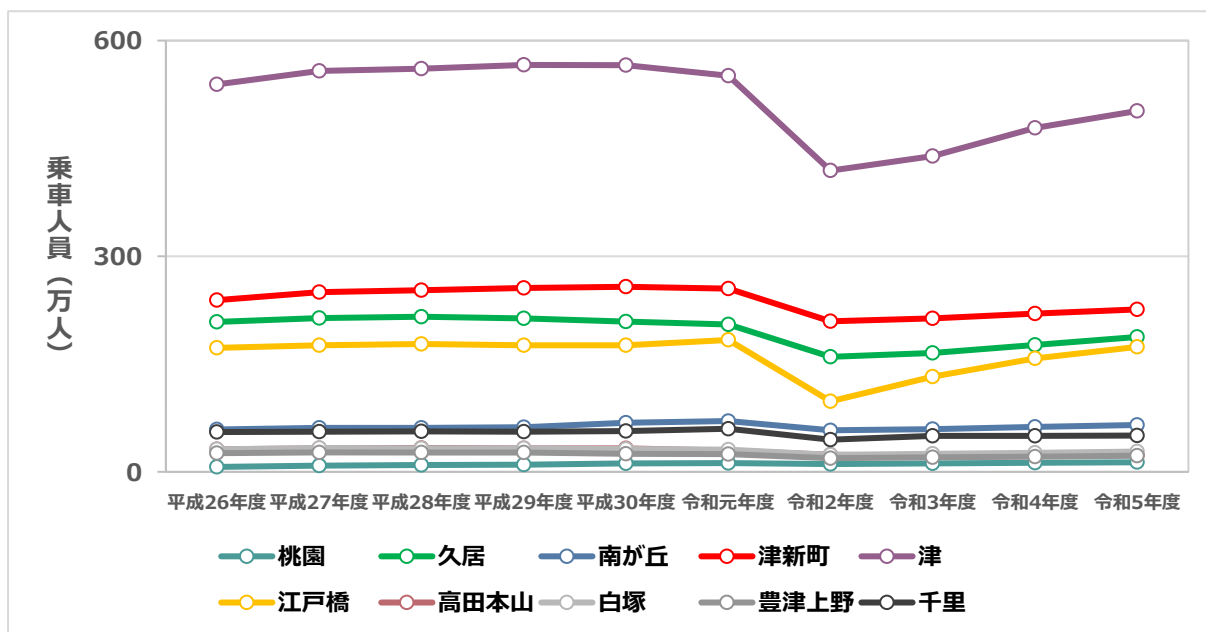
	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
伊勢八太	6,421	7,767	8,418	8,136	8,081	7,787	4,976	5,550	5,214	6,774
一志	25,475	28,165	31,299	33,099	35,278	39,732	27,162	21,004	17,758	21,651
井関	960	1,120	1,057	563	496	413	265	419	578	694
伊勢大井	2,979	2,725	2,911	2,717	2,802	2,797	2,165	2,336	2,772	3,075
伊勢川口	4,393	4,973	5,449	4,630	4,199	4,001	2,782	2,491	2,283	3,079
関ノ宮	4,427	5,176	5,188	4,430	4,347	4,062	2,833	2,496	2,977	2,889
家城	70,177	78,755	71,214	72,036	72,934	84,913	63,777	56,152	53,487	54,147
伊勢竹原	2,885	3,077	3,911	3,221	3,454	3,633	2,348	2,230	2,384	3,066
伊勢鎌倉	1,931	2,191	2,376	2,506	2,286	2,719	2,131	2,115	1,653	2,694
伊勢八知	3,156	3,112	3,162	1,883	2,283	1,730	1,029	1,203	1,605	1,682
比津	1,597	1,541	2,082	1,739	1,865	1,799	1,397	1,378	1,467	1,475
伊勢奥津	7,746	8,651	15,739	11,021	10,724	9,457	5,402	5,779	6,158	7,238
合計	132,147	147,253	152,806	145,981	148,749	163,043	116,267	103,153	98,336	108,464

(出典：三重県統計書)

3) 近鉄名古屋線

津市内には、近鉄名古屋線の駅が10駅（千里、豊津上野、白塚、高田本山、江戸橋、津、津新町、南が丘、久居、桃園）設けられています。

近鉄名古屋線の駅で乗車人員が最も多いのは、全ての列車（一部特急列車を除く）が停車し、JR紀勢本線や伊勢鉄道と接続している津駅で、新型コロナウイルス感染拡大による影響を受けたものの、近年は増加傾向にあり、令和5年度は約502万人/年（JR経由を含まない）となっています。その他では津新町駅約226万人/年、久居駅約188万人/年、江戸橋駅約174万人/年が多くなっています。



(出典：三重県統計書)

図 23 近鉄名古屋線駅別乗車人員

表 9 近鉄名古屋線駅別乗車人員

【単位：人】

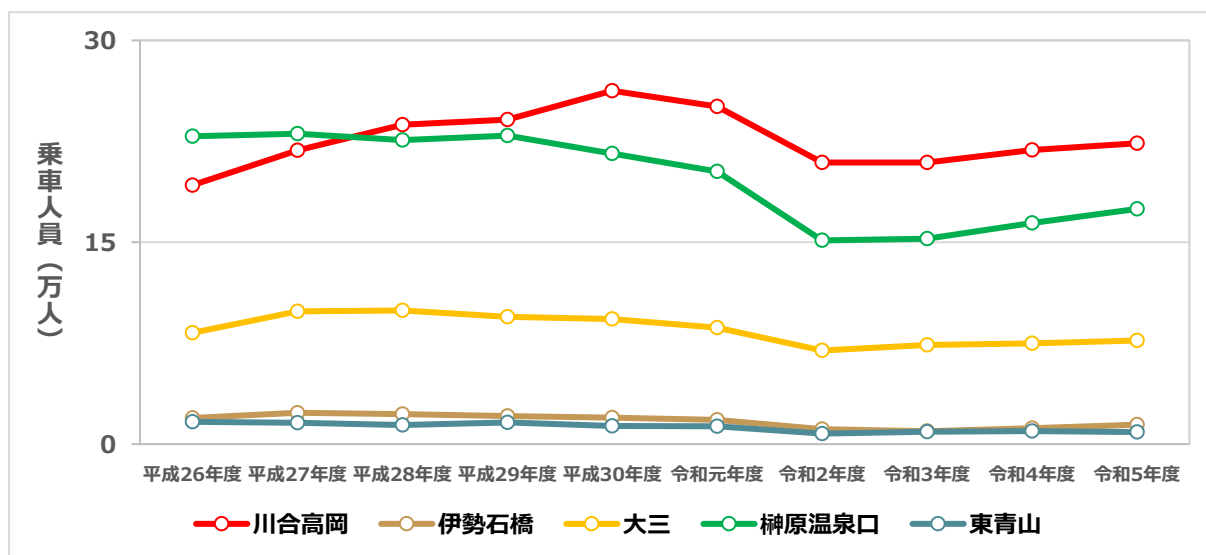
駅名	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
桃園	68,743	87,222	96,751	100,871	119,403	122,032	107,339	115,717	124,153	133,092
久居	2,084,665	2,140,202	2,158,067	2,135,410	2,090,534	2,048,736	1,600,248	1,654,177	1,766,346	1,878,007
南が丘	590,770	612,793	613,855	622,095	681,475	706,693	578,140	593,512	626,768	653,368
津新町	2,388,921	2,499,762	2,528,526	2,558,041	2,574,889	2,549,648	2,094,611	2,133,026	2,202,756	2,261,125
津	5,392,298	5,579,125	5,606,624	5,661,059	5,658,839	5,509,764	4,191,168	4,393,734	4,785,051	5,022,038
江戸橋	1,727,204	1,762,049	1,776,565	1,761,076	1,759,200	1,834,790	981,202	1,325,254	1,579,479	1,738,190
高田本山	315,198	327,622	332,637	328,542	324,661	296,598	237,876	224,526	223,546	231,457
白塚	315,531	331,682	327,089	326,880	318,992	307,197	236,440	251,229	263,743	282,192
豊津上野	259,636	270,129	267,632	267,896	252,814	245,824	190,200	203,399	211,242	222,105
千里	552,477	559,853	561,323	559,838	567,471	599,657	447,753	498,682	500,386	504,007
合計	13,695,443	14,170,439	14,269,069	14,321,708	14,348,278	14,220,939	10,664,977	11,393,256	12,283,470	12,925,581

(出典：三重県統計書)

4) 近鉄大阪線

津市内には、近鉄大阪線の駅が5駅（川合高岡、伊勢石橋、大三、榊原温泉口、東青山）設けられています。

近鉄大阪線の駅で平成26年度に乗車人員が最も多かったのは榊原温泉口駅で、約23万人/年でしたが、年々減少し、平成28年度には年々増加している川合高岡駅が最も多くなり、新型コロナウイルス感染拡大による影響を受けたものの、令和5年度には川合高岡駅の乗車人員が22万人/年となっています。



(出典：三重県統計書)

図 24 近鉄大阪線駅別乗車人員

表 10 近鉄大阪線駅別乗車人員

【単位：人】

駅名	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
川合高岡	192,415	218,423	237,425	241,126	262,596	250,933	209,231	209,357	218,500	223,491
伊勢石橋	19,475	23,287	22,338	20,764	19,546	17,954	11,099	9,576	11,708	14,357
大三	82,800	98,688	99,328	94,567	92,959	86,583	69,559	73,677	74,824	76,943
榊原温泉口	228,770	230,664	225,937	229,166	215,843	202,669	151,373	152,676	164,299	174,815
東青山	16,543	15,861	14,223	16,185	13,576	13,320	7,803	9,178	9,636	8,891
合計	540,003	586,923	599,251	601,808	604,520	571,459	449,065	454,464	478,967	498,497

(出典：三重県統計書)

5) 伊勢鉄道

津市内には伊勢鉄道伊勢線の駅が4駅（伊勢上野、河芸、東一身田、津）設けられています。

乗車人員が最も多いのはJRや近鉄と接続する津駅で、平成26年度は70万人/年以上の利用がありましたが、平成27年度以降は減少傾向にあります。特に令和2年度では、新型コロナウイルス感染拡大の影響により約28万人/年まで落ち込みましたが、その後増加傾向に転じ令和5年度には約59万人/年となりました。

平成26年度では、次いで河芸駅、伊勢上野駅、東一身田駅の順でしたが、伊勢上野駅は増加傾向、河芸駅は減少傾向にあり、令和5年度では伊勢上野駅、東一身田駅、河芸駅の順となっています。

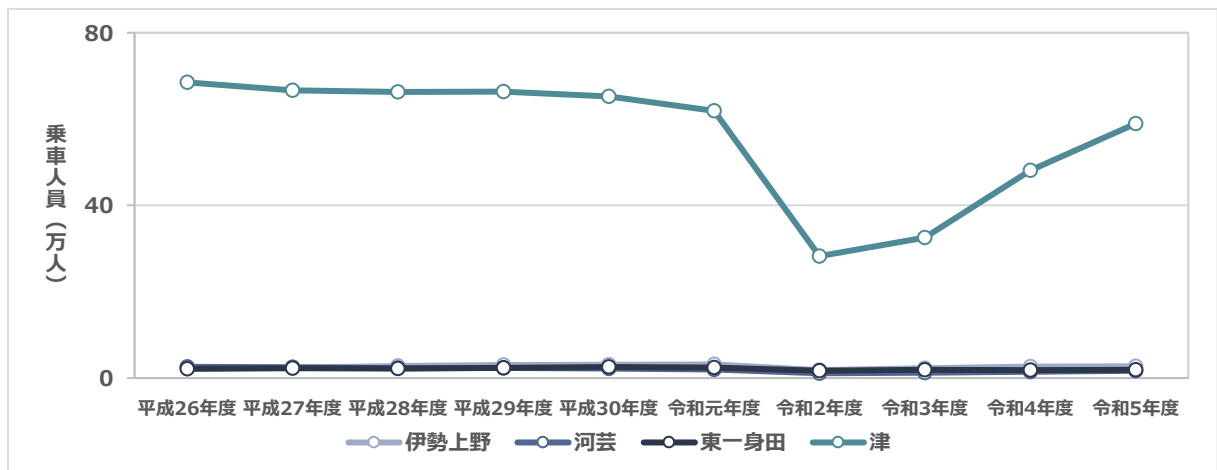


図 25 伊勢鉄道駅別乗車人員

表 11 伊勢鉄道駅別乗車人員

【単位: 人】

年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
伊勢上野	24,675	23,846	28,270	30,370	30,875	31,552	18,388	22,849	26,456	27,586
河芸	25,980	24,895	22,572	23,570	21,890	19,773	11,220	12,133	14,817	17,007
東一身田	21,415	22,970	22,201	23,836	25,597	24,586	17,043	19,265	18,694	19,104
津	684,985	666,879	662,533	663,983	652,683	618,987	282,565	325,689	481,470	589,503
合計	757,055	738,590	735,576	741,759	731,045	694,898	329,216	379,936	541,437	653,200

(出典: 三重県統計書)

(3) 乗合バス

津市のバス交通には、民間事業者が運行する「高速路線バス」及び「一般路線バス」、津市が運営する「自主運行バス（廃止代替バス）」及び「津市コミュニティバス」、NPO法人が運営する「ぐるっと・つーバス」並びに地域住民が主体となり運行する「地域住民運営主体型コミュニティ交通」があります。

なお、本計画では一般路線バスと自主運行バス（廃止代替バス）を「一般路線バス」、津市コミュニティバス、ぐるっと・つーバス及び地域住民運営主体型コミュニティ交通を「コミュニティバス」として整理しています。

過去10年間の利用実態は以下のとおりです。一般路線バスの利用者数は、令和2年度に新型コロナウイルス感染拡大の影響でいったん減少しましたが、令和3年度以降は増加に転じており、平成30年度の利用者数を上回る状況に戻っています。津市コミュニティバス等（津市コミュニティバス及びぐるっと・つーバス）の利用者は、平成30年度の約11.3万人/年に対し、令和6年度は約9.4万人/年と減少しており、新型コロナウイルス感染拡大の影響があると考えられます。

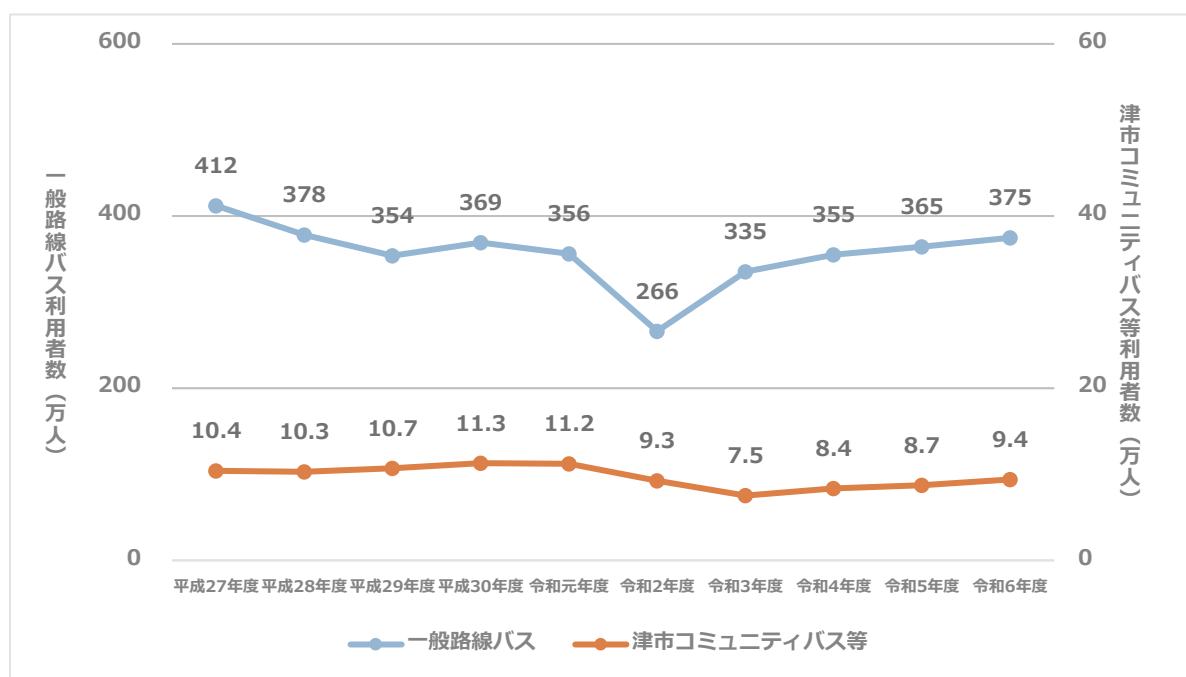


図 26 津市内の乗合バスの利用者数

表 12 津市内の乗合バスの利用者数

【単位：人】

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
一般路線バス	4,120,916	3,782,795	3,539,073	3,690,639	3,561,767
津市コミュニティバス等	104,126	103,100	106,958	112,951	112,384

	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
一般路線バス	2,662,285	3,352,015	3,550,291	3,645,336	3,749,725
津市コミュニティバス等	92,672	75,307	83,655	87,448	94,081

※）一般路線バスの全部及びコミュニティバス等の一部は推計値
 （出典：三重交通提供の乗降者数及び津市コミュニティバス乗降調査）

1) 高速路線バス

津市における高速路線バスは、三重交通を中心に民間事業者により運行されています。令和7年4月～9月に運行実績のある行先は、以下のとおりです。

表 13 高速路線バス一覧

都市	昼夜別	民間事業者
宮城県（仙台市等）	夜行	青木バス
埼玉県（さいたま市）	夜行	三重交通
東京 23 区（池袋、新宿）		三交伊勢志摩交通
東京都（立川市）		西武観光バス
東京 23 区（新宿） 神奈川県（横浜市）	夜行	WILLER EXPRESS
東京 23 区（東京駅） 神奈川県（横浜市）	夜行	青木バス
東京 23 区（大手町）、神奈川県（横浜市）、千葉県（船橋市）	夜行	菰野東部交通
石川県（金沢市、高岡市） 富山県（富山市）	夜行	青木バス
山梨県（甲府市等）	夜行	青木バス
京都府（京都市）	昼行	三重交通
		京阪バス

2) 一般路線バス

令和7年10月現在、津市内を運行する一般路線バスは以下のとおりです。

表 14 一般路線バス一覧

路線名称	系統 番号	路線の 位置付 け	運行区間	経由拠点	
				都市 拠点	地域 拠点
神戸白塚線	06	幹線	片田団地～津駅・白塚駅	津	白塚・栗真・ 神戸・片田
波瀬線	11	幹線	三重中央医療センター・久居駅～室の口	久居	一志
高野団地線 (自主運行バス)			久居駅～とことめの里		
榊原線	15	幹線	津駅～下村～榊原車庫前	津・久居	栗葉・榊原
	16		津駅～上稲葉～榊原車庫前		
久居高茶屋線	21	幹線	久居駅東口～香良洲公園	久居	香良洲 ・雲出
国立病院線	22	市内線	久居駅～三重中央医療センター・久居高校	久居	—
津三雲線	31	幹線	津駅～天白【松阪市】	津	雲出
香良洲線	32	幹線	津駅～香良洲公園	津	香良洲・雲出
城山線	34	幹線	津駅～警察学校	津	藤水・高茶屋
津なぎさまち線	35	市内線	津駅～空港アクセス港	津	—
津太陽の街線	40	準幹線	千里駅～太陽の街【鈴鹿市】～千里駅	—	—
一身田大里線 (一部自主運行バス)	51	幹線	日硝ハイウェーアリーナ～三重病院	津	一身田・栗真
棕本線	52	幹線	イオンモール津南・米津・津駅 ～サイエンスシティ・豊が丘・棕本	津	芸濃・高尾野・大 里・一身田
豊野団地線 (自主運行バス)	53	幹線	津駅～豊野団地口～津駅	津	一身田・栗真
亀山棕本線 (自主運行バス)	55	準幹線	棕本～亀山駅前【亀山市】	—	芸濃
安濃線	65	幹線	津駅～市場	津	安濃・安東
津駅西団地循環線	71・81	市内線	津駅西口～西団地～津駅西口	津	—
津西ハイタウン線	84・85	市内線	津駅西口～津西ハイタウン		
	86	市内線	津新町駅・津駅西口～津西ハイタウン		
看護大学夢が丘線	89	市内線	津駅西口～総合文化センター・夢が丘団地	津	美里・片田
長野線	91	幹線	津駅～平木	津	片田
泉ヶ丘片田団地線	93	幹線	津駅・津新町駅～片田団地	津	片田
辰水殿舟団地線	95	幹線	津駅・津新町駅～殿舟団地～穴倉	津	櫛形
奥津線	31 (伊賀)	準幹線	敷津～名張駅前（西口）【名張市】	—	—

※) 平日1日1往復以下の区間は記載の対象外
(出典：三重交通提供資料)

① 運行状況

令和7年10月現在の運行状況は、以下のとおりです。

幹線の一部路線及び準幹線路線は、国及び三重県からの補助を受けて運行しています。

高野団地線、一身田大里線及び豊野団地線は津市が、亀山棕本線は津市及び亀山市が自主運行バス（廃止代替バス）として三重交通に委託して運行しています。

平日・土曜日・休日とも24本（12往復、概ね1時間に1本以上）の路線は、幹線で榊原線、城山線、棕本線、市内線で津西ハイタウン線、看護大学夢が丘線です。

表 15 一般路線バス路線別運行状況

路線名称	系統 番号	路線の 位置付け	平日 運行本数	土曜日 運行本数	休日 運行本数	補助の 活用	備考
神戸白塚線	06	幹線	29	23	23	－	
波瀬線	11	幹線	25	23	23	幹線補助	津市自主運行
高野団地線						－	
榊原線	15	幹線	28	25	25	幹線補助	
	16		12	10	10	幹線補助	
久居高茶屋線	21	幹線	20	22	22	幹線補助	
国立病院線	22	市内線	10	3	3		
津三雲線	31	幹線	21	21	21	幹線補助	
香良洲線	32	幹線	26	14	14	幹線補助	
城山線	34	幹線	48	32	32	－	
津なぎさまち線	35	市内線	10	10	10	－	
津太陽の街線	40	準幹線	13	11	11	幹線補助	
一身田大里線	51	幹線	16	17	17	－	一部津市 自主運行
棕本線	52	幹線	79	54	54	幹線補助	
豊野団地線	53	幹線	8	7	7	－	津市自主運行
亀山棕本線	55	準幹線	19	19	18	亀山市廃止代替 幹線補助	津市 自主運行
安濃線	65	幹線	17	14	14	幹線補助	
津駅西団地循環線	71・81	市内線	25	18	18	－	
津西ハイタウン線	84・85	市内線	36	27	27	－	
	86	市内線	8	16	16	－	
看護大学夢が丘線	89	市内線	31	38	38	－	
長野線	91	幹線	25	16	16	幹線補助	
泉ヶ丘片田団地線	93	幹線	5	9	9	－	
穴倉線	95	幹線	4	6	6	幹線補助	
奥津線	31 (伊賀)	準幹線	6	6	6	幹線補助	

※) 平日1日1往復以下の路線は記載の対象外
(出典：三重交通オープンデータより加工)

令和7年10月現在の経路毎の運行本数を、以下の図に示します。

特に国道23号の白塚口（栗真中山町）～津駅～岩田町の区間及び津駅西口～大谷町の区間は、複数の路線が集約され、高頻度の運行を確保しています。また、国道23号沿いに立地する市内で最も店舗面積が広い商業施設であるイオンモール津南付近の区間（御殿場口～イオンモール津南）についても、高頻度の運行となっています。

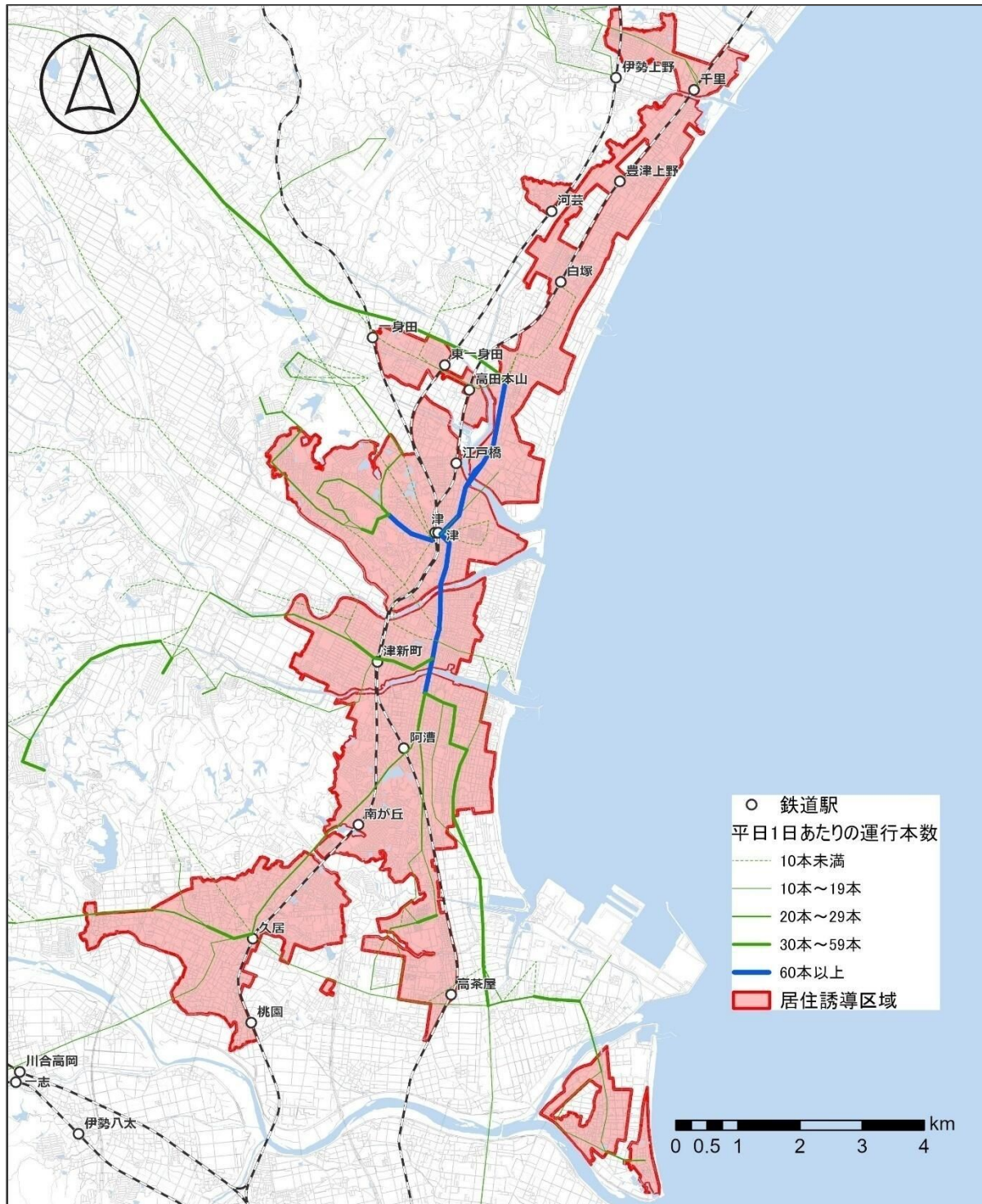


図 27 経路ごとの運行本数

令和7年9月現在の津市の公共交通利便地域（鉄道駅から1 km以内もしくは1時間に1往復以上停車するバス停から500 m以内）のうち、居住誘導区域内の面積は約31.19 km²です。これは居住誘導区域約33.82 km²のうち約92%です。

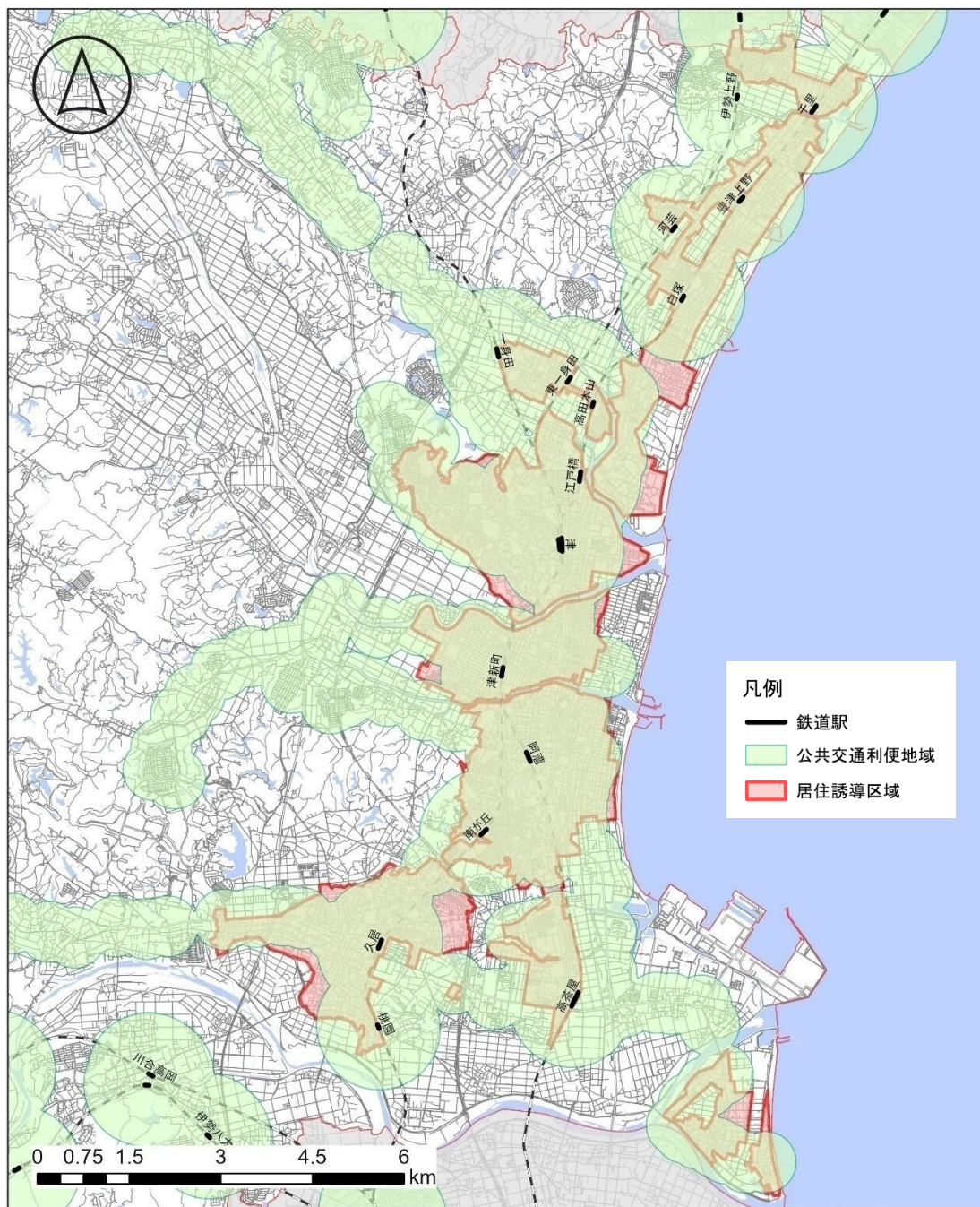


図 28 公共交通利便地域

令和 7 年 9 月現在の一般路線バスの幹線の役割の路線について、サービス水準を整理しました。

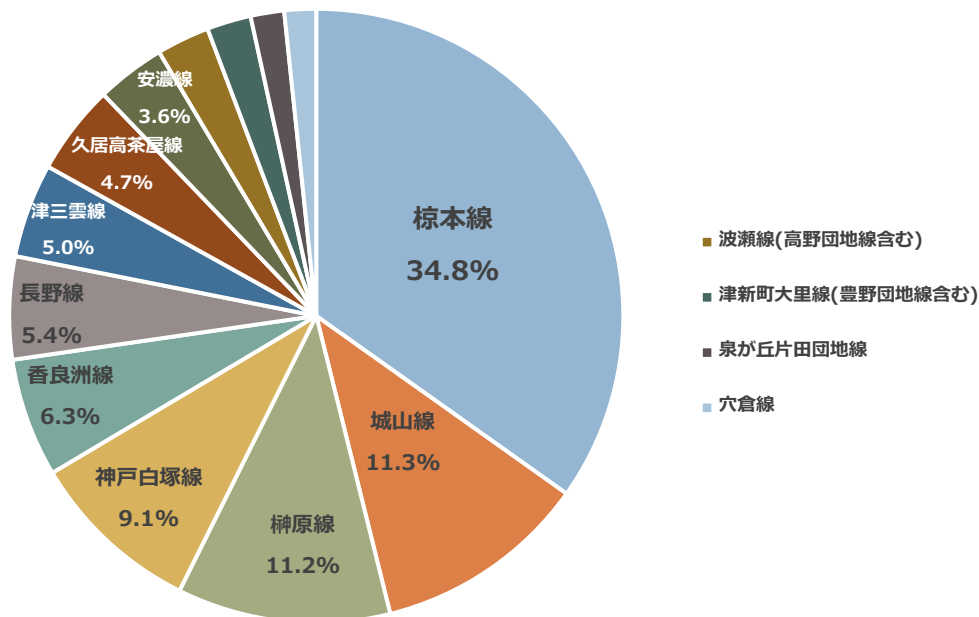
計画開始当初の令和 2 年時点では、概ね 1 時間に 1 本以上のサービス水準を確保していましたが、近年のバス運転手不足に起因する減便により、サービス水準の確保が困難な地域拠点が発生しました。特に、津市中心部から南西部方面でその傾向が目立ちます。

表 16 一般路線バスの幹線路線のサービス水準

分類	対象路線	運行区間等		サービス水準維持		
		都市拠点	地域拠点	経路の確保	ダイヤの確保	路線間の調整
幹線	神戸白塚線	津駅・江戸橋駅周辺、 津新町駅・大門・丸之内周辺	白塚、栗真、神戸	○	×	○
	津三雲線		藤水、雲出	○	○	○
	香良洲線		香良洲地域、藤水、雲出	○	○	○
	城山線		高茶屋、藤水	○	○	○
	一身田大里線		一身田、栗真	○	○	○
	棕本線		芸濃地域、高野尾・大里、 一身田、栗真、藤水、雲出	○	○	○
	豊野団地線		一身田、栗真	○	×	○
	安濃線		安濃地域、安東	○	×	—
	長野線		美里地域、櫛形、片田	○	×	○
	泉ヶ丘片田団地線		櫛形、片田	○	×	○
	穴倉線		櫛形	○	×	○
	榊原線	津駅・江戸橋駅周辺、 津新町駅・大門・丸之内周辺、 久居駅周辺	栗葉、榊原	○	○	—
	久居高茶屋線	久居駅周辺	香良洲地域、高茶屋、雲出	○	○	○
	波瀬線・ 高野団地線		一志地域	○	○	○
準幹線	津太陽の街線	河芸地域（千里駅）～鈴鹿市太陽の街～河芸地域（千里駅）		○	—	○
	亀山棕本線	芸濃地域（棕本）～亀山市（亀山駅）		○	—	—
	奥津線	御杖村敷津～美杉地域太郎生地区～名張市（名張駅）		○	—	○

② 利用状況

一般路線バス（幹線）の利用割合は、棕本線が34.8%で最も利用者数が多く、続いて城山線が11.3%、榊原線が11.2%と続いています。



(出典：三重交通提供資料)

図 29 令和 6 年度、一般路線バス（幹線）の利用割合

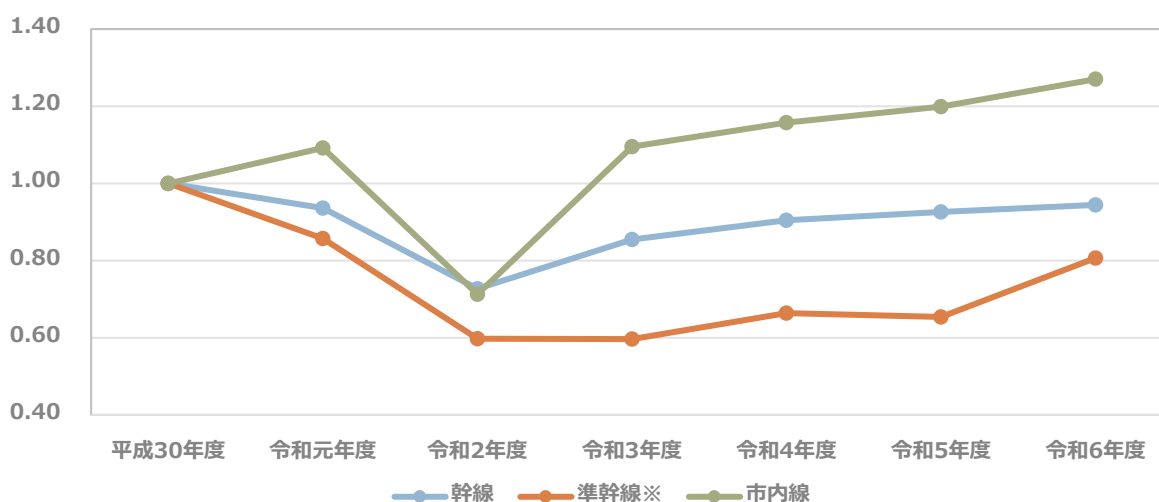
一般路線バスの利用者数については、令和 2 年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により利用が減少しました。その後、令和 3 年度以降は、市内線は平成 30 年度の 1.1 倍以上の水準で推移しています。一方、幹線は平成 30 年度の水準を下回っています。

幹線について地域別にみると、令和 6 年度の利用者数は、北部～南東部方面路線(棕本線、城山線等)が平成 30 年度の約 1.1 倍、久居地域路線が約 1.0 倍ですが、その他の地域の路線は平成 30 年度の 0.9 倍未満にとどまっています。路線別では、棕本線、城山線といった利用者の多い路線の増加が目立つ一方、穴倉線は、令和 4 年度以降は平成 30 年度の約半数にとどまっています。名張奥津線を除く準幹線では、平成 30 年度の約 0.6 倍を推移していましたが、令和 6 年度は約 0.8 倍と増加しました。

市内線をみると、新型コロナウイルス感染拡大の影響による津エアポートラインの減便に合わせて津なぎさまち線も減便しており、令和 5 年度に津エアポートラインが増便した後も、一部時間帯で接続する便がない状況にあり、令和 4 年度以降は平成 30 年度の 0.3～0.4 倍程度にとどまっています。一方で、津駅西口発着路線は増加傾向で、令和 6 年度は平成 30 年度の約 1.4 倍となっています。

表 17 幹線の路線毎の地域区分

地域区分	路線名
北部～南東部方面路線	津三雲線、香良洲線、城山線、棕本線
北部～南西部方面路線	神戸白塚線、長野線、泉ヶ丘片田団地、安濃線、辰水殿府団地線
久居地域路線	波瀬線（高野団地線含む）、榊原線、久居高茶屋線
廃止代替路線	津新町大里線、豊野団地線



※) 準幹線に名張奥津線は含みません。

図 30 平成 30 年度の利用者数を 1 としたときの
路線種別の利用者数推移

表 18 平成 30 年度の利用者数を 1 としたときの
地域路線別の利用者数推移

利用者数

【単位：人】

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
津地域路線 (北部～南東部方面)	1,426,993	1,396,107	1,060,390	1,343,200	1,417,700	1,439,400	1,558,700
津地域路線 (北部～南西部方面)	872,953	740,198	567,459	648,700	700,900	714,500	587,000
津地域路線 (廃止代替路線)	76,531	76,570	60,068	48,968	53,895	63,147	63,297
久居地域路線	503,672	482,887	406,018	420,620	431,576	451,052	509,623
準幹線	47,493	40,689	28,383	28,327	31,520	31,037	38,305
合計	2,927,642	2,736,451	2,122,318	2,489,815	2,635,591	2,699,136	2,756,925

割合

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
津地域路線 (北部～南東部方面)	1.00	0.98	0.74	0.94	0.99	1.01	1.09
津地域路線 (北部～南西部方面)	1.00	0.85	0.65	0.74	0.80	0.82	0.67
津地域路線 (廃止代替路線)	1.00	1.00	0.78	0.64	0.70	0.83	0.83
久居地域路線	1.00	0.96	0.81	0.84	0.86	0.90	1.01
準幹線	1.00	0.86	0.60	0.60	0.66	0.65	0.81
全体	1.00	0.93	0.72	0.85	0.90	0.92	0.94

(出典：三重交通提供資料)

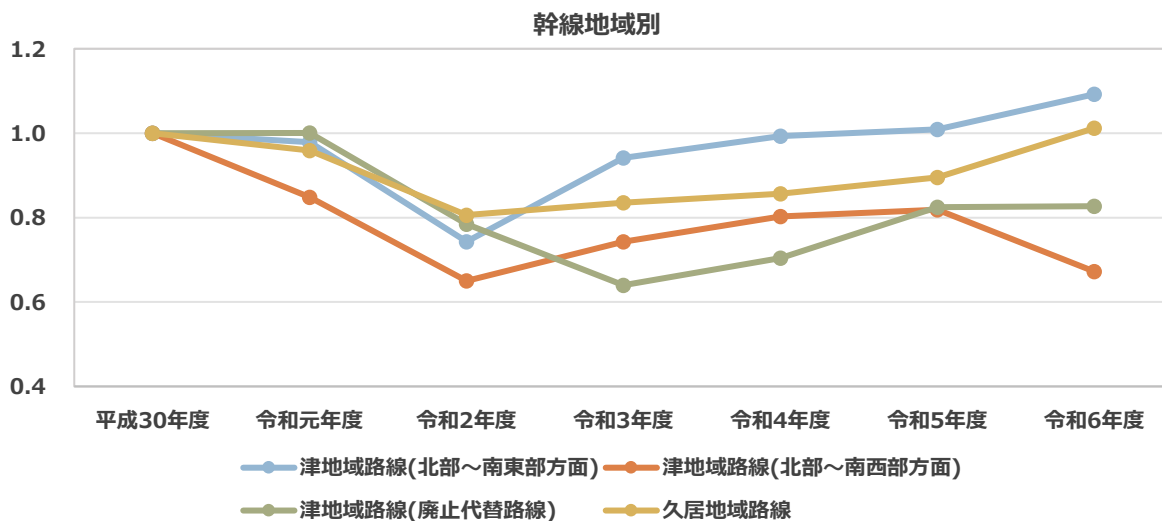


図 31 平成 30 年度の利用者数を 1 としたときの
地域路線別の利用者数推移

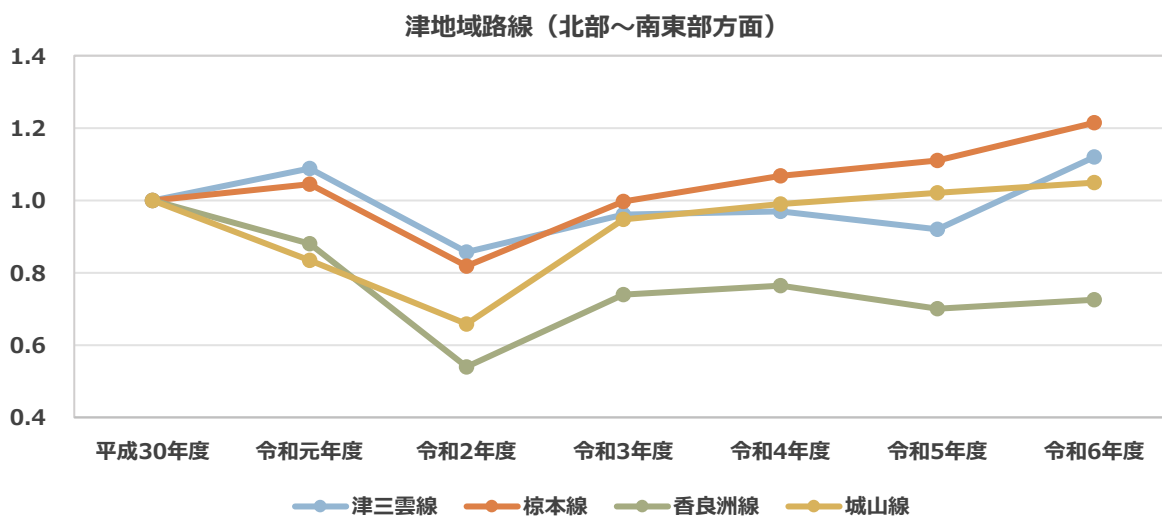


図 32 平成 30 年度の利用者数を 1 としたときの
津地域路線（北部～南東部方面）の利用者数推移

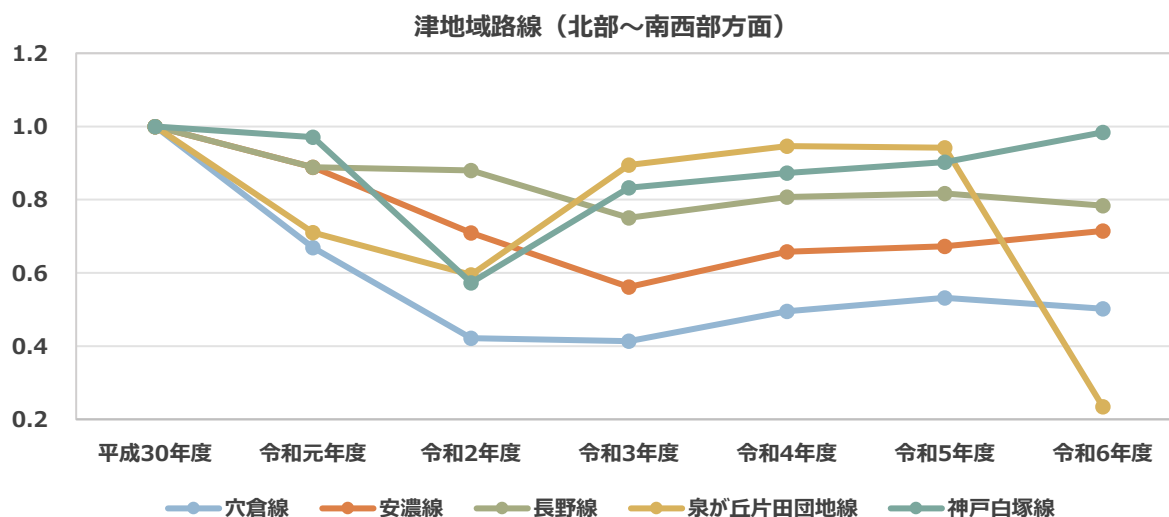


図 33 平成 30 年度の利用者数を 1 としたときの
津地域路線（北部～南西部方面）の利用者数推移

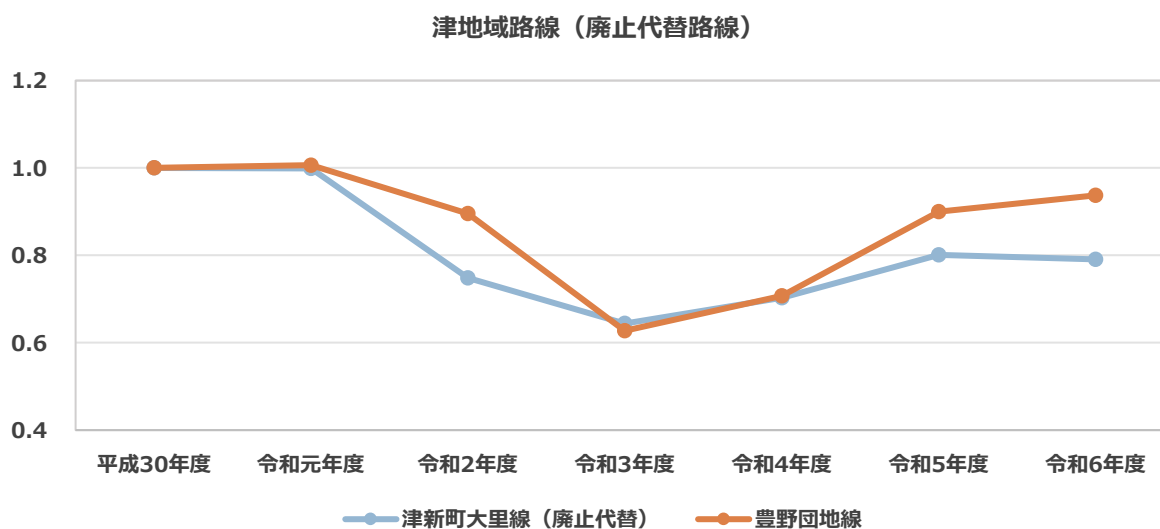
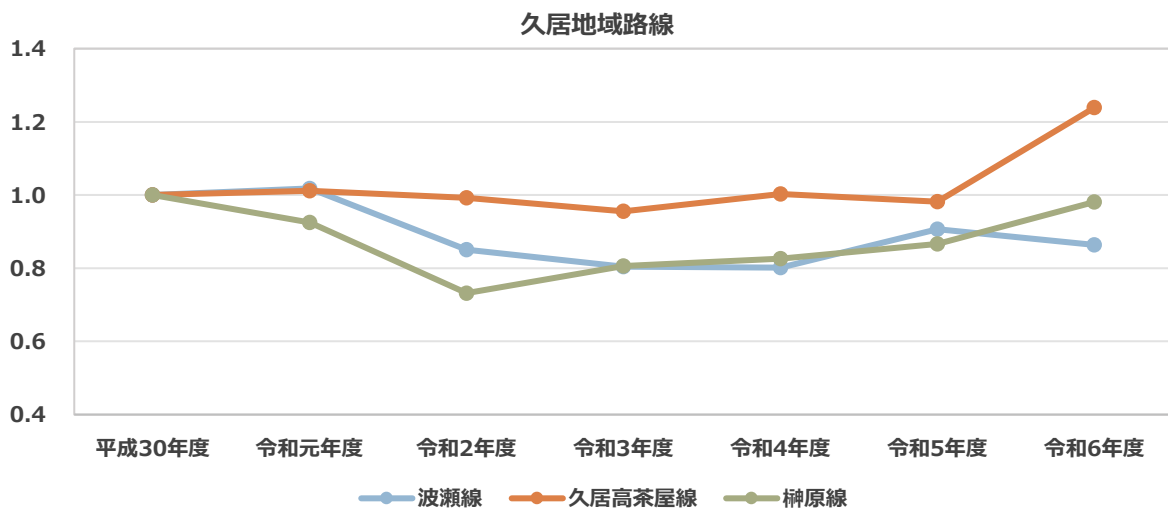


図 34 平成 30 年度の利用者数を 1 としたときの
津地域路線（廃止代替路線）の利用者数推移



「高野団地線」⇒「波瀬線」に組み入れ

図 35 平成 30 年度の利用者数を 1 としたときの
久居地域路線の利用者数推移

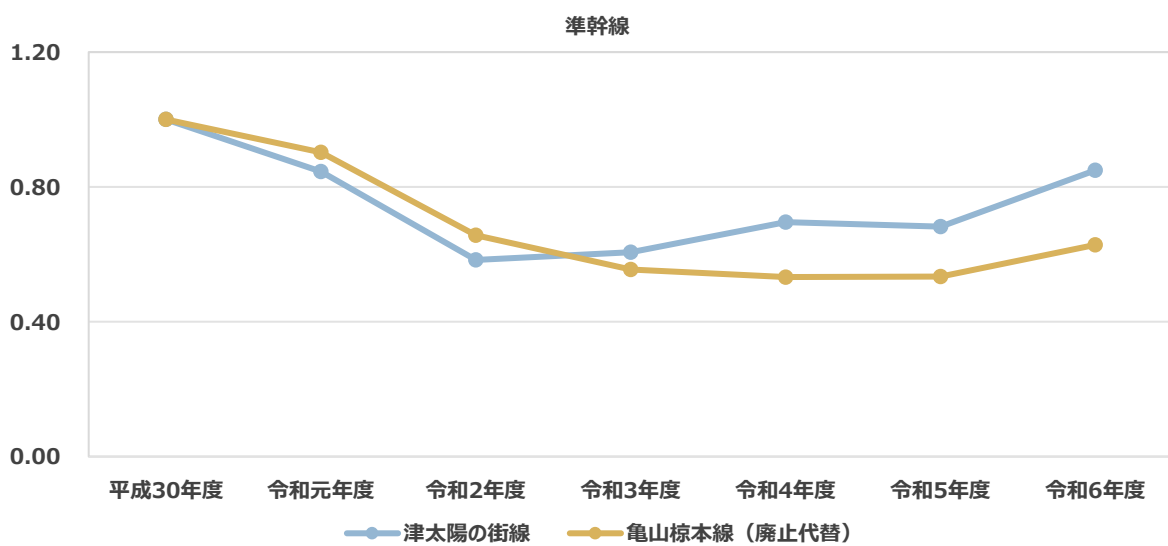
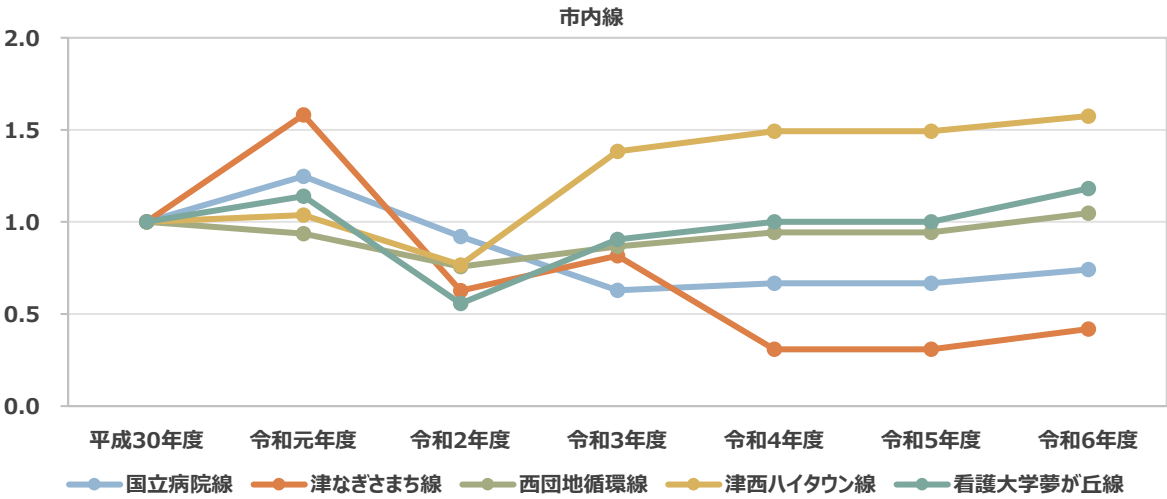


図 36 平成 30 年度の利用者数を
1 としたときの準幹線の利用者数推移



※)「津駅西団地循環線」「津西ハイタウン線」「看護大学夢が丘線」⇒合計して「津駅西口発着路線」

図 37 平成 30 年度の利用者数を
1 としたときの市内線の利用者数推移

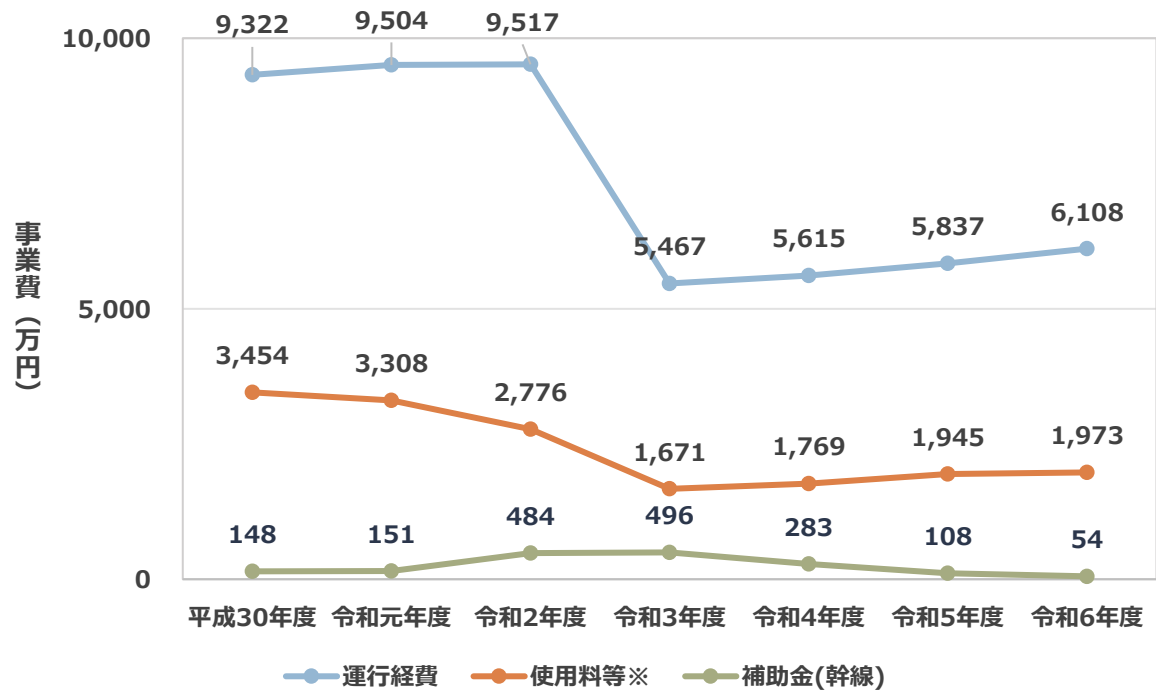
表 19 市内線の利用者数推移と
平成 30 年度の利用者数を 1 としたときの市内線の利用者数推移

利用者数		【単位：人】					
	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
国立病院線	48,971	61,116	45,085	30,800	32,700	33,400	36,300
津なぎさまち線	41,188	65,128	25,846	33,600	12,700	13,400	17,200
津駅西口発着路線	659,698	692,489	463,594	757,100	822,500	852,400	898,900
合計	749,857	818,733	534,525	821,500	867,900	899,200	952,400

割合							
	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
国立病院線	1.00	1.25	0.92	0.63	0.67	0.68	0.74
津なぎさまち線	1.00	1.58	0.63	0.82	0.31	0.33	0.42
津駅西口発着路線	1.00	1.05	0.70	1.15	1.25	1.29	1.36
全体	1.20	1.09	0.71	1.10	1.16	1.20	1.27

(出典：三重交通提供資料)

自主運行バスによる運行経費は、路線再編の影響により令和3年度に運行経費が、約4,000万円減少しました。



※)「名張奥津線」の三重交通(株)負担金を含む

図 38 自主運行（廃止代替）バスの事業費内訳

3) 津市コミュニティバス

令和7年4月末現在の津市コミュニティバスは、以下のとおりです。

一部のルートを除き、月曜日～土曜日のうち3日の運行となっています。白山地域については、通学需要があることから、週5日以上での運行となっています。

利用状況について地域別にみると、久居、河芸及び安濃地域で、令和3年度以降利用が増加傾向にあります。一方で、美杉地域は、令和3年度以降減少傾向です。再編で平日毎日運行から曜日限定運行となり、1日の運行便数も減少した美里地域については、平成30年度を基準とすると、令和3年度以降の利用は半分以下です。

ルート別にみると、久居地域の久居北・片田・高茶屋ルート及び久居西循環ルート、河芸地域の河芸循環ルート及び河芸南・一身田・白塚循環ルート、白山地域の八対野・大三ルート、美杉地域の美杉西ルートで1便あたり利用者数が4人を超えています。一方で、美里地域の長野・榊原ルート、美杉地域の美杉南ルート及び美杉循環ルートでは、1便あたりの利用者数が1人を下回っています。

表 20 津市コミュニティバスルート一覧

地域	ルート名称	運転状況	運行形態	補助の活用
河芸	河芸循環ルート	週3日3往復半	79条空白地	フィーダー補助
	河芸南・一身田・白塚循環ルート	週3日4往復	79条空白地	フィーダー補助
久居	久居北・片田・高茶屋ルート	週3日4往復	4条乗合	フィーダー補助
	久居南・雲出ルート	週3日4往復	4条乗合	フィーダー補助
	久居西循環ルート	週1日2往復	79条空白地	フィーダー補助
芸濃	芸濃北ルート	週3日3往復半	79条空白地	フィーダー補助
	芸濃南ルート	週3日3往復半	79条空白地	フィーダー補助
安濃	清水ヶ丘団地・戸島・椋本ルート	週3日3往復	79条空白地	フィーダー補助
	妙法寺・野口・椋本ルート	週3日3往復	79条空白地	フィーダー補助
美里	穴倉・辰水・忠盛塚ルート	週3日3往半	4条乗合	フィーダー補助
	長野・榊原ルート	週3日4往復	4条乗合	
一志	一志東・伊勢中川駅ルート	週3日4往復	4条乗合	フィーダー補助
	一志西循環ルート	週3日4往復	4条乗合	フィーダー補助
白山	八対野・大三ルート	週7日7往復	4条乗合	フィーダー補助
	福田山・川口・三ヶ野ルート (曜日で経路が異なる)	週5日4～5往復	4条乗合	
美杉	美杉東ルート	週3日4往復	4条乗合	フィーダー補助
	美杉西ルート	週3日4往復	4条乗合	フィーダー補助
	美杉南ルート	週1日8本	79条空白地	
	美杉循環ルート	週2日15本	79条空白地	

表 21 令和 6 年度の 1 便あたり利用者数一覧表

各地域	ルート	曜日	利用者数 (人)	総運行便数 (便)	1 便あたり 利用者数一覧表 (人/便)
河芸地域	河芸循環 (月・水・土) ルート	月・水・土	4,619	1,085	4.25
	河芸南・一身田・ 白塚循環ルート	火・木・金	5,016	1,224	4.11
久居地域	久居北・片田・ 高茶屋ルート	火・木・金	7,516	1,224	6.14
	久居南・雲出ルート	月・水・土	3,926	1,240	3.16
	久居西循環ルート	火	1,011	204	4.95
芸濃地域	芸濃北ルート	火・木・金	2,523	1,085	2.35
	芸濃南ルート	月・水・土	2,915	1,071	2.68
安濃地域	清水ヶ丘団地・戸島・ 棕本ルート	火・木・金	3,460	930	3.76
	妙法寺・野口・ 棕本ルート	月・水・土	2,029	918	2.18
美里地域	穴倉・辰水・ 忠盛塚ルート	月・水・土	1,511	1,085	1.39
	長野・榊原ルート	火・木・金	993	1,224	0.81
一志地域	一志東・伊勢中川駅 ルート	月・水・土	3,712	1,240	2.99
	一志西循環ルート	火・木・金	2,239	1,224	1.83
白山地域	八対野・大三ルート	毎日	20,266	5,026	4.03
	福田山・川口・三ヶ野 (月・水・金) ルート	月・水・金	2,354	1,540	1.52
	福田山・川口・三ヶ野 (火・木) ルート	火・木	1,874	1,020	1.83
美杉地域	美杉東ルート	月・水・金	3,137	1,232	2.54
	美杉西ルート	月・水・金	5,073	1,232	4.11
	美杉南ルート	水	228	408	0.55
	美杉循環ルート	火・木	1,251	1,530	0.81

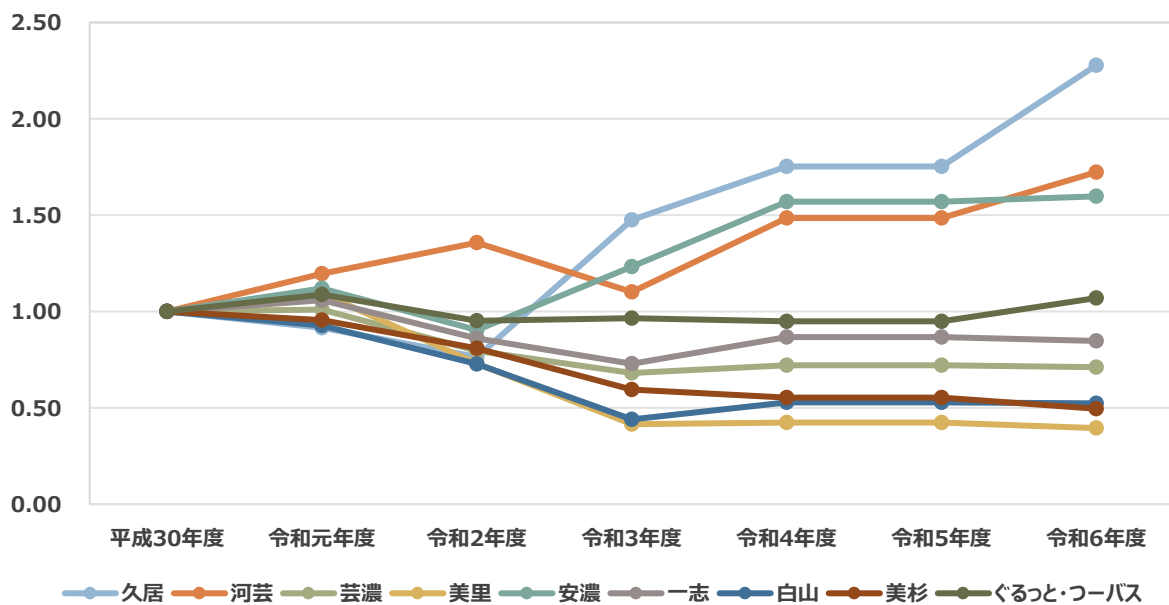


図 39 平成 30 年度の利用者数を 1 としたときの
津市コミュニティバス等の利用者数推移

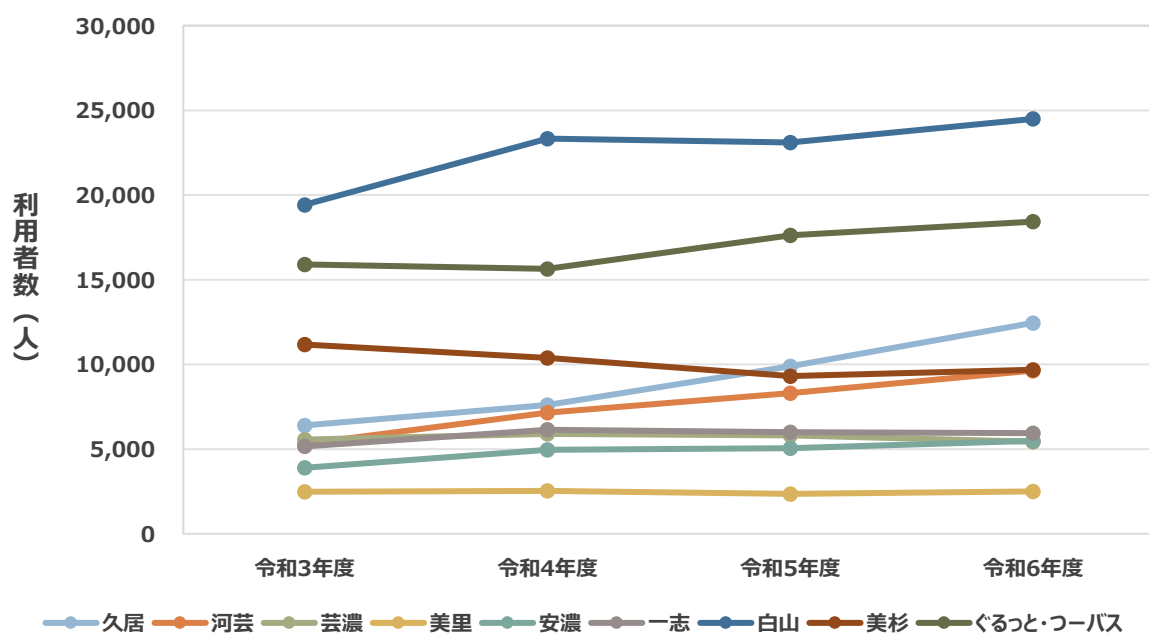


図 40 地域毎の利用者数推移

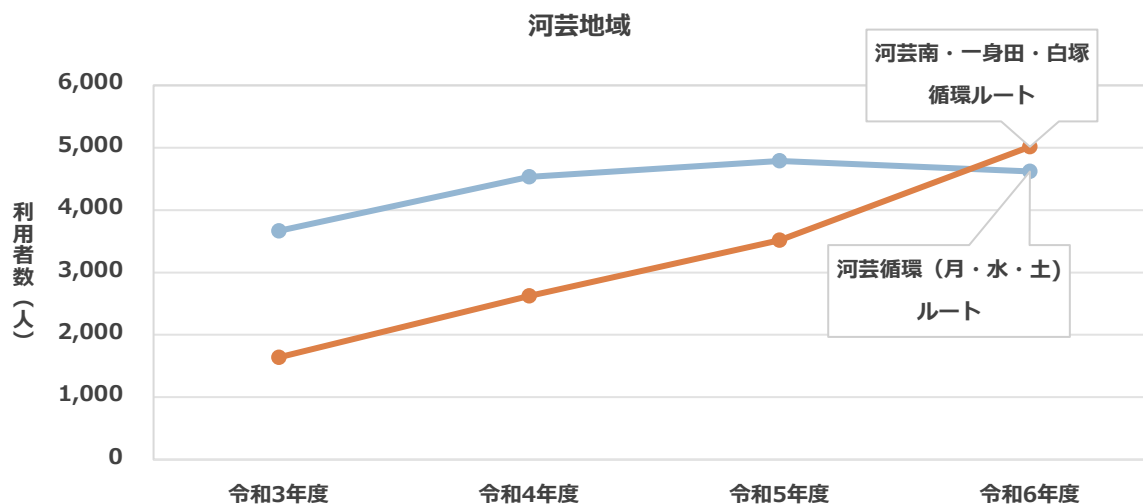


図 41 ルート毎の利用者数推移 (河芸地域)

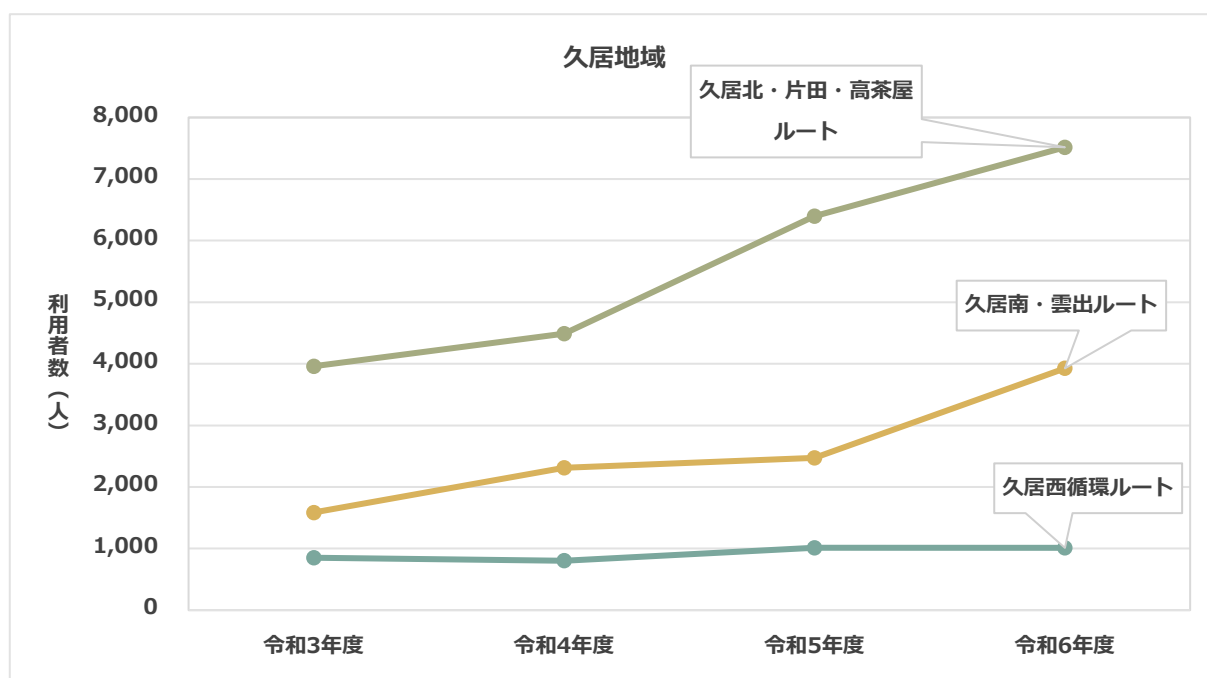


図 42 ルート毎の利用者数推移 (久居地域)

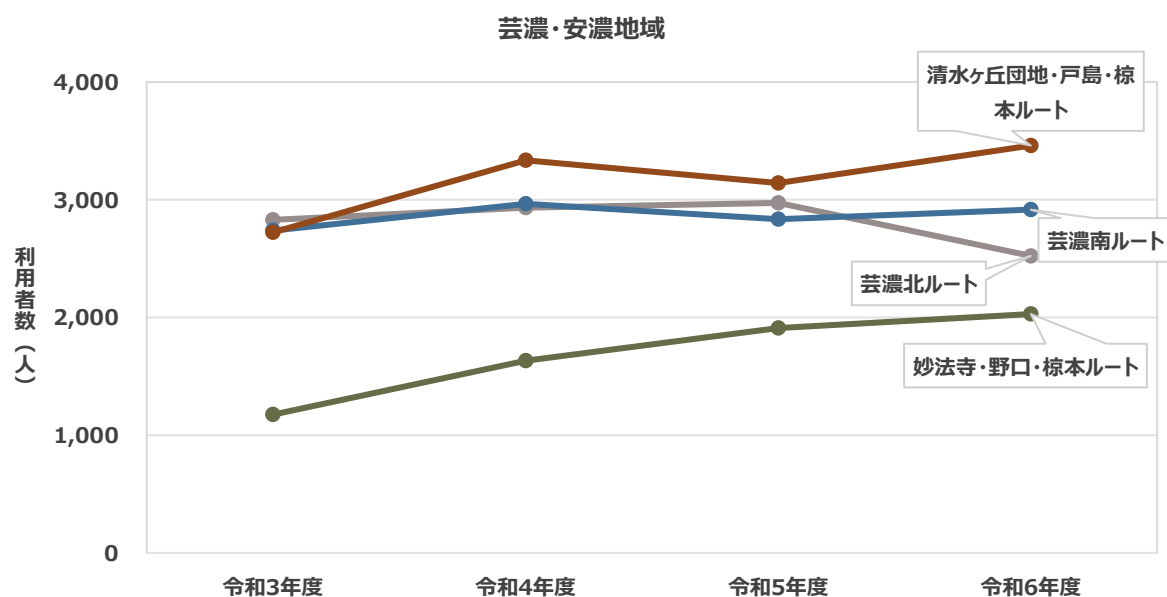
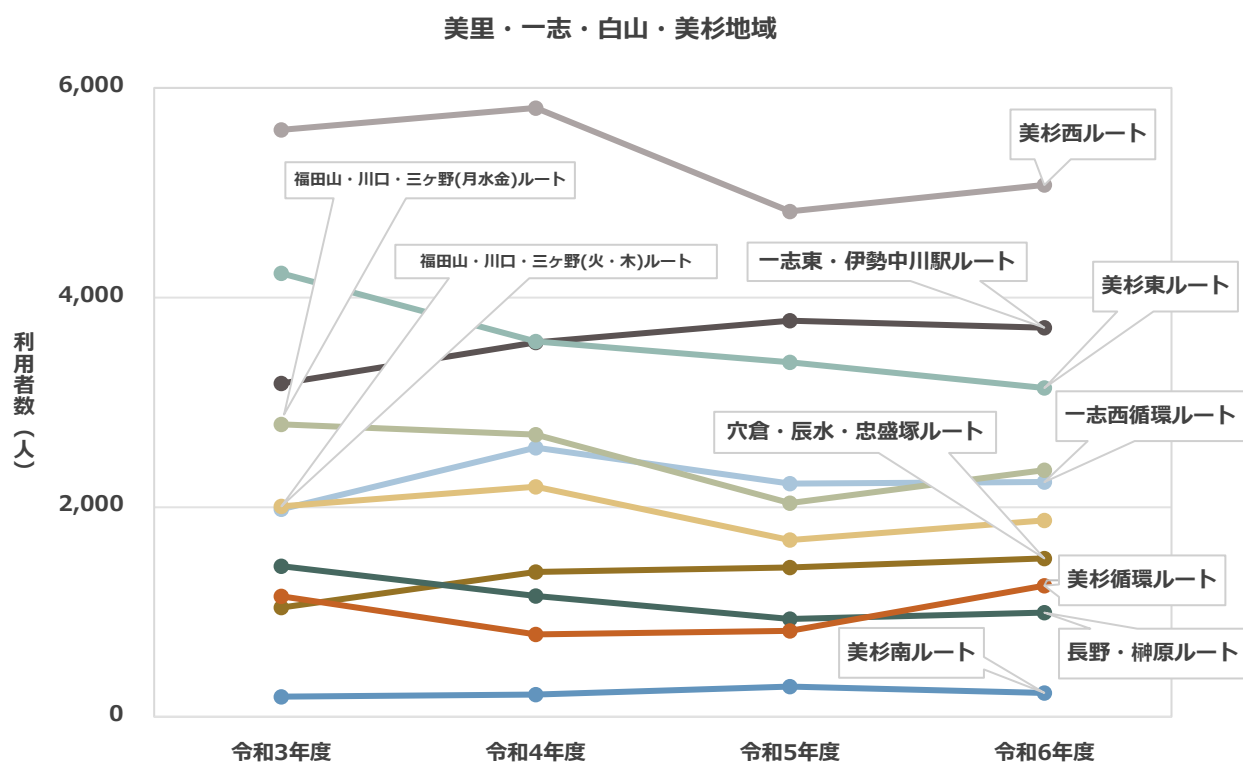


図 43 ルート毎の利用者数推移（芸濃地域・安濃地域）

図 44 ルート毎の利用者数推移
(美里地域・一志地域・白山地域・美杉地域、八対野・大三ルートを除く)

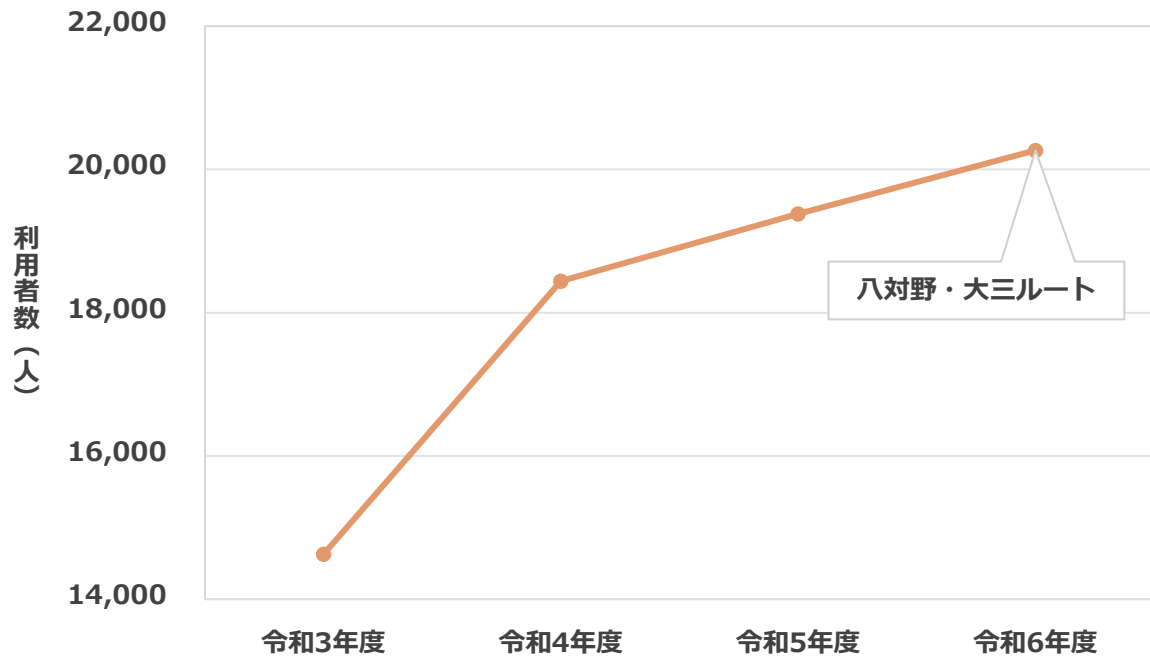


図 45 （白山地域）八対野・大三ルートの利用者推移

津市コミュニティバスの収入は、補助金収入が半数以上を占めています。令和元年度使用料収入が約 500 万円でしたが、その後は減少傾向で、400 万円を下回っています。運行経費は令和3年度以降、上昇傾向です。

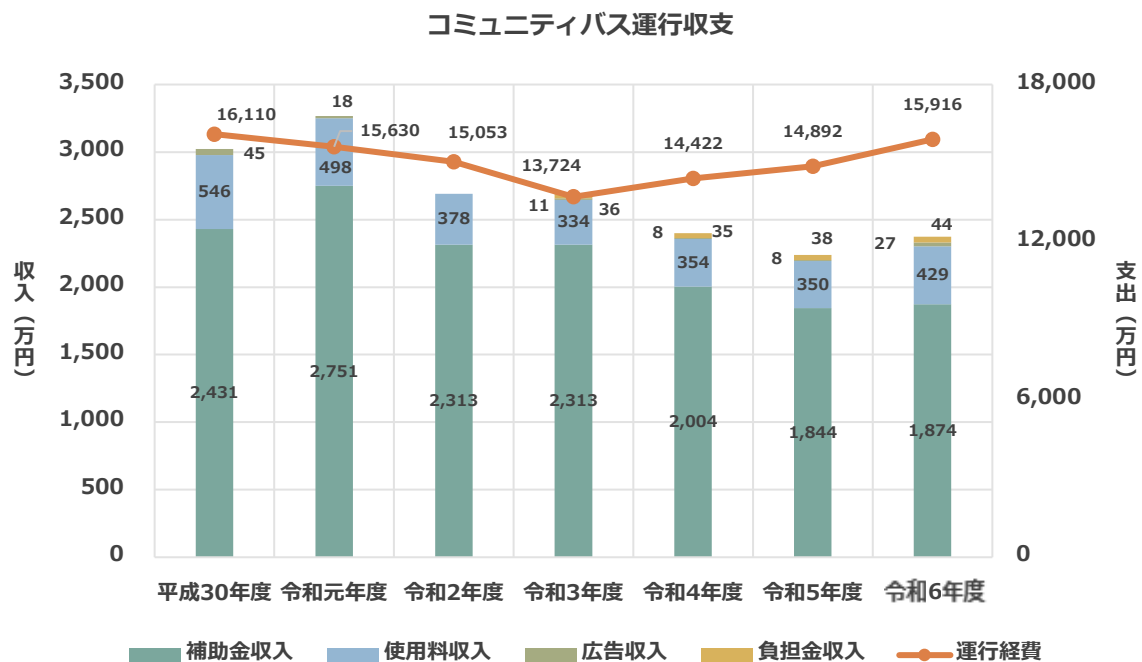


図 46 津市コミュニティバスの運行収支

4) 地域住民運営主体型コミュニティ交通

令和7年4月現在、津市内で地域住民が主体となって運行しているコミュニティ交通は、津地域の高松山団地で運行されています。（白山地域の二俣地区及び上佐田地区は、令和6年10月に運行を廃止しました。）

表 22 住民主導型コミュニティ交通の概要

運行地区	運行内容	経緯
高松山団地 (津地域)	乗合ワゴン	平成25年1月から3月まで実証運行、平成25年4月から本格運行開始
二俣地区 (白山地域)	乗合タクシー	平成27年12月から平成28年2月まで実証運行、平成28年3月から本格運行開始。令和6年10月末廃止。
上佐田地区 (白山地域)	乗合タクシー	平成27年12月から平成28年2月まで実証運行、平成28年3月から本格運行開始。令和6年10月末廃止。

毎年の利用者数にばらつきがあるため、運賃収入もばらついていました。令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大による影響を受け減少したものの、令和3年度には、高松山団地、上佐田地区の運賃収入は増加しています。しかしその後の運賃収入は、令和3年度まで達していません。二俣地区は、令和5年度まで利用者がいないため運賃収入がなく、二俣地区及上佐田地区は令和6年10月に廃止されています。

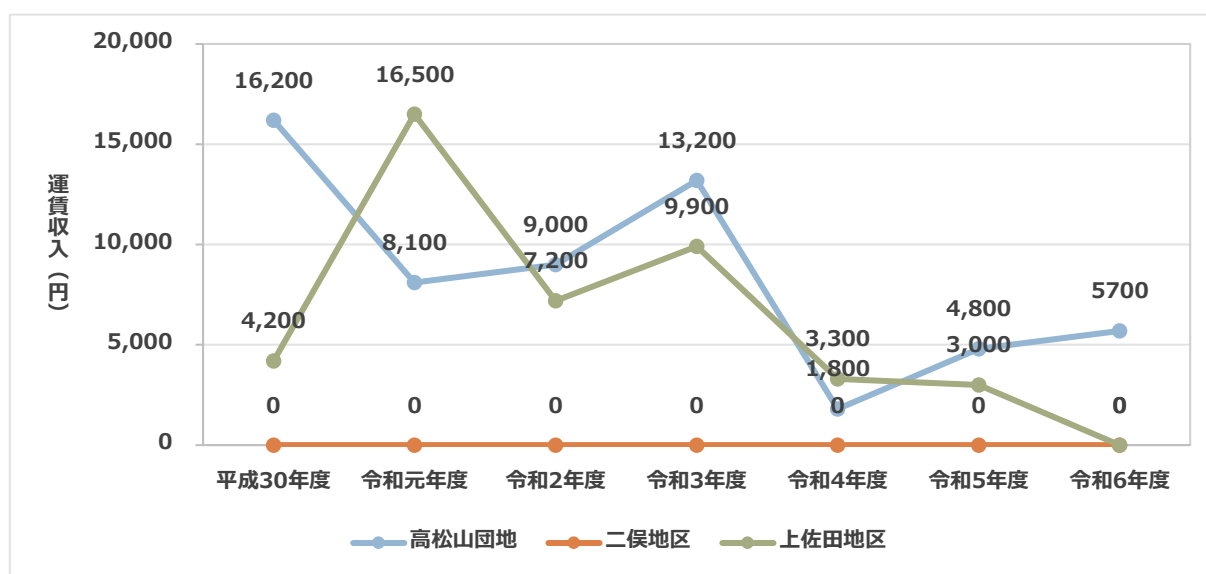


図 47 地域住民運営主体型コミュニティ交通の運賃収入

(4) タクシー

津市及び松阪市（ただし、旧嬉野町、旧三雲町の区域に限る。）で「津交通圏」を形成しており、令和7年8月現在、津市内には事業者が9者あります。タクシーの稼働状況及び利用状況は、以下のとおりです。

表 23 タクシー事業者一覧

会社名	所在地	特大	大型	普通	特殊	計
三重近鉄タクシー(株)津営業所	津市大字岩田字丸山 1 番 8 号	3		45		48
安全タクシー三重(株)津営業所	津市上弁財町津興 3193	1		15		16
三重第一交通(株)	津市寿町 20 番 17 号			31		31
共和タクシー(有)	津市中央 6 番 27 号			15		15
久居交通(株)	津市戸木町 4096	3		33	1	37
つタクシー(有)	津市乙部 2016 番地			11		11
(有)中川タクシー	津市垂水 1348 番地			7		7
河芸タクシー(有)	津市河芸町東千里 132 番地の 5			14		14
(株)一志運輸	津市一志町高野 225 番地の 1	1		3		4

（（一社）三重県タクシー協会提供資料）

※）令和7年8月時点

表 24 タクシーの稼働状況及び利用状況

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
車両数	230	224	223	192	186	189	187	179	178	183
実働車両数	53,500	52,604	50,293	46,761	42,799	40,782	41,159	37,540	36,066	37,935
輸送人員	1,188,611	1,148,055	1,130,234	1,048,997	903,057	516,893	554,795	677,096	682,350	668,571
総実車キロ	3,288,153	3,189,161	3,156,182	2,999,817	2,653,608	1,517,557	1,599,383	1,936,831	1,986,018	1,969,527
営業収入 (千円)	1,378,923	1,355,882	1,354,550	1,293,790	1,087,499	684,145	739,741	891,644	948,573	994,139

（（一社）三重県タクシー協会提供資料）

輸送人員は、平成 27 年度から減少傾向にあり、さらに令和 2 年には新型コロナウイルス感染拡大の影響によって約 51.7 万人/年に落ち込みましたが、その後は若干回復し、令和 6 年度は約 66.9 万人/年です。営業収入も同じく平成 27 年度から減少傾向にあり、令和 2 年度に約 6.8 億円/年まで落ち込みましたが、その後は増加傾向で、令和 6 年度は約 9.9 億円/年まで回復しています。

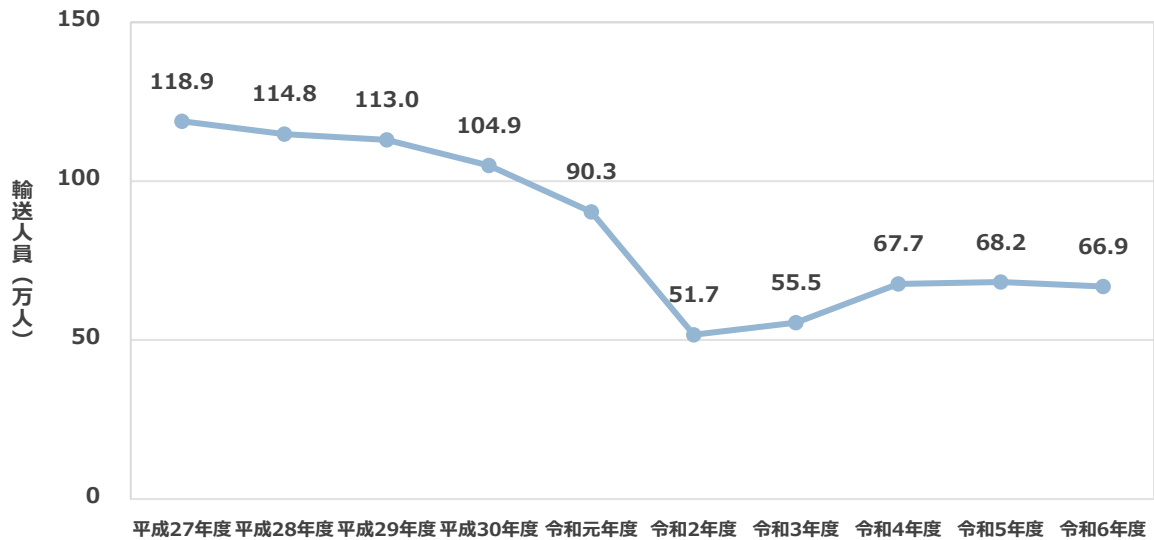


図 48 タクシーの輸送人員

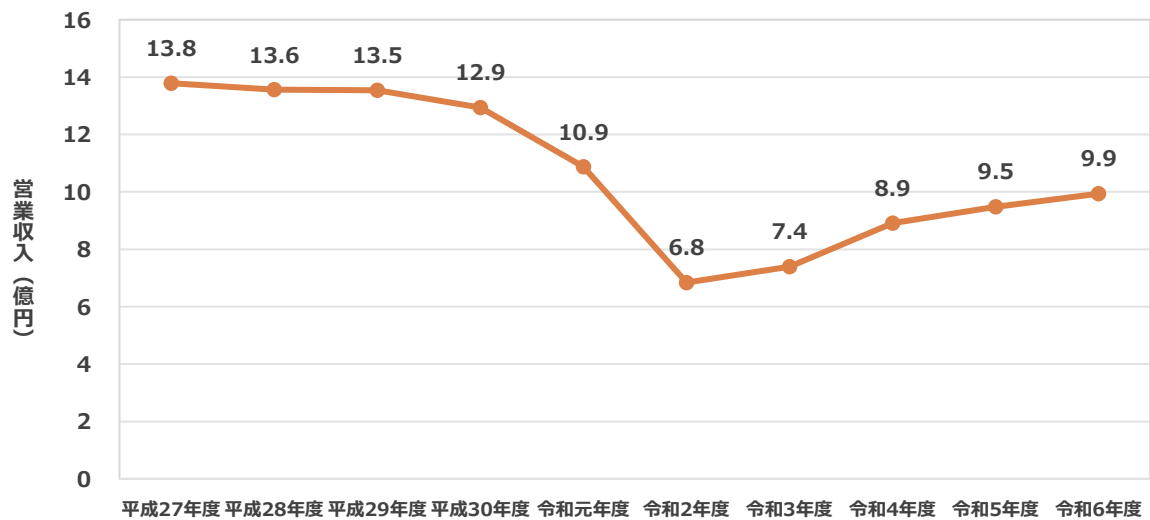


図 49 タクシーの営業収入

（５）高速船（津エアポートライン）

高速船の利用者数は、令和元年度までは、年間利用者数で約２６万人～２９万人の間を推移していましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響によって、令和２年度の利用者数が約２．５万人まで落ち込みました。令和６年度の利用者数は約１９．３万人で、近年は回復傾向にありますが、中部国際空港の就航便数がコロナ禍前の水準まで回復していないことなどから、令和元年度以前の水準には戻っていない状況です。

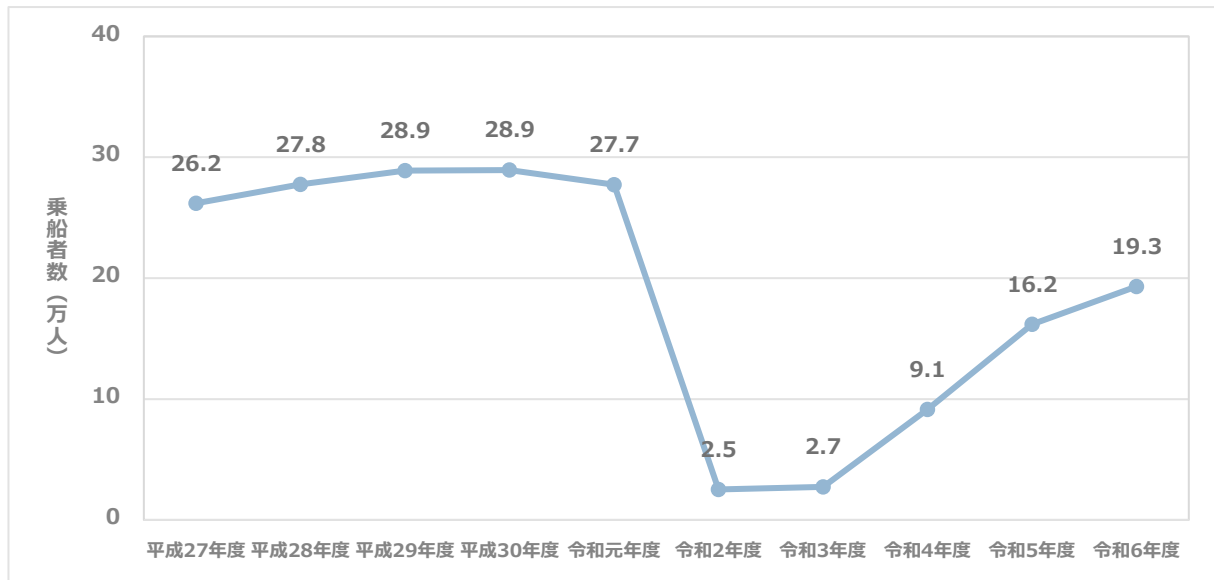


図 50 高速船 年度別乗船者数

表 25 高速船 年度別乗船者数

【単位：人】

平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
261,858	277,590	288,954	289,387	277,326	25,217	27,220	91,474	161,741	193,155

（出典：津エアポートライン提供資料）

(6) 福祉有償運送登録法人

令和7年3月31日現在、福祉有償運送登録法人は、14法人登録されています。

表 26 福祉有償運送登録法人一覧

法人名	事業所名	車両台数	事業所所在地
社会福祉法人 あけあい会	ルミナスビレッジ曽根 訪問介護サービスセンター	5両	安濃町曽根
みえなか農業協同組合	あいけあセンター	4両	白山町二本木
社会福祉法人 洗心福祉会	津中央ヘルパーステーション シルバーケア豊寿園	15両	本町
	白塚訪問介護ステーション シルバーケア豊寿園		白塚町
	久居訪問介護ステーション シルバーケア豊寿園		久居新町
社会福祉法人 いろどり福祉会	ホームヘルパーステーション花紬	2両	芸濃町棕本
社会福祉法人 こしば福祉会	介護老人保健施設トマト	3両	殿村
特定非営利活動法人 おもいやり介護の会 つくしんぼ	特定非営利活動法人 おもいやり介護の会 つくしんぼ	1両	一色町
社会福祉法人 実践	実践 津	27両	大倉
医療法人 和	さくらケアサービス	2両	本町
特定非営利活動法人 共同連三重	特定非営利活動法人 共同連三重	1両	稲葉町
特定非営利活動法人 ゆずの木会	訪問介護ステーション スリースマイル	6両	岩田
特定非営利活動法人 ホワイトライフ	居宅・訪問介護ステーション そら	4両	木造町
特定非営利活動法人 スマイルハート	スマイルハート	10両	垂水
社会福祉法人 サザンコート	訪問介護事業所 サザンコート	4両	鳥居町
一般社団法人 こはるびより	こはるびより	1両	殿村

(7) その他の移動サービス

1) スクールバス

小学校の統廃合に伴う通学距離増大への対応として、一部地域で津市教育委員会によるスクールバスを運行しています。

表 27 津市におけるスクールバス運行状況

地域名	学校名	車両数 (台)	利用者数 (人)	利用対象
芸濃	芸濃小学校	4	64	旧雲林院小学校、旧安西小学校 の校区の児童が乗車対象
美里	みさとの丘学園	5	139	旧辰水小学校、旧長野小学校及 び旧高宮小学校の一部が対象
一志	一志西小学校	3	42	旧波瀬小学校及び旧大井小学校 の一部が対象
美杉	美杉小学校	3	31	通学距離が 4km 以上
	美杉中学校	4	29	通学距離が 6km 以上

※) 利用者数は令和 6 年 4 月現在

2) 送迎バス

学校、企業、施設等において、独自に送迎バスを運行していることがあります。

道路運送法適用対象外の送迎バスの内、津駅周辺発着のものは、以下のとおりです。

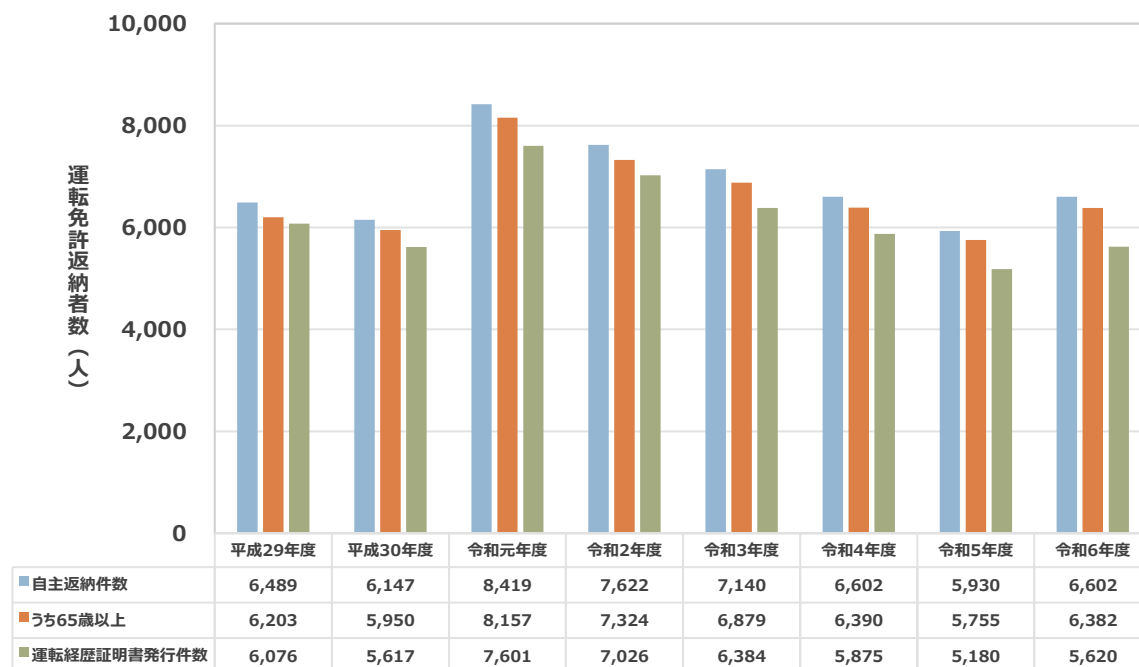
表 28 津駅周辺発着の送迎バス

分類	施設名称	発着場所	運行頻度
学校	高田短期大学	三重県護国神社境内	1 日 4 便(乗車のみ)
		津駅西口ロータリー	1 日 6 便(降車のみ)
	セントヨゼフ女子学園	津駅東口ロータリー	1 日 1 便(降車のみ)
	三重大附属 特別支援学校	津駅西口ロータリー	1 日 2 便(乗降とも)
企業	パナソニック	県道津停車場線上	1 日 4 便(乗降とも)
施設	フェニックスビル	県道津停車場線上	1 日 10 便(乗降とも)
	日本赤十字社	津駅西口北側市道上	1 日 5 便(乗降とも)
	津トップスイミング	津駅西口ロータリー	1 日 4 便(乗降とも)
	ラウンドワン	県道津停車場線上	1 日 15 便(乗降とも)
	三重高等自動車学校	アスト津前	1 日 12 便(乗降合計)
	津ポート	県道津停車場線上	1 日 8 便(乗降合計)

（８）運転免許自主返納件数

三重県内における運転免許自主返納件数は、令和元年度に高齢ドライバーによる死傷事故等をきっかけに増加しました。それ以降は減少傾向にありましたが、令和６年度は前年度を上回りました。

なお、自主返納件数のうち、９割以上が６５歳以上です。



（出典：三重県ホームページ「高齢運転者を取り巻く状況」）

図 51 三重県内の運転免許証自主返納件数

4. 観光客入込客数

津市の観光入込客数は、以下のとおりです。

令和元年までは400万人前後を推移していましたが、新型コロナウイルス感染拡大による影響で、令和2年度は約251万人/年まで減少しました。その後は増加傾向となっており、令和6年は約393万人となっています。

表 29 津市観光客入込客数（令和元年以降）

地域	施設等	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
津	津の海	239,780	51,320	91,350	150,450	202,210	193,880
	高田本山専修寺	321,888	289,711	155,000	221,000	296,000	229,000
	津偕楽公園春まつり	50,000					50,000
	津観音寺	235,000	205,000	205,000	215,000	210,000	216,000
	津花火大会	150,000			80,000	170,000	180,000
	津まつり	232,000			180,000	210,000	305,000
	結城神社	175,361	165,371	164,651	193,311	194,527	178,338
	県立美術館	83,068	37,476	119,001	97,337	54,627	99,267
	三重県総合博物館	262,754	82,911	103,282	130,021	164,116	164,798
	朝津味	467,144	402,300	598,275	373,122	380,481	464,273
久居	榊原温泉	302,534	201,837	199,567	184,561	301,474	361,303
	久居まつり(春)	5,500					5,000
	久居まつり(秋)				11,000	5,500	5,500
	おやつタウン			119,000	194,962	254,600	291,233
	久居花火大会	60,000				55,000	60,000
河芸	道の駅「津かわげ」	812,939	763,880	729,589	752,545	751,578	765,849
安濃	あのう温泉	52,885					48,688
一志	とことめの里一志	280,248	223,580	184,198	218,544	223,007	227,992
白山	猪の倉温泉	123,553	87,029	79,530			
美杉	美杉リゾート	68,538		18,743	26,271	62,648	58,742
	三多気桜まつり	15,000					9,320
	みすぎ夏まつり	16,000				15,000	17,000
	道の駅「美杉」			30,588			
合計		3,954,192	2,510,415	2,797,774	3,028,124	3,550,768	3,931,183

（出典：三重県観光レクリエーション入込客数推計書・観光客実態調査報告書）

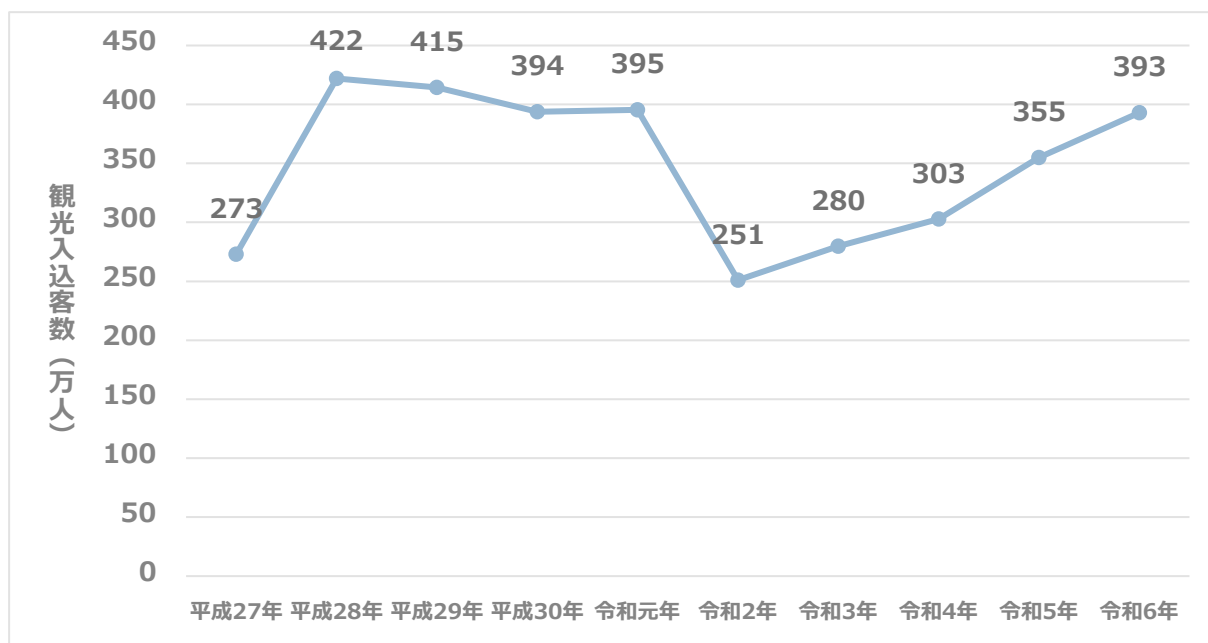


図 52 津市観光客入込客数

5. アンケート結果

(1) 津市総合計画のための市民意識調査

1) 概要

津市への愛着度や定住意向をはじめ、各施策に係る満足度や重要度などを把握するため実施した令和5年度津市市民意識調査の結果を取りまとめました。

2) 調査の手法・回答結果

調査対象：津市在住の15歳以上の方（令和5年6月30日時点）

抽出方法：住民基本台帳から無作為抽出

調査方法：郵送配付・郵送またはWebにより回収

調査時期：令和5年7月5日～8月31日

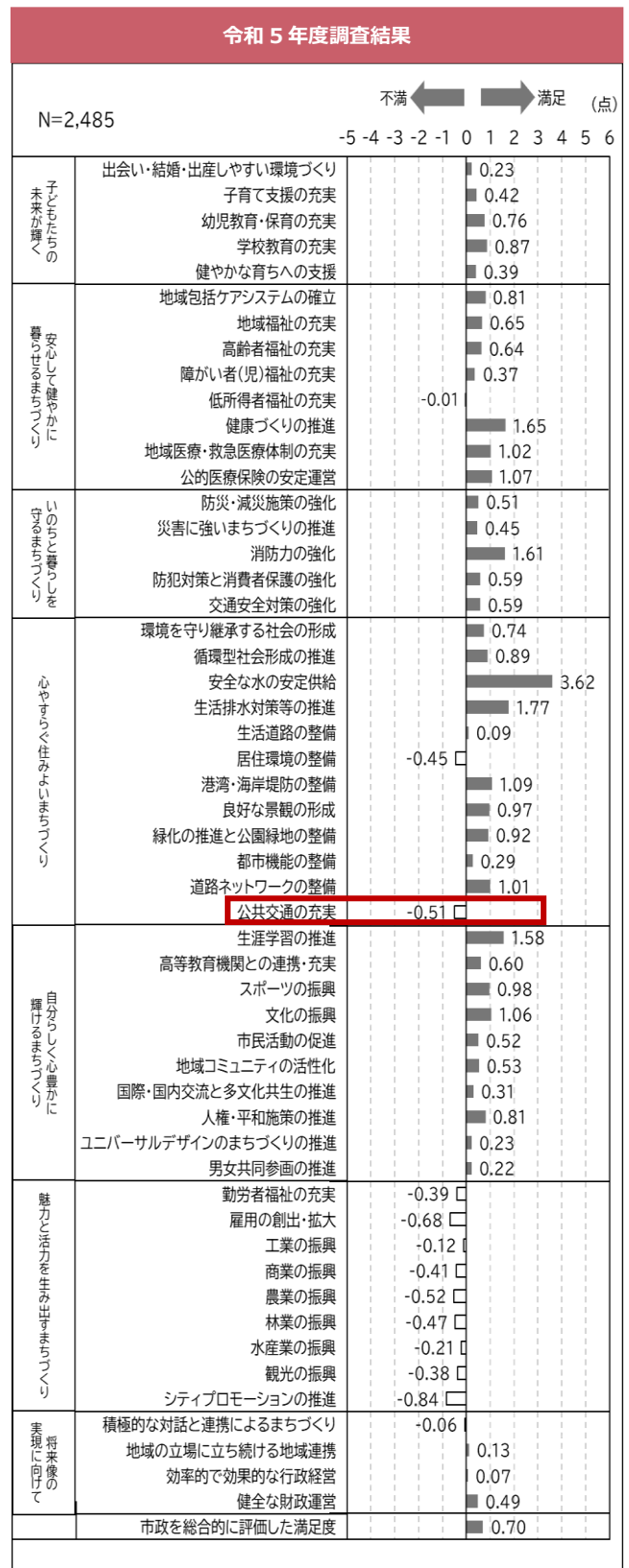
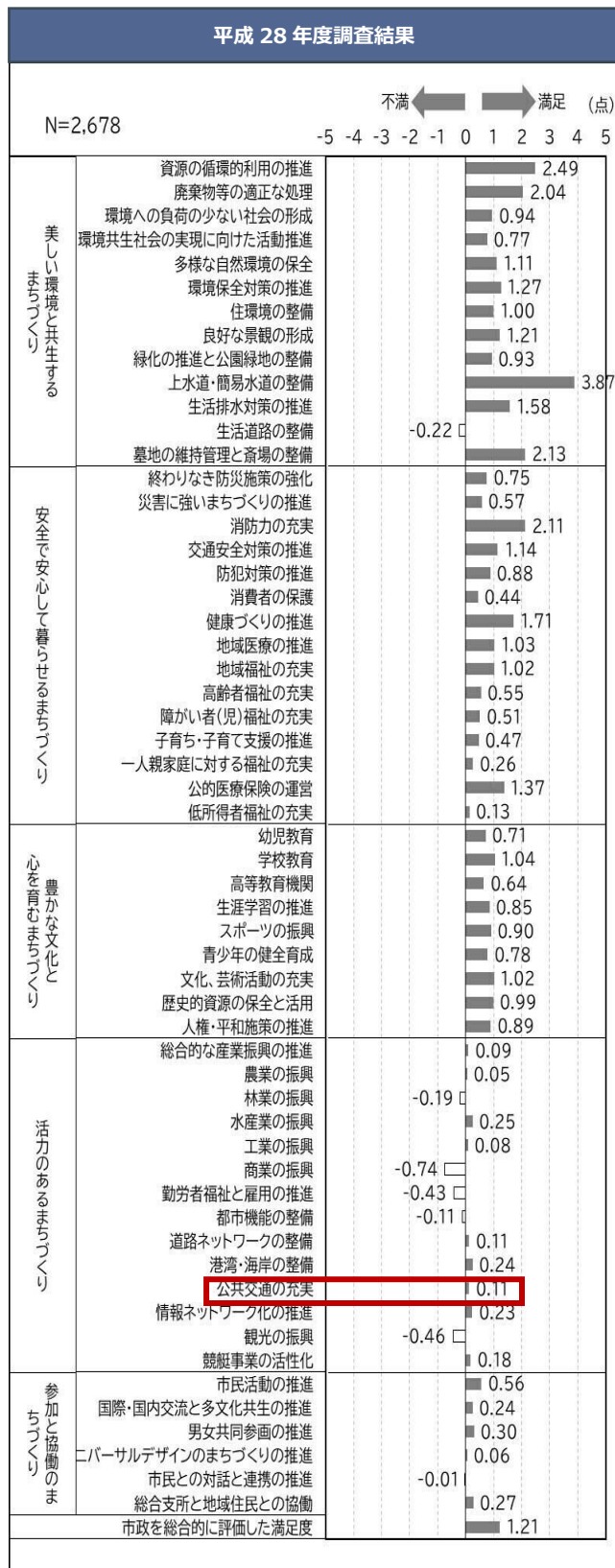
配付数：7,000票・回収数：2,492票（内Web回答621票）

※）うち重複等のため未採用7票

有効回収数：2,485票・有効回収率：35.5%

3) 公共交通の充実に関する満足度について

「公共交通の充実」に関する満足度（－0.51）は、平成28年度調査の結果（0.11）より下回る結果となりました。前回の調査から「不満」、「やや不満」の割合が、「満足」、「やや満足」の割合を上回りました。



※) 満足度の点数は、以下の計算により算出しています。

$$\text{満足度} = \frac{\text{「満足」} \times 10 + \text{「やや満足」} \times 5 + \text{「やや不満」} \times (-5) + \text{「不満」} \times (-10)}{\text{「無回答」を除いた回答数}}$$

図 53 津市総合計画策定のための市民意識調査における市政の満足度

地域別で見ると、「白山地域」（－ 3.19）で最も満足度が低く、次いで美里地域（－ 2.71）と続いています。続いて満足度の割合を見ると、香良洲・一志・白山・美杉地域では、「やや不満」、「不満」が合わせて30%以上を占めています。

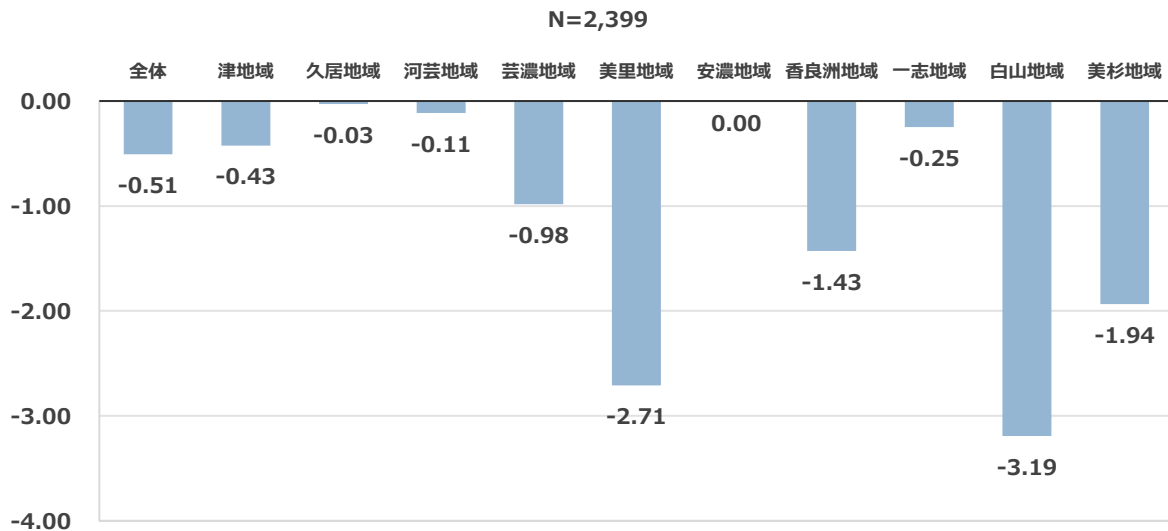


図 54 公共交通の充実に関する満足度について

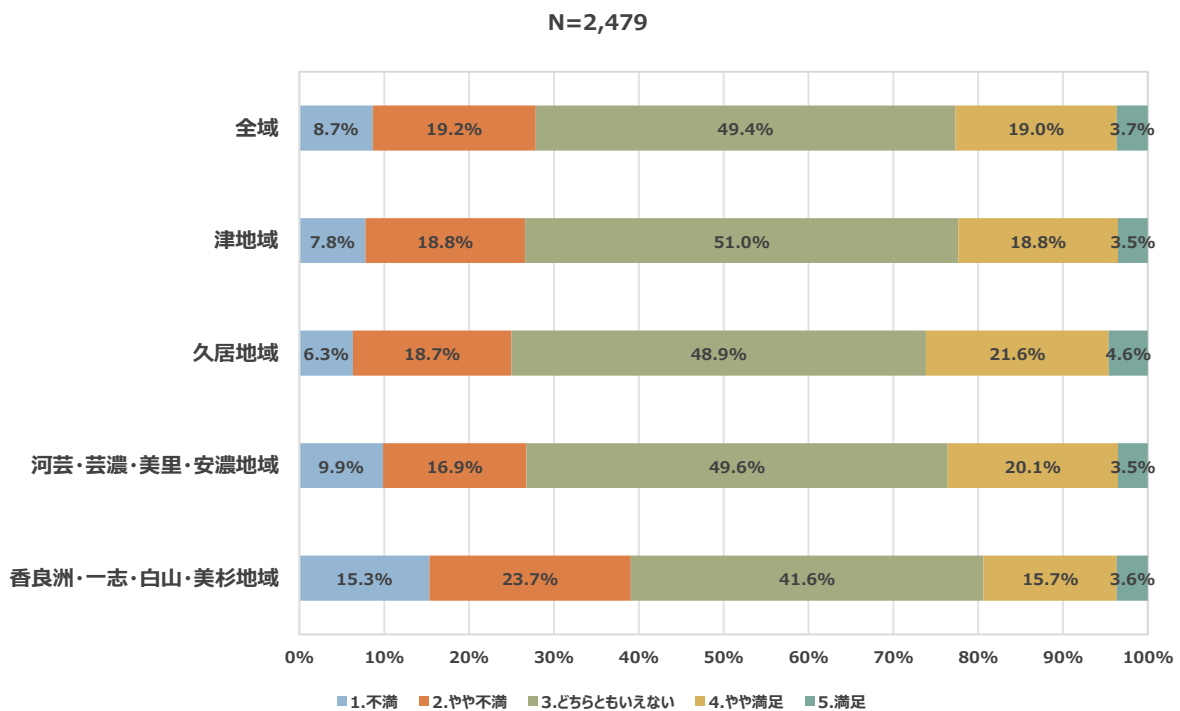


図 55 地域別公共交通の充実に関する満足度について

年代別に見ると、10代、20代、70代以上において「やや満足」が20%以上となっている一方で、30代から60代までの「やや満足」が20%を下回っている現状です。

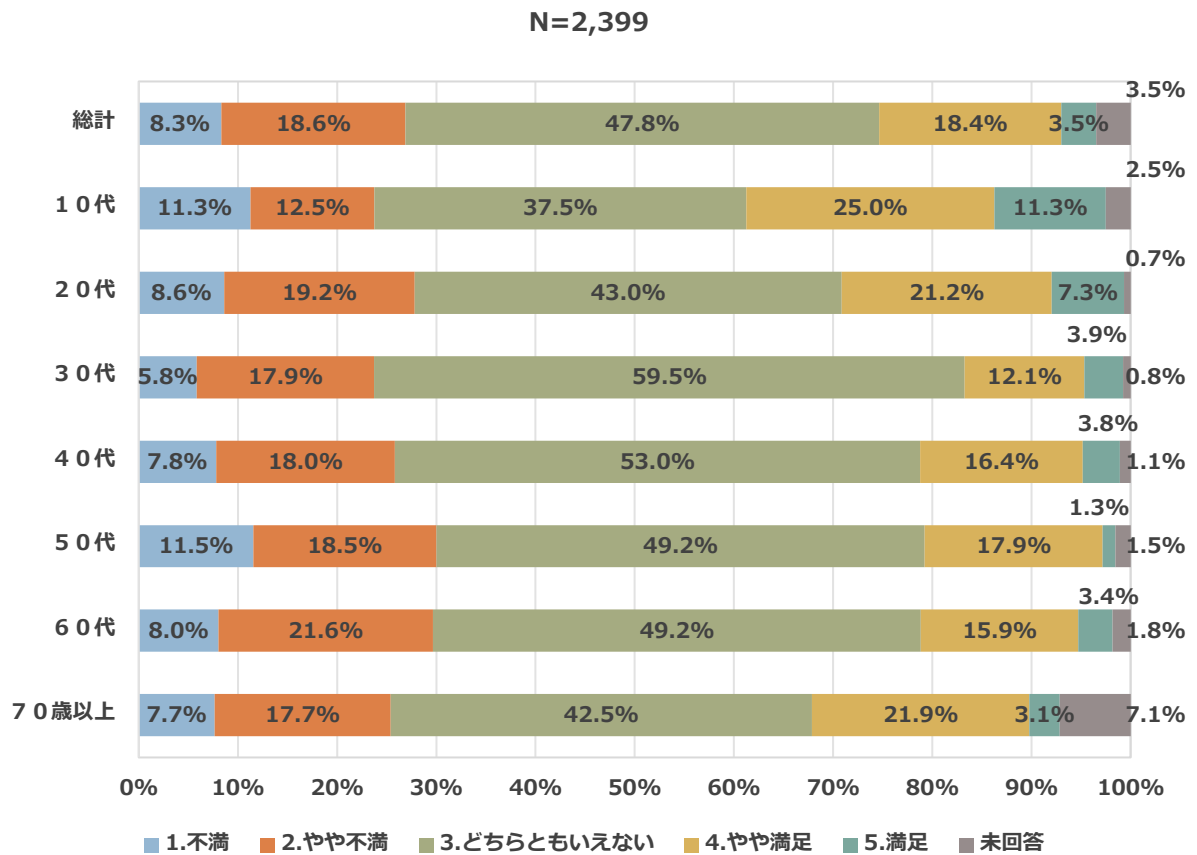


図 56 公共交通の充実に関する満足度について

(2) 市政アンケート

1) 概要

市政に対する市民の皆さんの考えや声を広くお聴きし、その結果を今後の市政運営に役立てるため、市政アンケートの回答結果を取りまとめました。その中で、公共交通（バス）に関する項目を抜粋しました。

2) 調査の手法・回答結果

実施時期：令和4年7月28日～令和4年8月20日

発送数：3,000 通

有効発送数：2,986 通（宛先不明 14 通）

有効回収数：1,259 通

回収率：42.2%（有効回収数/有効発送数）

3) バスの利用状況について

「利用しない」（72.7%）、「ほとんど利用しない」（19.7%）を除く『月に1日以上利用している人』は1割弱で、そのうち「月に1～2日程度」（5.0%）の割合が最も高くなっています。地域別でみると、津地域において、月に1回以上利用している人が1割近くを占めています。一方で久居地域、河芸・芸濃・美里・安濃地域の95%以上がほとんど利用しない現状となっています。

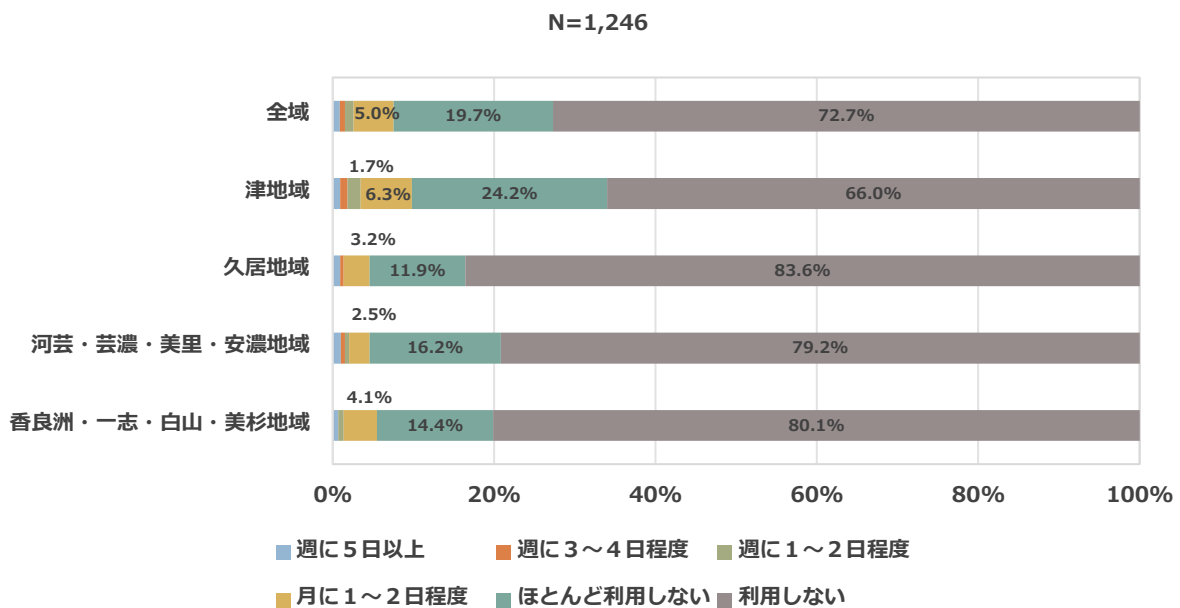


図 57 バス交通の利用状況

4) 利用するバス交通の種類

「利用しない」(72.0%)、「ほとんど利用しない」(19.5%)を除く『月に1日以上利用している人』は「民間路線バス」(88.0%)が最も高く、次いで「どちらも利用」(7.6%)、「津市コミュニティバス」(4.4%)と続いています。津地域では、「民間路線バス」の割合が9割を上回っており、河芸・芸濃・美里・安濃地域では、「津市コミュニティバスの割合」が1割を上回っており、香良洲・一志・白山・美杉地域では、「どちらも利用」が1割を上回っています。

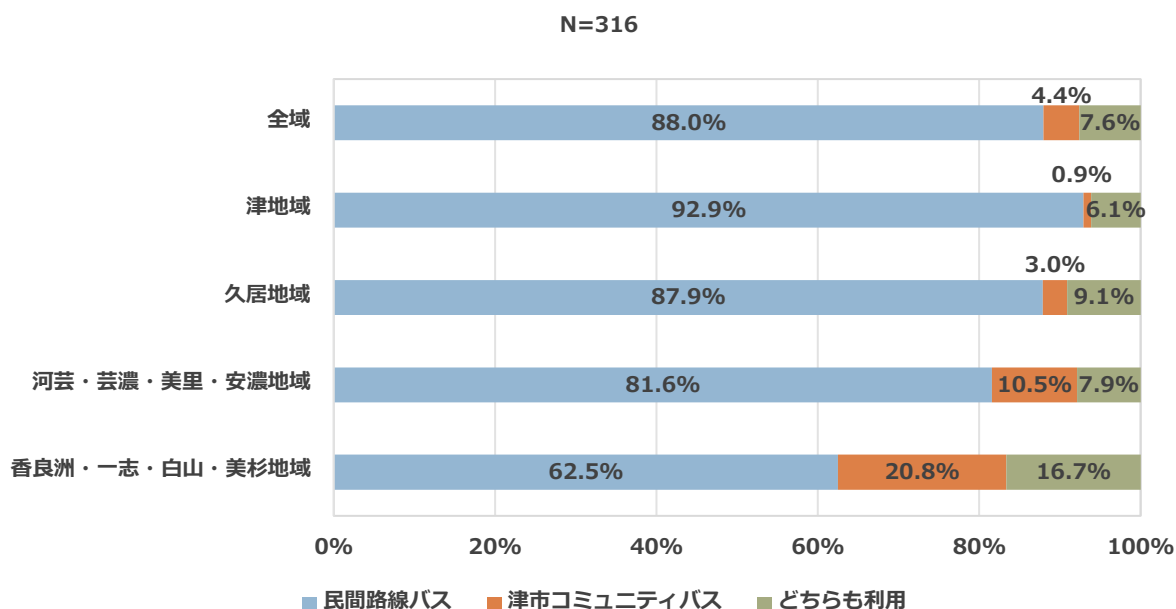


図 58 利用するバスの種類

5) バス交通を利用する際の目的地

「鉄道駅等」(56.3%)が最も高く、次いで、「医療施設」(25.5%)、「スーパー等の商業施設」(20.3%)と続いています。地域別でみると、津地域では「鉄道駅等」が最も高く、香良洲・一志・白山・美杉地域では、「スーパー等の商業施設」、「医療施設」、「市役所」、「金融機関」などの日常生活に関わる目的地の移動が、他の地域と比較して高くなっています。

年代別で見ても、全年代で「鉄道駅等」が最も高く、50代では68.6%となっています。10代では「学校」への移動が、60代、70代では「医療施設」への移動が、他の年代より高くなっています。

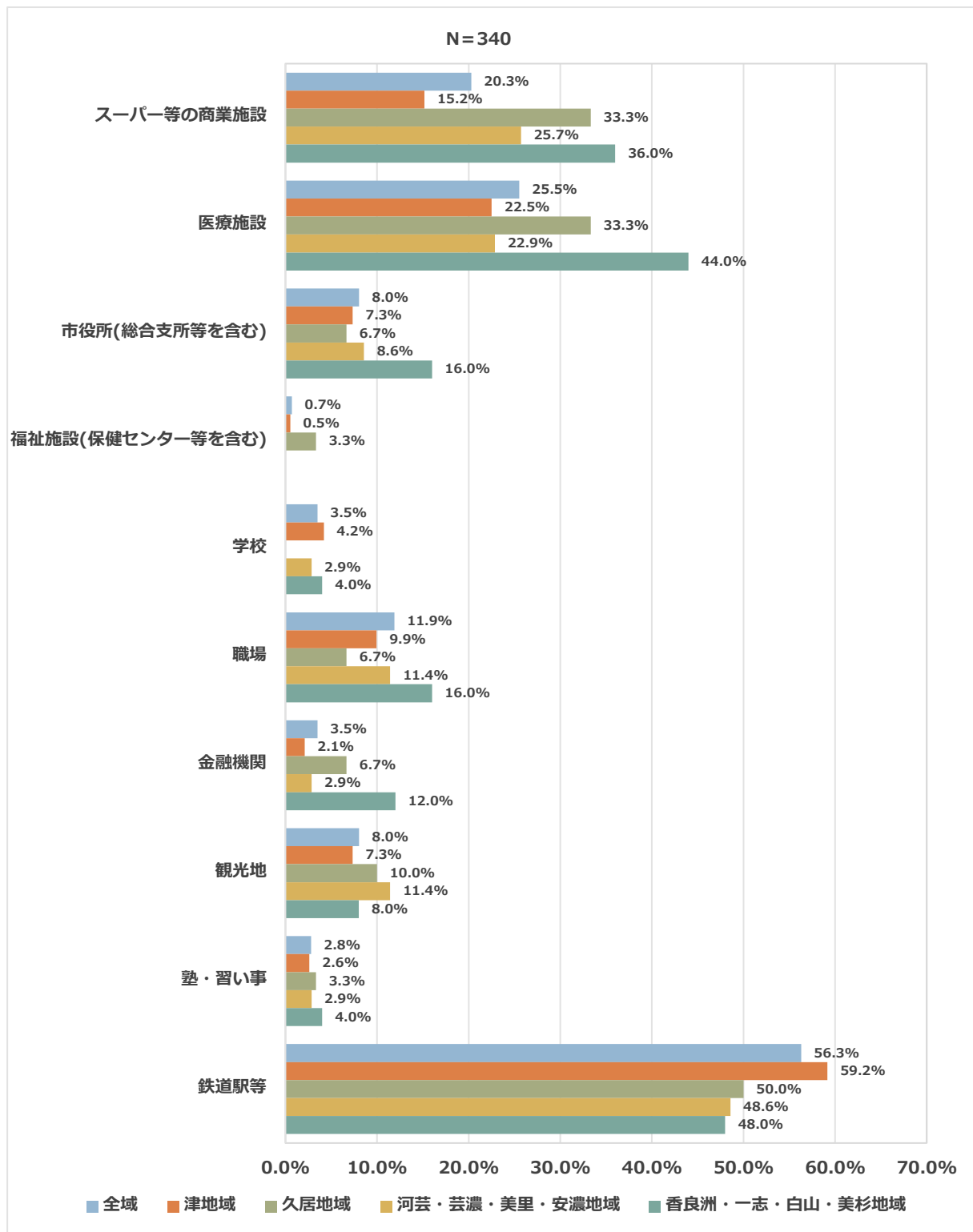


図 59 地域別バス交通を利用する際の目的地

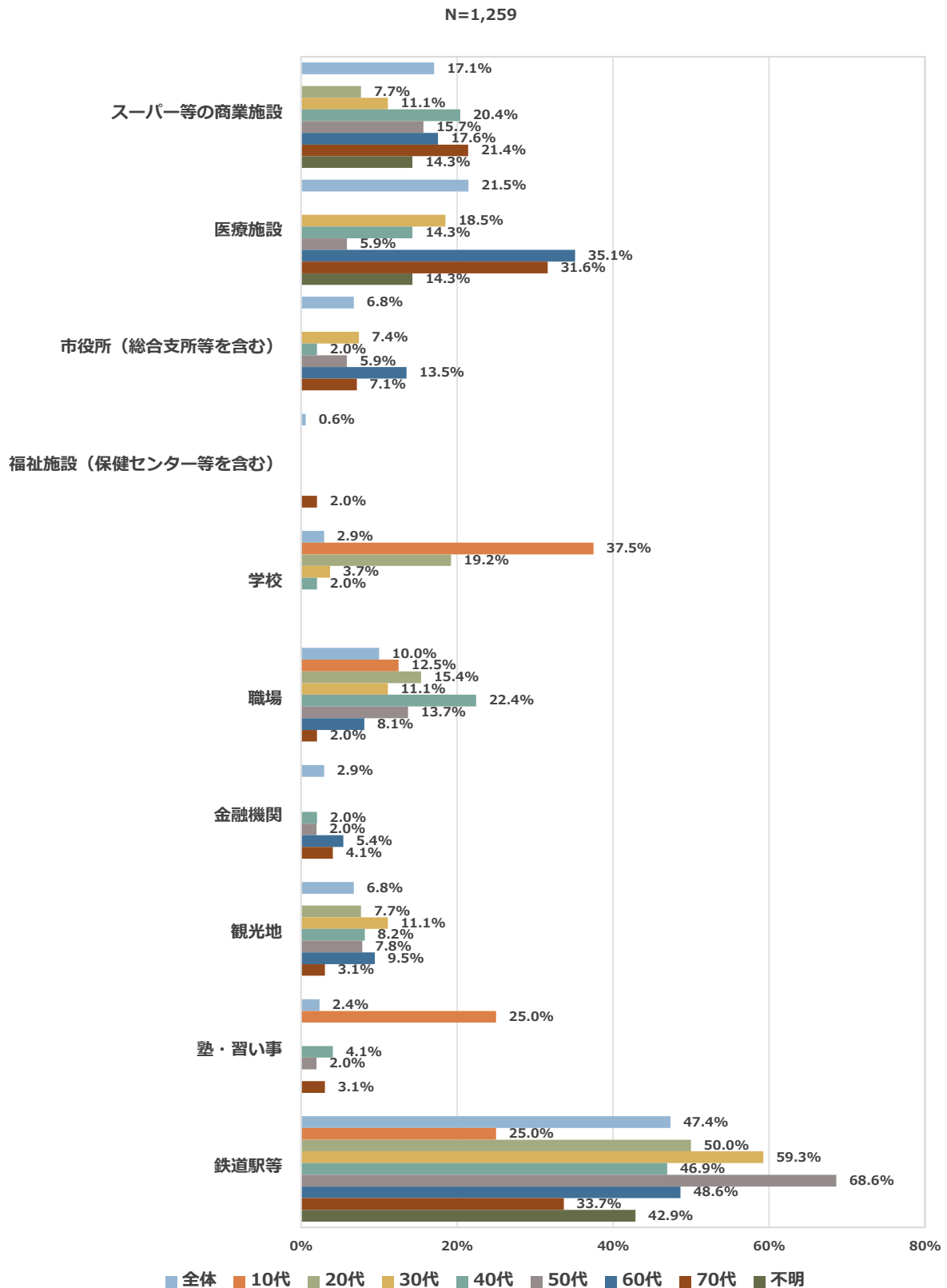


図 60 年代別バス交通を利用する際の目的地

6) バス交通について改善が必要なこと

「運行本数」(66.7%)が最も高く、次いで「自宅や目的地からバス停までの距離」(37.1%)、「運行時間」(34.4%)と続いています。また、地域別でみると、「運行本数」の割合が最も高く、河芸・芸濃・美里・安濃地域では、「運行時間」、「運賃」の割合が、他の地域と比べ高くなっています。

年齢別でみると、10代では「運賃」が他の年代より高くなっています。

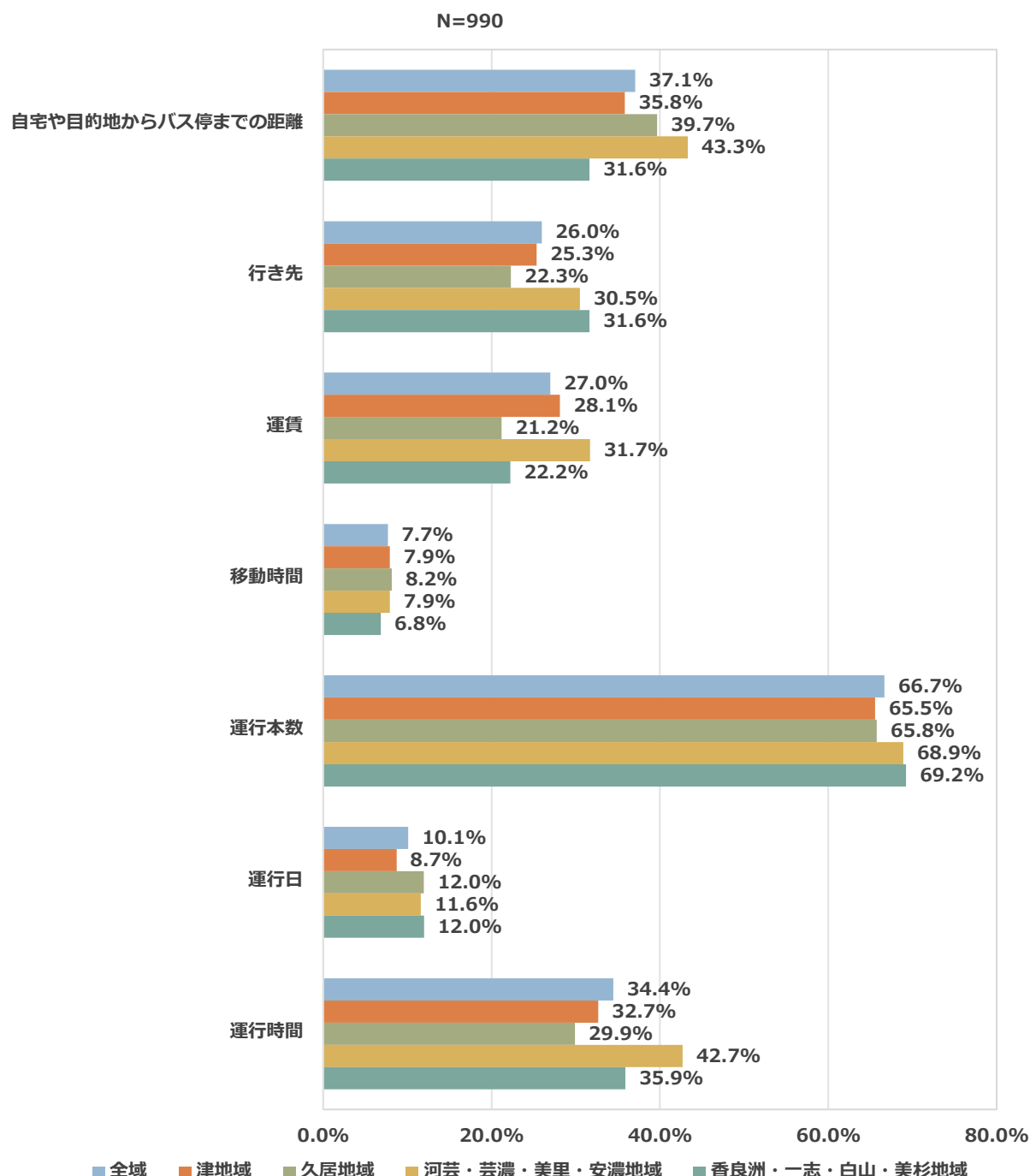


図 61 地域別バス交通について改善が必要なこと

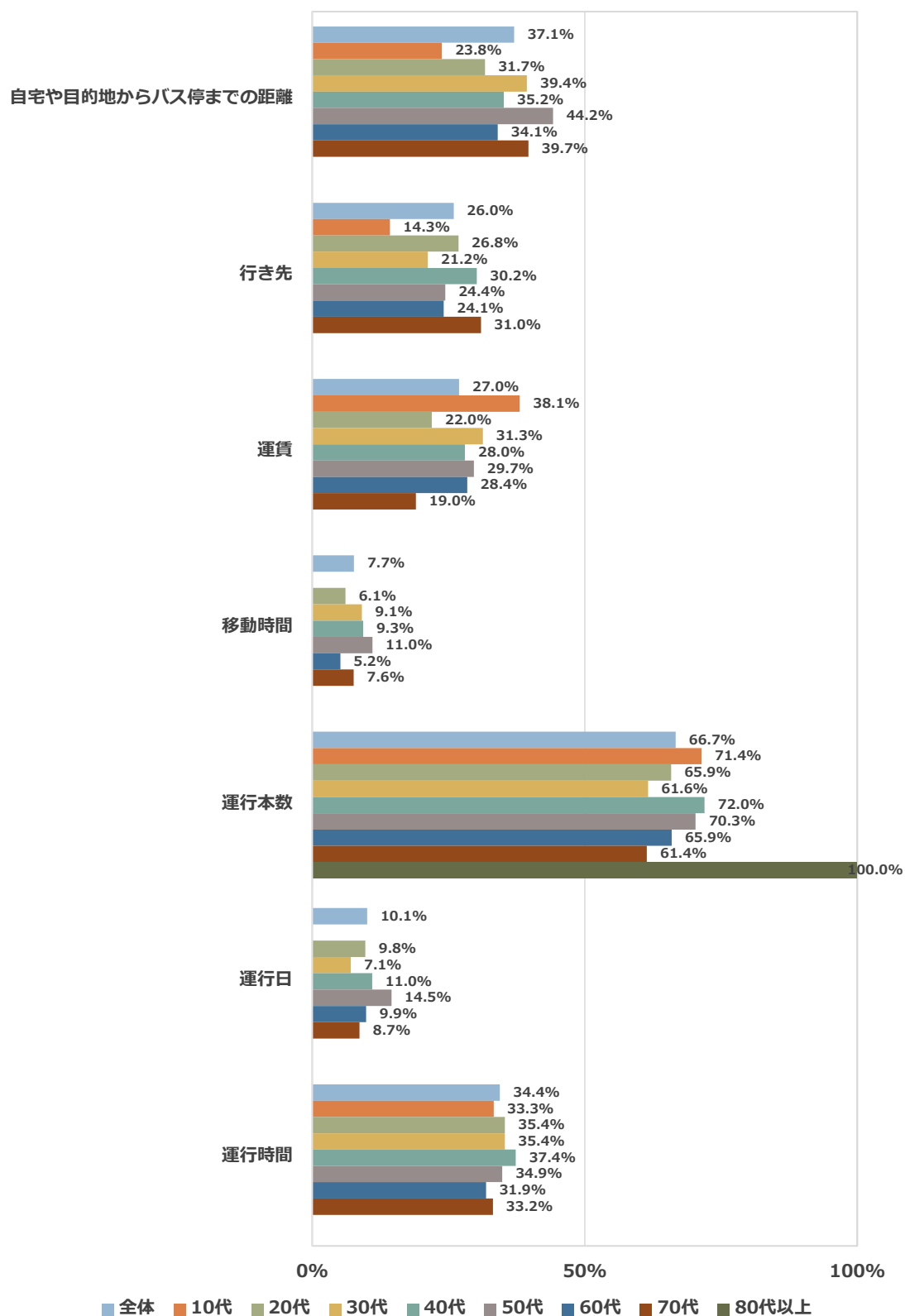


図 62 年代別バス交通について改善が必要なこと

7) 自動車の使用状況

「自分専用の自動車があり、いつでも利用できる」(76.3%)が最も高く、次いで「家族共用の自動車があり、必要な時に利用できる」(8.4%)が続いています。地域別で見ると、津地域の「自分専用の自動車があり、いつでも利用できる」割合が他の地域よりも低い一方、河芸・芸濃・美里・安濃地域では80%を超えています。

年代別で見ると、20代から70代までの「自分専用の自動車があり、いつでも利用できる」が65%以上となっています。10代では、「自分専用の自動車があり、いつでも利用できる」が23.8%と、総計に比べ低くなっているものの、「自分は運転しないが、家族に送迎してもらうなど、自動車を使用している」が33.3%と他の年代より高くなっています。

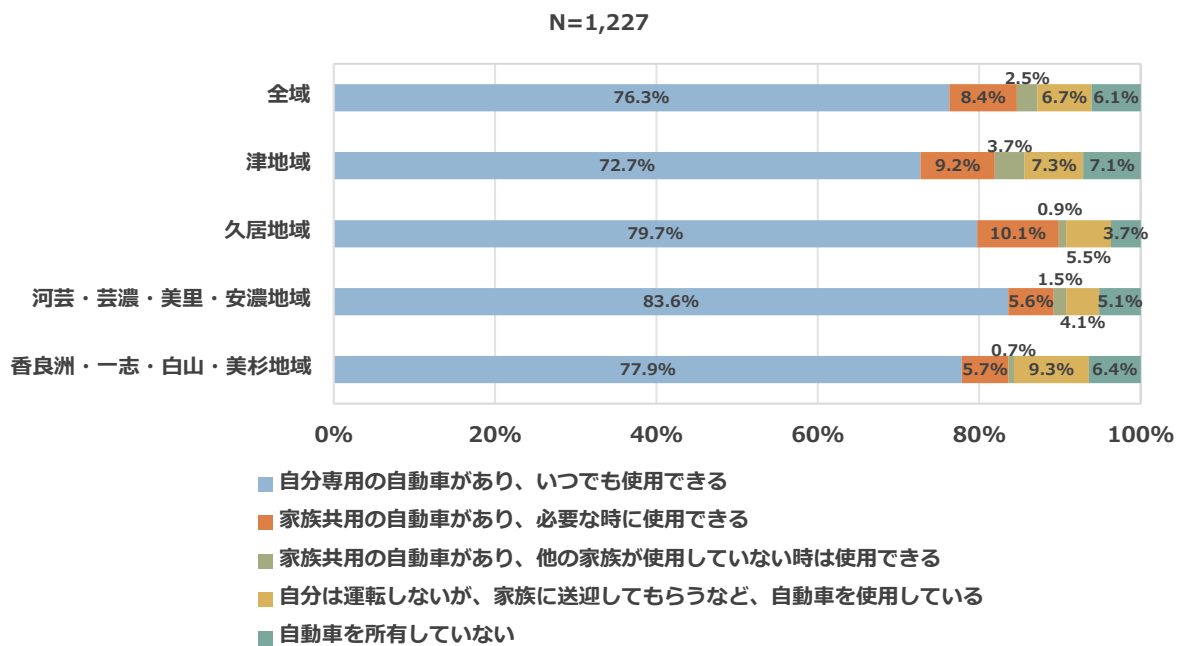


図 63 地域別自動車の使用状況

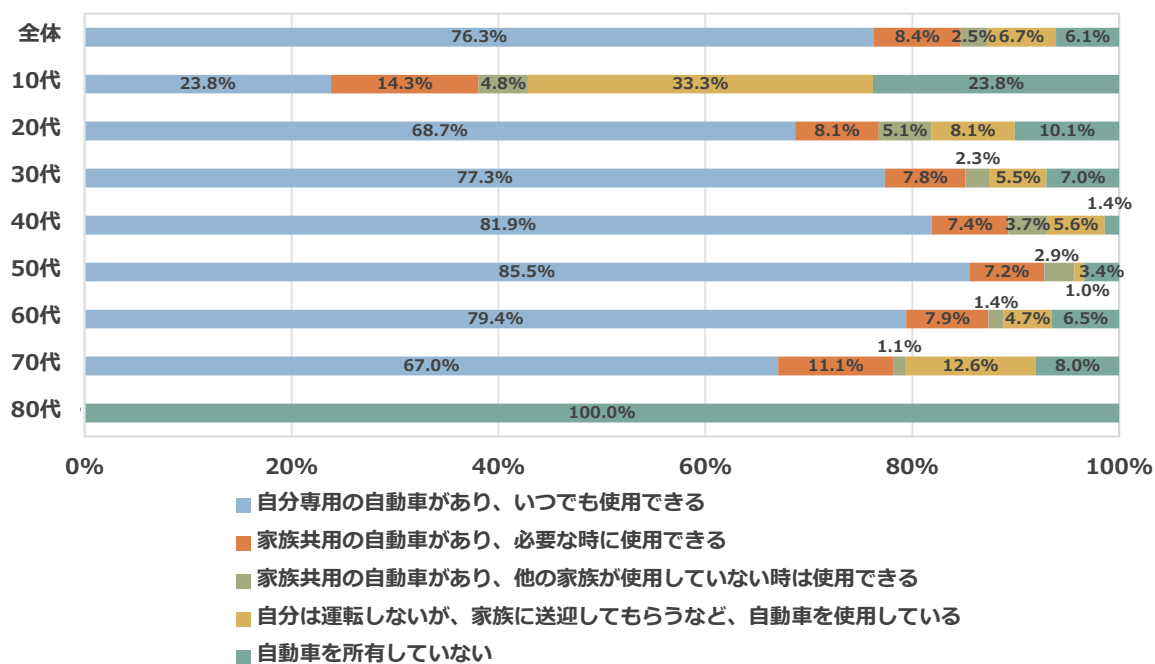


図 64 年齢別自動車の使用状況